

# 国民性の研究

## ——第Ⅲ次全国調査について——

鈴木 達 三

(1964 年 2 月 受 付)

### A Study of Japanese National Character

#### ——the third national survey——

Research Committee  
of the study of Japanese National Character

#### も く じ

##### はじめに

##### I 第Ⅲ次全国調査の結果の概要

##### II 研究方法の概要

###### 1 研究の経過

###### 2 文献と資料

###### 3 第Ⅲ次全国調査について

###### 3.1 第Ⅲ次全国調査の目的

###### 3.2 調査項目の選定

###### 3.3 調査項目の分類

###### 3.4 調査の計画、サンプリング

###### 3.5 調査の実施

###### 3.6 日程のあらまし

##### III 第Ⅲ次全国調査の結果（その 1）

###### ——調査全体を通してみたとき——

###### 1 意見の変化

###### 2 変化の実態

##### IV 第Ⅲ次全国調査の結果（その 2）

###### ——各質問別にみたとき——

###### 1 基本項目

###### 2 個人的態度

###### 3 宗 教

###### 4 子供・家

###### 5 身近な社会

###### 6 男女差別

###### 7 一般の社会的問題

###### i) 文明と人間性

###### ii) 個人と社会

###### iii) 法律の問題

###### iv) その他の項目

##### 8 政治的態度

##### 9 日本人・人種

###### i) 日本人の性格

###### ii) 日本と西洋の比較

###### iii) 立派な人物（偉人観）

##### V 再調査について ——パネル・スタディ——

###### 1 再調査のサンプリングと調査のやり方

###### 2 再調査サンプルの調査状況

###### 3 再調査の結果

###### 3.1 意見の割れ方の変化

###### 3.2 各質問ごとにみた同じ答・反対の答

###### 3.3 各サンプルは同じ答を 何問で 示しているか

###### 3.4 調査の記憶

##### VI 第Ⅲ次全国調査のサンプリングと調査不能

###### 1 サンプリング

###### 2 調査不能

##### 付 録

##### I 質問と単純集計

###### 調査項目一覧表（質問の索引をかねる）

###### 質問文と単純集計表

##### II 再調査の結果

##### English résumé

#### は じ め に

国民性の研究は 1953（昭和 28）年から始め、今回（1963 年）の全国調査は 1958（昭和 33）年について第 3 回目のものである。この間、準備調査および吟味調査は随時おこない結果の解析につとめている。

第Ⅲ次調査では、あたらしいサンプルを調査するとともに、1953 年におこなった第Ⅰ次全国調査のときに調査できたサンプルのうちのおよそ 1/2 を再調査することにして 10 年前と

今回の時間的横断面による結果分析のほかに、各個人が10年間を経過したために、意見がどう変化したかを直接分析できるようにしたのである。

この研究は、後述するメンバーで委員会をつくり、全員一体となって調査企画、実施、分析をおこなっているが、その運営には第2研究部第1研究室が当たっている。以下の分析は、第Ⅲ次全国調査の第1報であって、大要を示すにすぎない。西平重喜の分析による第Ⅴ章再調査の項を除いて、主として鈴木達三がおこなったものである。詳細な分析は順次発表するつもりである。

この第Ⅲ次全国調査にあたっては、全国17大学の諸先生および学生諸君をはじめ、いろいろな方々の協力を得ている。たとえどんなによい計画がたてられたにしても、これらの方々のご援助なしには、とうてい調査を実施することはできなかったであろう。

ここに諸先生方のお名前をあげて厚くお礼申し上げる次第である。(敬称は略させていただきます)

山元周行(北海道大)、羽賀与七郎(弘前大)、石川栄助(岩手大)、中谷千蔵、佐藤亮人(山形大)、大石潔(茨城大)、山梨進一、佐藤 宏(埼玉大)、西平直喜(山梨大)、丸山登(静岡大)、水原泰介(名古屋大)、高木重之(岐阜大)、小野真海(京都工芸大)、大石準一(協和広告)、安部栄造(関西学院大)、木村等(香川大)、久保良敏(広島大)、小野志真男(佐賀大)、三浦保寿(熊本大)、前田恒(鹿児島大)。

このほか、調査の実施には、法政大学世論研究会(井沢修、宮崎民雄ほか)、早稲田大学社会学研究会(植田厚生、竹内敬康ほか)、明治大学学生調査部(奥野義昭、川口嘉捷、佐藤満男、長谷川隆治)の学生諸君の協力をえた。

なお、調査委員のほか、準備調査には、統計数理研究所の丸山愛子、郷古輝子、雨宮多賀子、佐藤敬子、坂本静子、内山三郎、遠藤一夫、大久保八八、今野浩が参加し、全国調査には、内田良男、久保田晃、大場正男、吉田高志、杉浦正光、内田真男、吉橋明男および前記大久保、今野の諸氏の協力をえた。

また、第2研究部第1研究室の須藤慧子、渡辺知子および旧研究員越谷和子の3名は、調査企画の段階から、サンプリング、調査の実施、集計分析に至る調査全般にわたって終始下記調査委員を援助し研究を推進させた。

#### 調査委員会メンバー

末綱恕一、林知己夫、青山博次郎、石田正次、西平重喜、多賀保志、植松俊夫、鈴木達三。  
(林 知己夫記)

### I. 第Ⅲ次全国調査の結果の概要

この章では、第Ⅲ次全国調査の結果の概要をのべることにするが、そのまえに、全体的な見通しをよくするため、まず以下の各章の構成についてのべることにする。

この「国民性の研究」は、第Ⅱ章の研究手法の概要にものべてある通り、一般の国民の考え方を世論調査の形式で調査研究したものといえる。全国調査は1953年、1958年につづき今回(1963年)は第3回目になる。これまでの研究の経過については、第Ⅱ章§1にのべてあり、1963年の第Ⅲ次全国調査の企画と実施のあらましは§3にある。第Ⅲ章は第Ⅲ次全国調査の結果を全体的にみた場合、第Ⅳ章は個々の質問を中心にみた場合の分析についてのべてある。第Ⅴ章では再調査による個人の意見の変化のもようをのべ、第Ⅵ章では、第Ⅲ

次全国調査のサンプリングおよび調査状況、調査不能による影響など、おもに調査の技術的な面についてのべてある。

本文中では、説明のとき質問項目の全文をあげることをしないで、項目の見出し（略称）を使用したり、適当に省略している場合が多いので、付録の質問文と単純集計の項を参照されるよう希望する。なお、質問項目の一覧表（p 143）がその索引をかねている。

調査結果をひとまとめにして、いますぐ結論を与えることはできないが、以下にのべるような傾向がみられる。くわしくは第Ⅲ章以下を参照されたい。

まず、第Ⅲ次全国調査の結果を、これまでにこなわれた第Ⅰ次、第Ⅱ次全国調査の結果と比較しながら、全体的にみると、国民一般のものの考え方は、この10年の間にあまり変化していないということができよう。しかし、質問が新しい型の意見、古い型の意見と分けて考えることのできるような項目のうち、2, 3の質問項目では、のちにのべるようにやや変化のみられるものもあり、その変化の方向も、いわゆる新らしい、合理的ともいえる意見の方向に少しずつ動いている。これは、第Ⅰ次調査と第Ⅱ次調査との間でみられた変化の傾向と同じであり、このような質問項目からみられる範囲では、この5年、あるいは10年の間に国民のものの考え方はごくわずかずつではあるが、いわゆる新らしい、合理的ともいえる意見の方向に向いつつあるともいえよう。

そして、これらの変化は、5年前や10年前にくらべて、新らしい時代の人々のしめる割合が相対的に多くなったからというよりは、老いも若かきも全体の人々の意見が変わったためにひき起されているとみられる場合が多いのである。

つぎに、これらのものようにして、いまだ少しこまかくのべると、

1) 意見や態度の項目で3回の調査とも、継続して調査した質問は16項目あるが、ほとんど答の数字が動かなかったのは、‘しきたりに従うか、正しいと思うことをおし通すか’で、‘おし通せ’というものが第Ⅰ次調査では41%、第Ⅱ次調査では41%、第Ⅲ次調査では40%（以下この順に%のみならべる）で、‘従え’というものはそれぞれ35%、35%、32%になっている。このほか、‘社会のためにつくした人に勲章と、賞金のどちらをだすべきか’をきく質問、‘めんどろをみしてくれる課長の下で働くのがよいかどうか’をきく質問の答もそれほど変化していない。

2) 変化の幅の大きな項目のうち、増加の傾向のいちじるしいものは、‘あたらしく総理大臣になったとき、伊勢神宮に参拝した方がよいかどうか’という質問で、参拝するのは‘本人の自由’であるというもの（23%、27%、41%）と、‘子供がないときは他人の子供でも養子にとって家をつがせるかどうか’という質問で‘つがせない’と答えたもの（16%、21%、32%）であり、ともに15%以上の変化がある。減少傾向のいちじるしいものは、いまのべた‘首相の伊勢参り’で‘行った方がよい’というもの（50%、33%、28%）、‘他人の子供を養子につがせるか’で‘つがせる’というもの（73%、63%、51%）で、この10年間にいずれも20%以上へっている。

3) この他、変化の幅の大きかった質問項目をみると、6つのくらし方のタイプのうち、どのタイプにするかをたずねた質問で‘毎日を清く正しくくらす’と答えたもの（29%、23%、18%）、また‘日本の国をよくするためには政治をすぐれた政治家にまかせるのがよいか’で‘まかせる’と答えたもの（43%、35%、29%）、がいずれも10%以上減少している。

また、各質問項目における結果の概要を、だいたい質問の種類別\*にまとめてみるとつぎの

\*）国民性の調査の質問の分類基準により、第Ⅳ章および付録の質問の配列もほぼこの順になっている。

ようになる。

4) 個人の属性をみる基本項目——性別、年齢別、学歴別、地方別、市郡別——についてみると、調査できたサンプルの構成は、国勢調査の結果とほぼ一致しており、記述的にみて、サンプルは全国民をよく代表していることが示されている。

5) ‘しきたりに従うか、正しいと思うことはおし通すか’という質問や‘正しいと思えば反対をおし切って実行する人と、反対があればとりやめる人のどちらが望ましいか’という質問では、第Ⅱ次調査と第Ⅲ次調査の間にほとんど変化はみられないし、‘しきたりに従うか’は上にものべた通り、3回の調査でほとんど変化のなかった、ただ一つの項目になっているので、人々のこの方面に関する意見はほとんど動いていないといえよう。この点は全体的な変化の傾向とくらべ、注目してよいことと思われる。

6) 人々のくらし方のタイプについての質問では‘趣味にあったくらしをする’というものが増加し‘毎日を清く正しくくらす’というものがへっている。また、‘人間は自然に従うべきか、利用すべきか、征服すべきか’では‘従う’がへる傾向にあり、‘征服’がふえているので、やや積極的な面もみられるようである。しかし、あいかわらず‘自然を利用する’と答えるものが40%で一番多くなっている。

7) 宗教に関する項目のうち、宗教を信じているものの割合は第Ⅱ次調査とほとんど変わらない。信者のうち、いわゆる熱心な信者はおよそ3分の1である。また、ほとんど大部分の人はあいかわらず‘宗教的な心’は大切と考えている。宗教に関連して、‘あたらしき総理大臣になったとき伊勢神宮に参拝した方がよいかどうか’をたずねると、結果はすでにのべた通り、この10年の間に大きく変り、10年前に多数意見であった‘行った方がよい’はへり、‘本人の自由’という意見が大きくふえている。しかし、‘行かない方がよい’、‘行くべきではない’というものは、いつもそれほど多くなく、あわせて8%, 17%, 14%となっている。

8) 子供や家にかんする項目のうち、子供の育て方にかんするものでは、意見はやや新らしいといわれる方向に動いている。たとえば、先生が悪いことをしたというような話を、子供が親にたずねた場合、親としては‘肯定すべきだ’というものがややふえ、‘否定すべきだ’というものはへっていて、第Ⅰ次、第Ⅱ次調査の結果では、両者がほぼ半々であったのにくらべ、やや新らしい方向に動いている。

9) 家にかんする項目も変化が大きい。すでにのべたように‘他人の子供を養子にするか’という質問は、3回に共通な質問のうちでも変化の幅が大きく、‘つがせる’というものが大きく減少しており、反対に‘つがせない’というものが大きくふえている。しかし、まだ半数(51%)が‘つがせる’と答えているのは注目すべきことである。

結婚式・葬式を盛大にするのは‘よくない’というもの、あるいは‘身分相応にやれ’というものは、第Ⅰ次調査ではそれぞれ31%, 48%で‘身分相応’が多かったが、第Ⅱ次調査ではそれぞれ48%, 38%となり、逆に‘よくない’というものが多くなり、第Ⅲ次調査ではそれぞれ35%, 52%でまた‘身分相応にやれ’というものが多くなっていて一定しないし、変動の幅も大きく、いつも10%以上になっている。

10) ‘恩返し’に関連して、だいいな会議があるときに、恩人が危篤になった場合と父親が危篤になった場合の両方を質問してくらべてみると、見舞いに帰る割合は、恩人の場合も親の場合もともに50%前後でほとんど変らない。また、第Ⅲ次調査では、見舞いに帰る割合と、会議に出る割合はどの場合もほぼ半々になっている(恩人の場合46%ずつ、親の場合45%と47%)。しかし、一方新しくつくった質問で、‘職員を一人採用する入社試験のときに、成績が一番の人を採用すべきか、二番であった親戚の子をとるべきか’という質問と、‘成績一番の人をとるか、二番であった恩人の子をとるか’、という質問をしてくらべてみると、両方の質問

で一貫して‘成績通り一番の人を入社させる’というものは46%、‘二番の親戚の子より一番の人を採用すると答えたが、恩人の子なら二番でも採用する’と答えたものは25%、‘一貫して一番の人より二番であった親戚（あるいは恩人）の子を採用する’というものは17%になる。したがって、これらの‘危篤’の質問と‘入社’の質問に対する人々の態度は、かなり異なってくるようにみえる。これは設定された場面のちがいによると思われる、いろいろに解釈することもできようが、この点についてはさらに分析が必要であろう。

11) 戦前に尊重された「親孝行」、「恩返し」と、戦後よくいわれるようになった「個人の権利を尊重すること」、「個人の自由を尊重すること」の四つをあげて、大切と思うものを二つえらばせる新質問では、「親孝行」をあげるものが61%、「恩返し」43%、「権利の尊重」48%、「自由の尊重」40%になり、これを組合せでみると、「親孝行」、「恩返し」をあげた。いわば戦前型のもものは28%、「権利の尊重」、「自由の尊重」をあげた、いわば戦後型のもものは21%で、前者から一つ、後方から一つという組合せが46%になっている。

12) つぎに、いまの日本人を戦前の日本人とくらべてみると「親孝行」は戦前よりしなくなったと思うものは70%、「恩返し」はしなくなったと思うものは66%、逆に「個人の権利」を尊重するようになったというものは76%になる。

すなわち、これらの事柄は、たしかに戦前・戦後の社会生活にある意味で特徴づけているように受けとられている。

13) 無理をいってもよくめんどろをみしてくれる課長は、無理はいわないが仕事以外ではめんどろをみない課長よりずっと人気があり、調査結果はやや変動しているが、第Ⅰ次調査以来あいかわらず大多数意見\* (85%, 77%, 82%) のひとつである。

14) ‘生まれかわるとしたら、男と女のどちらがよいか’という質問では、男のサンプルの結果はあまり変わらないが、女のサンプルで‘女に生まれるたい’と答えるものが第Ⅱ次調査よりややふえている(第Ⅱ次の27%から36%に)。

また、男、女のおかれている社会環境の差異をひとくちにいうと、男のサンプルも女のサンプルも自分たちの方が‘苦労が多い’と答えるものがそう思わないものよりいくらか多い。しかし、‘楽しみ’という点では男のサンプルも女のサンプルも大半が‘男の方が楽しみが多い’と答えている。

15) 機械文明の進歩に伴って、人間性が失われていくかどうかをみる質問は二つとも3回の調査に共通であるが、ほんのわずかではあるが、‘人間性は失われていく’という意見が強くなっていく傾向にある。

また、‘社会や人類のためにつくした人に勲章と賞金のどちらを出すべきか’をきく質問では、‘勲章’54%、‘賞金’27%で第Ⅱ次調査とまったく同じである。

人々の職業によって社会的価値に差はあるかどうかという質問では、3回の調査結果は、やや変動しているがそれほどの変化はみられない。

16) 法律をつくるときの方をとり上げてみると、‘おたがいにぐあいよく生活できるようにつくるべきである’という答と‘世の中に正義がおこなわれるようにつくるべきである’という答えがそれぞれ半々(45%と46%)になる。

17) ‘日本の国をよくするためには政治をすぐれた政治家にまかせるか’という質問では‘まかせる’というものがへり、‘まかせない’がふえる傾向にあり、第Ⅰ次調査と第Ⅱ次調査の間の変化と同じようすをしめして変化の幅もかなり大きい。

18) ‘民主主義」、「資本主義」、「自由主義」、「社会主義」はよいかどうかをひとつひとつきくと、‘民主主義’を‘よい’と思うものは38%で一番多く、ついで‘自由主義’(24%)、‘資本主義’(19%)、‘社会主義’(15%)の順である。この質問と、これらの‘・・・主義’という言葉の印象をみた第Ⅱ次調査の質問の結果をくらべてみると、‘よい感じ’というものは

\* ) 大多数意見とは全体として70%以上で性別、年齢別、学歴別などにみたときどの集団でもほぼ70%以上の人々があげている意見(文献10を参照せよ)。

「民主主義」が 55% で 1 位, ついで「自由主義」, 「社会主義」は同じくらいであり, 「資本主義」は 12% で一番少くなっている。

これからみると, 資本主義はどちらの質問でもあまりよいと思われていないし, 社会主義は言葉の印象はそれほど悪くないが‘よい’と思うものは少なくなっている。

19) 特殊な職業(地位)にある人を問題にした質問のうち科学者と政治の関係については‘政治性も必要’というものがややふえ, ‘校長の礼服’もわずかではあるが‘不用’というものの方が多くなってきている。

20) 日本人の性質について, 長所・短所とも, それぞれ 10 項目ずつをあげて, えらばせると, どの場合も, 古くから, いわゆる日本人の性質としてあげられている項目が多くえらばれる。長所では第Ⅱ次調査同様‘勤勉’, ‘ねばり強い’, ‘礼儀正しい’, ‘親切’などが多い。今回始めてとりあげた短所では‘気が短い’(52%), ‘熱しやすくさめやすい’(49%), ‘島国的’(42%), ‘模倣的’(29%)などが多くあげられている。

21) 日本の庭と西洋の庭の写真を見せると, 前者はあいかわらず人気があり, 大多数意見(79%, 78%, 85%)のひとつになっている。‘日本人と西洋人とどちらがすぐれているか’という質問をみると 10 年前には‘劣っている’というものが 28% で‘すぐれている’というものの(20%)より多かったが, 第Ⅲ次調査では‘日本人がすぐれている’というものが 33% に増加し, ‘劣っている’というもの(14%)よりずっと多くなってくる。

そして, ‘すぐれた人種’をえらばせると第Ⅱ次調査の結果とほぼ同じで, 日本人をあげるものがやはり最も多く, アメリカ人, ドイツ人がほぼ同じで 50% 前後にならび, 以下はイギリス人, ロシア人, フランス人などの順となり第Ⅱ次調査と同順である。

22) 立派な人物は第Ⅲ次調査で, はじめて全国調査をおこなった。22 人の歴史上有名と思われる人物の名を名刺大のカードに印刷して, ‘非常に立派な人物と思う’, ‘まあ立派な人物と思う’, ‘それほど立派な人物とは思えない’, ‘立派な人物とはとても思えない’, ‘この人物のことはよく知らない’のそれぞれに分類(評価)させるとつぎようになる。

‘非常に立派な人物と思う’に分類された比率の高い順にみると, 野口英世(68%), 二宮尊徳(65%), 明治天皇(65%), 聖徳太子(65%)が 60% 以上になり, 湯川秀樹(59%), 福沢諭吉(53%), 乃木希典(50%)が 50% 台, 以下弘法大師(47%), 西郷隆盛(46%), 伊藤博文(43%), 東郷平八郎(41%)が 40% 台, 楠木正成(37%), 豊臣秀吉(37%), 徳川家康(33%), 菅原道真(31%), 吉田松陰(30%)とつづき, 以下, 新井白石(24%), 中江藤樹(20%), 原 敬(16%), 源頼朝(14%), 伊能忠敬(14%)とならび, 一番人気のないのは足利尊氏(7%)である。

また伊能忠敬は 61% のサンプルから, ‘この人物のことはよく知らない’とされているが, 以下, 中江藤樹(54%), 原 敬(49%), 新井白石(46%), 吉田松陰(40%)が 40% 以上であった。

この立派な人物をえらばせる質問は, 1959 年におこなわれた岐阜吟味調査でも, 調査の形式をかえて質問されている。質問の形式も少しちがうし, 人物も 18 人だったが, 調査結果はよくにており, 人々のもつ偉人観ともいうべきものは, 質問の形式を多少かえたくらいでは, 変化はなくこのようなものであらうと考えられる。

全国調査と並行して, 第Ⅰ次全国調査のサンプルを, それから 10 年たった今回, 再調査をした。これによって, 10 歳年をとることによって, 個人の意見がどう変化したかをみようというのである。その結果, つぎのようなことが分かった。

23) 全国調査と同様に, いわゆる伝統的, ないしは古い日本的な意見は減少し, いわば新しい合理的ともいえる意見が増加する傾向がある。ただし, その変化は全国調査よりは小さめである。それは, 再調査サンプルが, 10 年前の 20 歳以上, すなわち現在 30 歳以上の人達であったからであらう。

24) 10年前と同じ答がいちばん多かった質問は、‘めんどろをみる課長’であって、78%の人が10年前と同じ答をしている。しかし、同じ答の%が高かった質問は、サンプルの答が一部のカテゴリに集中している場合に多い。このことから、答の一致している割合の大小だけをみてどの項目では個人の意見が安定しているとか、不安定であるとかいえないことが分かる。

なお10年前とは全く反対の意見になってしまったものは、‘恩人がキトクのとき故郷に帰るか、会議に出るか’という質問で最も高く、38%である。ちなみに、支持政党が保守・革新の間で変わったものは10%であった。

25) 10年前と今回とで、同じ27の質問を通じて、全員を平均すると12.4問、すなわち半分以下の質問でしか、同じ答をしていない。同じ答は男や高学歴のものに比較的に多く、年齢には関係なかった。

## II. 研究方法の概要

### 1 研究の経過

日本人の国民性については、これまでいろいろのべられているし、その研究方法についてもいろいろあろうが、われわれは統計的調査を通して、この問題をとり上げることにした。これまでの国民性の研究の多くは、格言や作品、資料を通して解釈的におこなわれてきたものであるが、われわれは、一般の日本人が実際どう考えているかという国民自身の考え方を調査する方法をとった。

すなわち、われわれが、この報告書で「国民性」と呼んでいるのは、日本人のものの考え方とでもいうべきものであり、簡単にいえば、一般の人々が日常生活で話題にとりあげるような社会の出来事を中心にして、それらについての意見や態度を、世論調査の形式で調査研究したものといえよう。

いままでにとり上げられている日本人の性格というようなものには一面的な見方であったり、特殊な人の特異な行動だけにもとづくものが多く、日本人全体の性格をかならずしも適切にのべているものではない。そこで、このような研究を必要と考えるようになったのである。

もちろん、日本人の性格なり、考え方の研究に対しては、われわれの研究とともに、これまでの方法による研究も大いに必要であろうが、われわれの調査研究が、ひとつの先例となり、今後広く実証的研究がおこなわれることを期待するものである。

いまのべたように、われわれは「国民性の研究」を統計調査を通しておこなうことにした。統計調査の仕方いろいろあるが、われわれは、これまでの社会調査法の研究結果からみて、最もすぐれていると思われる、一対一の面接調査法によりおこなうことにした。したがって、調査の項目は、面接調査に適当と思われるものに限定せざるを得なかったが、項目の選択にあたっては可能な限り客観的な方法をとった。くわしい手続きについてはここでは省略する(文献10をみよ)が、まず日本人についてのべられている本や文献から、日本人の性格、意見、態度としてあげられていることを書きぬき、これを整理して項目をしぼり、準備調査をおこなって、質問項目を決定したのである。

このように「国民性の研究」は、全国民を対象とする意見や態度の調査にもとづくものであるが、このような研究は1回や2回の調査で完成するものではない。われわれはいままでに、1953年に第Ⅰ次全国調査をおこない、5年たった1958年に第Ⅱ次の全国調査をおこない、1963年に第3回目の全国調査をおこなっている。その他、これらの全国調査をおこなうため、各種の準備調査や吟味調査をおこなっている。

これらの調査のうち、おもなものを一覧すると、つぎのようである。

第1表 おもな調査の一覧表

調査年月	調査名	略称	備考
1953, 2~3月	東京準備調査	準備	第I次全国調査の調査項目を決定するため
1953, 4~5月	第I次全国調査	全 国・I	第1回目の全国調査
1958, 11~12月	第II次全国調査	全 国・II	第2回目の全国調査(時間的変化・個人の意見の変化)
1959, 12月	岐阜吟味調査	岐 阜 1959	第I次, 第II次全国調査の結果を解釈するため岐阜市でおこなった吟味調査
1963, 6月	岐阜準備調査	岐 阜 1963	第III次全国調査をよりよくおこなうため岐阜市でおこなった準備調査
1963, 10~11月	第III次全国調査	全 国・III	第3回目の全国調査(この報告書)

以上の諸調査のうち, 第III次全国調査以外は, それぞれ報告書ができていたので, それを参照されたい(つぎの文献の項をみよ). 以下, われわれは 1963 年におこなわれた, 第III次全国調査の概要をのべようと思う.

## 2 文献と資料

いままでのわれわれの国民性の研究について, 印刷されたものは, つぎのとおりである.

### 第I次調査について

1. 林 知己夫: 「国民性の研究」『教育統計』第30号 1954年, 文部省調査局
2. 林 他: 「わが国民性の統計数理的研究」『日本統計学会年報』1953年
3. Hayashi et al.: A study of Japanese National Character, "Ann. Inst. Statist. Math." Sup. I, 1959.

### 第I, II次調査について

4. 「国民性の研究」, 『数研研究リポート』No. 5, 6, 1959年.
5. 「岐阜吟味調査」, 『数研研究リポート』No. 7, 1960年.
6. 西平重喜: 「日本人のものの考え方」『経済評論』1959年8月臨時増刊号
7. 林 知己夫: 「日本人の国民性」『自由』1960年1月号
8. 西平重喜, 鈴木達三: 「わが国民性の統計的研究第2次調査」, 『日本統計学会年報』1959年.
9. Research Committee: A study of Japanese National Character, Second Survey. "Ann. Inst. Statist. Math.", Sup. II, 1960.
10. 統計数理研究所国民性調査委員会: 『日本人の国民性』至誠堂 1961年8月.
11. 西平重喜: 『日本人の意見』誠信書房 1963年.

### 第III次調査の準備

12. 「岐阜調査 1963」, 『数研研究リポート』No. 8, 1963年.

## 3 第III次全国調査について

### 3.1 第III次全国調査の目的

われわれはすでに2回の全国調査をおこない, 日本人のものの考え方についていろいろ研究してきた. これまでの結果はすでにのべた通り, くわしい報告書がでているが, 1963年は第1回目の全国調査をおこなってから, 丁度10年目にあたるので, 再び同じ趣旨の全国調査を実施した.



この第Ⅲ次全国調査は、この5年、10年の間に国民の考え方に変化があったかどうかを研究することと、さらに調査の項目をふやし、資料の拡充をはかることを主な目的としているが、さらに各個人の意見が、この10年間にどのように変化したかを研究するため、第Ⅰ次全国調査のとき調査できた人々に、再調査をおこなってみた（第Ⅴ章再調査の結果参照）。

このため第Ⅲ次全国調査は、つぎのような方針で、調査を実施することになった。

### 3.2 調査項目の選定

調査項目の選定にあたっては

1) これまでにおこなった第Ⅰ次、第Ⅱ次全国調査にとり上げた質問項目のうち、2度とも継続してとり上げられた質問は、原則として第Ⅲ次調査にもとり上げることにした。これは、人々の考え方の変化、時勢の変化をみるという点からとりあげたものであり、どのような質問項目では時勢の影響が強いのか、どのような質問では時勢の変化に影響されないかということより一層明らかにしようと考えたのである。

このうち、過去2回の全国調査において、すなわち、第Ⅰ次、第Ⅱ次調査のおこなわれた5年の間に、

ほとんど変化のみられなかった質問項目	7 項目
いわゆる新らしい、合理的ともいえる考え方の方へ変化したと思われる質問項目	5 項目
変化はしたが、質問項目が、いまのべたような新らしい、古るいという観点とは異なるので変化の方向を考えることが無意味な質問項目	3 項目

をとり上げて、第Ⅲ次全国調査での模様をみようとして計画した。また、

2) 宗教に関する質問項目は第Ⅱ次全国調査でとりあげられているが、これを、さらに深く分析することにした

3) 身近な社会に関する問題のうち、いわゆる義理人情にたいする態度については、これまでも、いろいろな質問項目をとり上げたが、より一層の分析を進めるため、新しく質問項目を作成して、新らしい観点から、恩返し、親孝行、個人の権利の尊重などに関する考え方を追求することにした。

4) このほか、法律の作り方に関する意見、政治体制に対する態度、日本人全般についての性格の判断、すぐれた人種、立派な人物に対する判断などをみることにより、ひろく日本人のものの考え方を知ることを計画した。

### 3.3 調査項目の分類

このようにして計画された質問項目を、過去2回の全国調査と関連させてみると、

3 回の全国調査とも継続して調査する質問項目	18 項目
第Ⅰ次調査と第Ⅲ次調査の2回調査する質問項目	4 項目
第Ⅱ次調査と第Ⅲ次調査の2回調査する質問項目	9 項目
新らしい質問項目（うち第Ⅱ次調査と関連のあるもの4項目）	15 項目

となる。これらの質問項目のうち、新らしい質問項目は、第Ⅲ次全国調査を実施するに先立って、岐阜市でおこなわれた準備調査において、十分検討を加えている（文献 12 参照）

このように第Ⅲ次全国調査の質問項目は 46 項目になるが、これを質問として扱った現象によってまとめてみると、つぎのようになる\*（この分類は文献 10 と同じであるから、くわしくはそれを参照されたい）。

1. 基本項目（個人の属性、性、年令、学歴、職業など） 6 項目
2. 個人的態度（＃2.1‘しきたりに従うか’\*などのように、主として個人の生活態度を扱

\* このように質問項目をとりあげるときはすべて＃2.1などと＃番号をつけてしめす。番号の後の‘ ’の中はその質問の見出しである。見出しからの判断をやめて、くわしくは付録の同番号の質問文を参照されたい。なお、この＃番号は、国民性の研究の報告書に共通な質問の整理番号であり、文献 10 と同一にとってあるので、第Ⅰ次、第Ⅱ次全国調査の結果と対照するときには、同番号のものをさがせばよい。

- ったもの) 5 項目
3. 宗教 (#3.1 ‘宗教を信じるか’ など主として宗教にかんする項目) 4 項目
  4. 子供・家 (#4.4 ‘先生が悪いことをした’, #4.10 ‘他人の子供を養子にするか’ など主として子供のしつけ, 家の問題にかんする項目) 4 項目
  5. 身近な社会 (#5.1 ‘恩人がキトクするとき’ などのように, だれでもが経験することのありそうな身近かな社会の問題) 8 項目
  6. 男女差別 (#6.2 ‘男・女の生まれかわり’ などおもに男女差別の問題) 3 項目
  7. 一般の社会問題 (#7.1 ‘人間らしさはへるか’, #7.6 ‘勲章か賞金か’ など, 社会の一般的なことをきく問題) 7 項目
  8. 政治的態度 (#8.1 ‘政治家にまかせるか’, #8.7 ‘支持政党’ など政治的態度の問題) 9 項目
  9. 日本人・人種 (#9.1 ‘日本人の性格’, #9.4 ‘立派な人物’, #9.7 ‘すぐれた人種’ など日本人の性質, 好みや, 人種比較などにかんするもの) 6 項目

### 3.4 調査の計画, サンプルング

つぎに調査の計画についての概要をのべよう。

この第Ⅲ次全国調査も, 過去2回の全国調査とほぼ同様の手続きで調査をおこなっている。

調査の目的が, 一般国民の考え方をしらべることであるから, 全国民のゆがみのない縮図をつくるため, つぎのようなサンプルングによりサンプル (被調査者) を抽出した。

もちいたサンプルングは, ひとくちに言えば層別3段サンプルングである (サンプルングの詳細については第Ⅵ章サンプルングの項を参照されたい)。

すなわち, サンプルングは, 全国の市町村を地方性, 人口, 産業構成その他を考慮して層別し, 各層よりひとつの市町村を, 確率比例抽出法によりえらび (第1段のサンプルング), えらばれた市町村の中から, 投票区をひとつ, やはり確率比例抽出法でえらび (第2段のサンプルング), 最後に, えらばれた投票区の有権者名簿から, その層に割り当てられた数だけのサンプルを等間隔抽出法でえらびだす (第3段のサンプルング), という方法をとったが, 第Ⅲ次全国調査では, これまでの全国調査の経験からみて, 調査地点数 (第1段のサンプル数) および全体のサンプル数を, それぞれ 180 地点, 3600 人にふやして, より一層精度の高い調査をおこなうように努めた。

また, すでにのべた通り全国調査と平行して, 個人の意見の変化をしらべるため, 第Ⅰ次全国調査で調査できたサンプルのうち, およそ 1/2 を再調査している (第Ⅴ章再調査についての項参照)

### 3.5 調査の実施

全国の 17 大学の協力をあおぎ (ほかに東京の 3 大学の学生サークル), 1963 年 9 月末より 12 月にかけて全国調査をおこなった。

すなわち, すでにのべた全国の 180 調査地点を各大学に割り当て, それらの大学に研究所から調査委員が分坦出張して, 各大学で調査員となる学生に対して, 直接調査の説明を与えた。調査員は受け持ちの各調査地点の区市役所・町村役場に行き, 指示された方法で選挙人名簿からサンプルを抽出する (平均 20 人)。それから, 抽出されたサンプルの家を訪問し, サンプル本人に会って, 調査票どおりの質問をし, その答えを調査員が調査票に記録する, という個別面接調査をおこなった。

受け持ちの調査が終了したら (およそ 3~4 日間を要する), 各大学の監督の先生に提出し, 先生のもとに一括された調査票は, 研究所に返送された。

この結果、調査できたものは、計画したサンプル 3600 人のうち、2700 人余りであったが、調査終了後に、信頼できないと思われる調査票は除かれたので、最終的には 2698 人となった。これは、計画したサンプルの 75% にあたる。調査ができなかったサンプルは、移転、長期不在、病気、該当なしなど、やむをえないものが大部分であった（第VI章参照）。

### 3.6 日程のあらまし

- 1963 年 1 月 調査準備に入る
- 2 月 調査委員会を結成
- 2 月～3 月 質問項目の検討
- 4 月 準備調査の調査票作成
- 5 月 準備調査のサンプリング
  - 全国調査の層別と第1段サンプリング（調査地点の決定）
- 6 月 19 日～26 日 岐阜市において準備調査実施
- 7 月 準備調査の結果検討，全国調査の質問項目の作成
- 8 月 質問項目決定，全国の協力大学と連絡開始
  - 準備調査の報告書作成
- 9 月末～11 月 全国調査実施
- 12 月 調査票回収，整理，手集計カード作成
- 1964 年 1 月 IBM カード作成，集計開始
- 2 月 基本集計完了，報告書作成

## III. 第III次全国調査の結果（その1）

——調査全体を通してみたとき——

### 1 意見の変化

すでにのべた通り，この第III次全国調査は，これまでにおこなった2度の全国調査に継続するものであり，意見の変化をみるということが，主要な目的のひとつになっている。このため継続して調査された質問項目も多数にのぼるので，まず分析の第1歩として，これらの継続質問のようを，全体的にながめてみよう。

意見や態度の項目で，3回の全国調査に全く共通な質問は #2.1 ‘しきたりにしたがうか’，#2.4 ‘くらし方’ など 16 項目である。

このうち，3回の全国調査でほとんど変化のみられなかったものは，#2.1 ‘しきたりにしたがうか’ であり，残りの 15 項目では変化\*がおこっている。これらの変化のようをみると，第2表のようになり，共通な質問 16 項目の主なカテゴリ 39 について変化の大きさ，およびその方向を考えながら分類してみると，つぎのようになる。

すなわち，ほとんど変化のないカテゴリは6カテゴリであり，変化の大きなもののうち 20% 以上比率が増加したものはなく，10% 以上増加したものは2カテゴリである。反対に 20% 以上比率が減少したものは2カテゴリ，10% 台の減少2カテゴリとなっている。しかし，大部分は，5～10% の変化であり，10 年間にわたる傾向的变化ということからみれば，多くの質問項目では，意見はほとんど動いていないともいえよう。

変化のほとんどなかったカテゴリをあげると，上にのべた #2.1 ‘しきたりに従うか’ の各カ

\* 引続く2回の調査で 5% 以上の差があるものを一応変化ありと考えた。これは層別3段サンプリングのサンプリング誤差を考えに入れた有意差以上の差になっている（信頼度 95 %）。

第2表 3回の全国調査に共通な質問項目の比較一覧表

#	質問の見出し	答のカテゴリ	分類	調査結果			備考
				I	II	III	
2.1	しきたりに従うか	おし通せ	○	41	41	40	同じ
		従え	×	35	35	32	同じ
		場合による	△	19	19	<25	△
2.2	反対を押し切って実行	実行	○		54	55	同じ
		とりやめ	×		32	32	同じ
2.4	くらし方	金持ちになる	△	15	17	17	同じ
		趣味にあったくらし	○	21	<27	30	△
		のんきに	○	11	<18	19	△
		清く正しく	×	29	>23	>18	○
2.5	自然と人間との関係	自然に従え	×	27	>20	19	△
		自然を利用	△	41	38	40	同じ
		自然を征服	○	23	<28	30	△
3.1	宗教を信じるか	信じる	△		35	31	同じ
		信じない	△		65	69	同じ
3.9	首相の伊勢参り	行った方がよい	×	50	>33	>28	◎
		本人の自由	○	23	27	<41	○
4.4	先生が悪いことをした	そんなことはないという	×	38	38	>32	△
		ほんとうだという	○	42	41	<50	△
4.5	子供に「金は一番大切」と教える	賛成	△	65		60	△
		反対	△	24		23	同じ
4.8	結婚式・葬式盛大にするか	よくない	○	31	<48	>35	?
		身分相応に	△	48	>38	<52	?
4.10	他人の子供を養子にするか	つがせる	×	73	>53	>51	◎
		つがせない	○	16	<21	<32	○
5.1	恩人がキトクするとき	故郷へ帰る	△	54	50	46	△
		会議に出る	△	41	39	<46	?
5.16	親がキトクするとき	故郷へ帰る	△	49	50	>45	?
		会議に出る	△	48	>41	<47	?
5.6	めんどろをみる課長	めんどろをみない課長	○	12	13	17	同じ
		めんどろをみる課長	×	85	>77	<82	?
7.1	人間らしさはへるか	賛成(へる)	△	30	33	37	△
		いちがいにいえない	△	17	17	<22	△
		反対(へらない)	△	35	34	>28	△
7.2	心の豊かさはへらないか	反対(へる)	△	17	21	18	同じ
		賛成(へらない)	△	58	>52	49	△
7.4	日本と個人の幸福	個人→日本	○	25		30	△
		日本→個人	×	30		37	△
		日本=個人	△	31		34	同じ
7.6	勲章か賞金か	勲章	×	48	<54	54	△
		賞金	○	33	>27	27	△
7.7	仕事の価値	実際の仕事の方	△	30	>25	23	△
		学者や芸術家	△	21	25	>20	?
		同じ	○	25	>16	<28	?
		いちがいにいえない	△	14	<20	20	△

第2表 (つづき)

#	質問の見出し	答のカテゴリ	分類	調査結果			備考
				I	II	III	
8.1	政治家にまかせるか	賛成(まかせる)	×	43	35	29	○
		反対	○	33	44	47	△
8.3b	専門の研究と政治	専門の研究に専心せよ	△	20		18	同じ
		政治性も必要	△	45		54	△
		積極的に参加	△	22		19	同じ
8.4	校長の礼服	礼服つくれ	×		43	41	同じ
		礼服不用	○		45	52	△
9.3	日本の庭・西洋の庭	日本の庭	△	79	78	85	△
		外国の庭	△	16	16	11	△
9.6	日本人・西洋人の優劣	すぐれている	△	20		30	○
		劣っている	△	28		14	○

注 1) ここにあげた質問項目は3回の全国調査に共通のもの16項目を中心にして、2回質問した項目のうち、主として意見をきく項目をつけ加えた(第Ⅰ次～第Ⅲ次に共通のもの4項目、第Ⅱ次～第Ⅲ次に共通のもの3項目、# 番号をゴジックにしてある)。

2) 各質問のカテゴリは主なもの(15%以上の回答率のあるもの)をあげてある。

3) カテゴリの分類は文献10と同じで

×: カテゴリの内容がどちらかといえば、いわゆる伝統的な古い日本人の意見を示すもの

○: 上と反対にいわば新しい、合理的ともいえる意見を示すもの

△: どちらにもはまらないもの、質問自体がこのようなことと無関係なカテゴリ

4) 備考欄の記号は調査の結果を分類したものである。なお調査結果の欄の<, >は引続く2回の調査の間で5%以上の差があることを示す。

◎: 第Ⅰ次と第Ⅲ次の間に20%以上の傾向的变化のあるカテゴリ

○: " 10% "

△: " 5% "

? : 引続く2回の調査では5%以上の差があるが、傾向的变化はなく変動するカテゴリ

同じ: 引続く2回の調査結果も差がなく(5%未満)、全体としても変化のみられないカテゴリ

カテゴリと#2.4 'くらし方'で'金持ちになる'、#2.5 '自然と人間との関係'の'自然を利用する'、#5.6 'めんどろをみる課長'で'めんどろをみない'の'がよいとするもの'、#7.2 '心の豊かさはへらないか'で'反対(へる)'と答えたものである。

つぎに、これらのカテゴリをカテゴリの内容が、どちらかといえばいわゆる伝統的な古い日本人の意見をしめすもの、これとは反対に、いわば新しい、合理的ともいえる意見をしめすもの、およびこの中間のものあるいは質問自体がこれらと無関係なもの、の3通りにわけて考えてみる\*と、いわば新しい、合理的ともいえるカテゴリでは、増加傾向をしめすものが多い(11カテゴリ中6カテゴリ)が、いわゆる伝統的な意見のカテゴリではこれらとは逆に、9カテゴリ中6カテゴリで減少傾向をしめす。また中間的な意見のカテゴリでは、10%以上の増加傾向をしめすものが1カテゴリあるが、その他のカテゴリは10%以下の変化で、増加傾向をしめすものと、減少傾向をしめすものと、変動しているものとが、それぞれほぼ同じ割合になっている(第3表参照)。

とくに、変化の幅の大きなカテゴリをあげると、増加傾向をしめすものでは、まず、#3.9 '首相の伊勢参り'で'本人の自由'と答えるもので、比率は、第Ⅰ次調査の23%から第Ⅱ次調査は27%、第Ⅲ次調査では41%となっている。また#4.10 '他人の子供を養子にするか'での'つがせない'という答も、やはり第Ⅰ次調査の16%から第Ⅱ次調査は21%、第Ⅲ次調査では32%に増加している。

\* どのカテゴリが、この分類のどれに入るかは文献10の質問別カテゴリー一覧表にある(第2表にも記入しておいた)。

第3表 3回の調査における変化の方向とその大きさ

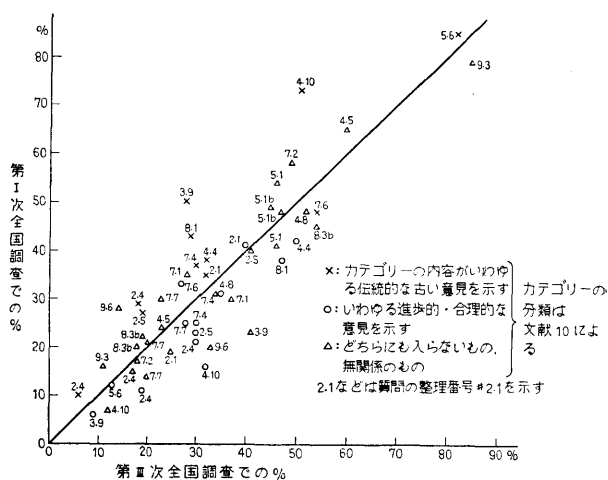
カテゴリーの分類	3回の調査における変化の方向と大きさ							計
	20%以上の減少	10~20%の減少	5~10%の減少	ほとんど同じ	変動している	5~10%の増加	10~20%の増加	
伝統的な古い意見のカテゴリ (×)	2	2	2	1	1	1	—	9
中間的・無関係なカテゴリ (△)	—	—	5	3	5	5	1	19
新しい意見のカテゴリ (○)	—	—	1	2	2	5	1	11

つぎに、減少傾向を示すものをみると、やはり上と同じ質問 #3.9 ‘首相の伊勢参り’ で ‘行った方がよい’ と答えるもの (第Ⅰ次の 50% から 33%, 第Ⅲ次の 28% にへる), および #4.10 ‘他人の子供を養子にするか’ で ‘つがせる’ と答えたもの (第Ⅰ次の 73% から 63%, 第Ⅲ次の 51% にへる) が 20% 以上の変化をしめす。

その他, #2.4 ‘くらし方’ で ‘清く正しく’ と答えたものが, 第Ⅰ次の 29% から 23%, 第Ⅲ次の 18% に減少し, #8.1 ‘政治家にまかせるか’ で ‘まかせる’ と答えたものも第Ⅰ次の 43% から 35%, 第Ⅲ次の 29% に減少しているのが大きな変化をしめすカテゴリである。

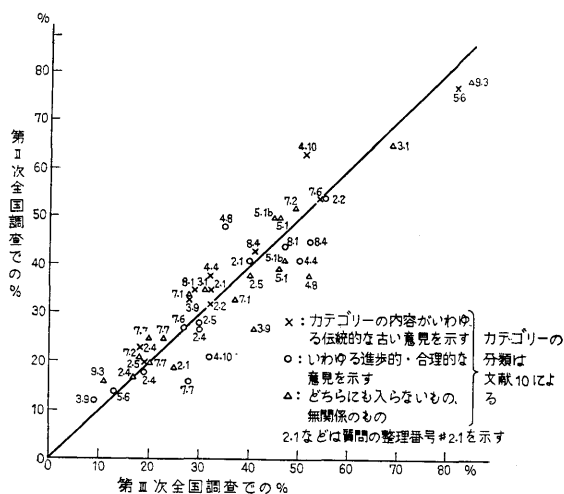
これらの変化の幅の大きなカテゴリのうち, #3.9 ‘首相の伊勢参り’ で ‘行った方がよい’ というもの, #4.10 ‘他人の子供を養子にするか’ で ‘つがせる’ と答えたものは, つぎの #4.8 ‘結婚式・葬式盛大にするか’ のカテゴリとともに, 第Ⅰ次, 第Ⅱ次調査の間の5年間の変化の幅が10%以上であったもの\*で, これらの質問にせめられる事柄は, 現在大きな変化の過程にあるといえよう。しかし, #4.8 ‘結婚式・葬式盛大にするか’ のように変化の幅はかなり大きいにもかかわらず, 第Ⅰ次と第Ⅱ次調査の間, 第Ⅱ次と第Ⅲ次調査の間のそれぞれで, 変化の方向が逆になってしまっているものもある。すなわち, ‘身分相応にやれ’ というものは, 第Ⅰ次調査では 48% であったものが, 第Ⅱ次調査では 38% となり 10% もへっているが, 第Ⅲ次調査では, また 52% となっている。これに対して ‘盛大にやるのはばかばかしい, よくない’ というものも同じように, 第Ⅰ次の 31% から第Ⅱ次では 48% にふえ, 第Ⅲ次ではまた 35%に戻っている。

このような全体的な変化の方向をみやすくするために, これらの 16 項目の全部の答えのカテゴリ——ただし無答とかあいまいな答は除く——39 について第Ⅰ次全国調査で示した % (縦軸) と第Ⅲ次調査で示した % (横軸) をグラフにしたものが第1図である (図にはこれらのカテゴリのほか, 第Ⅰ次と第Ⅲ次の2回に共通しておこった質問 4 項目のカテゴリも記入してある)。この図は各カテゴリが 45 度の直線のまわりであり, この 10 年の意見の変化は, 全体としてそれほど大きくないことを示している。



第1図 第Ⅰ次調査と第Ⅲ次調査の関係

\* この時 10% 以上の変化があったものはこの3項目であった (文献 10 の p. 131~ 参照)



第2図 第Ⅱ次調査と第Ⅲ次調査の関係

また変化の傾向をしいてみるために、カテゴリを前記のように3分類して、いわゆる伝統的な古い日本人の意見と考えられるカテゴリ(×印)と、伝統とは反対なものと考えられるカテゴリ(○印)、これらの中間あるいは無関係なカテゴリ(△印)とに分けてみると、伝統的なもの(×印)のほとんど大部分は45度の直線の左上の方にあり、伝統とは反対のもの(○印)は、逆に直線の右下にほとんど並んでくる。したがって、第Ⅲ次調査の方が第Ⅰ次調査より、伝統的な意見と考えられるものが減少する傾向を示していると考えられるのである。

このことはまた、第Ⅱ次調査と第Ⅲ次調査の間での同様な分析からもみられる(第2図参照、図の縦軸は第Ⅱ次調査でしめた%、横軸は第Ⅲ次調査でしめた%)が、その変化の大きさを比較してみると、第Ⅱ次-第Ⅲ次の図では、ほとんどの点が、第Ⅰ次-第Ⅲ次の図におけるものより、一層45度の直線の近くにプロットされており、この5年間の変化の大きさは、ほぼ第Ⅰ次-第Ⅱ次の間の5年間の変化のもよと同様である(文献10の131~132ページ第18図参照)。そして、これらの5年間の変化のグラフと、10年間の変化のグラフとをくらべてみると、第Ⅰ次-第Ⅲ次の10年間の変化のグラフは、ちょうど、5年間の変化のグラフを拡大したような形になっている。

すなわち、変化の点からいえば、5年間の変化の模様はごく少ないと考えられるが、第Ⅰ次-第Ⅱ次の5年間の間の変化の足取りも、つぎの5年間の変化の傾向も同様の方向であり、これらの変化が相殺されることなく積み重なって、この10年間の間の変化になり、10年間には、ややものの考え方が変わってきているともいえそうである。とくに、その変化の方向が概して、いわゆる伝統的なものとは反対の、いわば新しい、合理的ともいえる考え方に賛成する答をあげる方向にあることは興味あることといえよう。

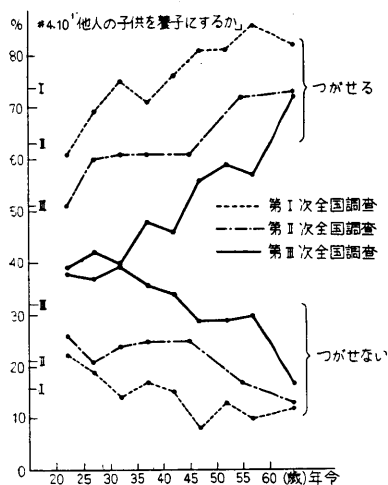
以上は各時点における調査の結果を全体的に比較して、その変化の傾向をしらべたものであるが、さらに各個人の意見が、この10年の間にどう変化しているかをみるために、第Ⅰ次調査で調査できた人に再調査を実施している。この詳細については、第V章再調査の項を参照していただきたいが、結論的にいうと、変化の傾向については、以上にのべたことがほとんどそのままあてはまっているので、時勢の変化により個人の意見も変わっていくということがいえそうである。

## 2 変化の実態

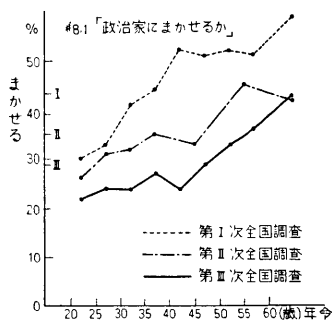
つぎに、これらの変化が、時世の影響によるものか、あるいは、新しい時代の教育をうけ、新しい考え方を身につけていると思われる若い人々のしめる割合が相対的に多くなり、古い考え方をしている年齢の高い人々の比率が少なくなったために、生じたものかどうかをすこし検討してみよう。同様の分析は文献10にも、第Ⅰ次調査と第Ⅱ次調査の5年間の変化についておこなわれている(文献10 p. 136~9)が、とくにこの3回の調査において変化のほとんどなかった項目と、変化の大きかった項目とについて、年齢別にみてどうなっているかを図に示すと第3~6図のようになる。

これをみると、3回の調査で意見の動かなかった第3図の#2.1「しきたりに従うか」では、各調査における年齢別の結果がほとんど同じ模様になって重なりあっているが、意見の動いた項目では、たとえば、第4図の、#4.10「他人の子供を養子にするか」の「つがせる」および「つがせない」の各項目のように、全体として各調査における同一年齢層の意見の間にはかなりのひらきがみられ、どの年齢層も時代とともに動いているということができよう。

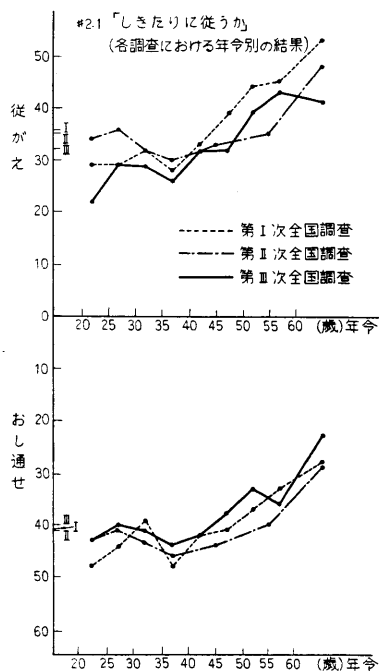
その他の変化のあった項目についても、ほぼ同様な傾向がみられるものが多いので、これらの全体的な変化は、新しい考え方を身につけている若い人々の割合が相対的に多くなり、古い考え方をもつ年齢の高い人々の割合が少なくなったためにひきおこされたものというよりは、各年齢層とも、時世の影響で意見を変えているためにひきおこされているといえそうである。



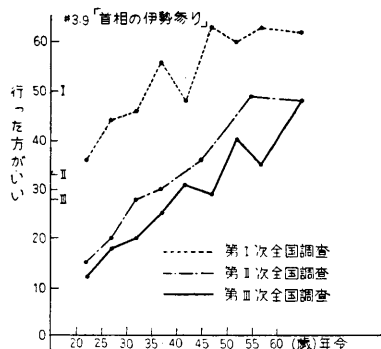
第4図



第5図



第3図



第6図



## IV. 第III次全国調査の結果(その2)

— 各質問別にみたとき —

## 1 基本項目

まず、第III次全国調査のサンプルについて、基本的な属性がどのようなになっているかをみよう。抽出されたサンプルの全体についてわかる項目は、抽出名簿に記入されている、性別、年齢別、住所の市郡別、地方別であるが、抽出されたサンプルは第4~6表にある通り、満20歳以上の全国民のよい縮図になっていると考えられる。ところで、これらのサンプルについて面接調査をおこなった結果、調査できなかった人々が25%もあるので、実際に集計に使用したサンプルの構成は付録の表(146ページ以下)のようになっている。

第4表 性別・年齢別の構成

	性		年 齢									計
	男	女	20～24	25～29	30～34	25～29	40～44	45～49	50～54	55～59	60歳～	
抽 出 サ ン プ ル	48.0	52.0	14.4	14.4	13.1	11.2	9.6	8.0	8.3	5.6	15.2	100.0
1960 年 国 勢 調 査	47.9	52.1	14.8	14.7	13.3	10.7	9.0	8.6	7.5	6.5	14.9	100.0

第5表 市郡別の構成

	抽出サンプル	1960年国勢調査
6大市(区部)	17.9	17.9
人口20万以上の市	12.0	11.9
人口10~20万の市	10.6	10.6
人口5~10万の市	11.2	11.5
人口5万未満の市	11.8	11.7
町村	36.5	36.4
計	100.0	100.0

第6表 地方別の構成

地 方	抽出サンプル	1960年国勢調査
北海道	5.4	5.4
東北	9.9	10.0
関東	24.4	24.7
中部	17.9	17.7
近畿	16.9	16.6
中国	7.3	7.4
四国	4.6	4.4
九州	13.6	13.8
計	100.0	100.0

これを1960年国勢調査の結果とくらべてみると、性別ではやや女の割合が多く、年齢の構成では20歳台がやや少なくなっている。学歴構成についてみると、表の分類上は、やや高学歴の方によっているようにみえるが、これもわれわれの分類が、国勢調査の分類と青年学校のところでことになっているためと思われ、全体としてみればよくあっているといえよう。また、住所の市郡別、地方別にみてもほとんど差はなく、集計に使用したサンプルの構成は、記述的にみれば、全国民のよい縮図になっていると考えられる。なお、基本項目の構成のゆがみに由来する、かたよりの大きさを検討するため、第VI章の調査不能の項で、基本項目による補正の計算例をしめしてある。

このほか、基本項目として、職業、支持政党、選挙関心などを考える。このうち、支持政党、選挙関心は調査にとり上げた、いろいろな意見や態度の項目とも関連が深い\*ので、政治的な態度の変化をみるためというよりは基本的な分析を進めるために、調査項目にとり上げたもので

\* 前2回の調査結果からみると、支持政党別にみた人々の意見のわかれ方は、学歴階層による意見のわかれ方と同程度である。

ある。また、職業の項目は基本的な階層別分析にかかせないものである。第Ⅲ次調査では、これまでの全国調査における職業データのとり方をあらためてしているので、これにもとづく職業の分類についてのべる。われわれの職業分類と国勢調査のそれとは分類基準が違うので、直接比較することはできないし、第Ⅰ次調査、第Ⅱ次調査のデータとも比較することができないが、第Ⅲ次調査の職業分類は、ひとくちにいえば、職業の種別に従業上の地位、企業の規模を考慮して作られている。分類のあらましは第7表のようになる。

第7表 第Ⅲ次全国調査の職業分類

職 業 分 類	内 容	学 歴	企業の規模	従業上の地位
専 門・技 術	医師、教師、技師など	大 学 卒	—	雇 用
	開業医、薬局、僧侶など	大 学 卒	—	業 主
	看護婦、保母、洋裁教師など	高 校 卒	—	雇 用
管 理	校長、社長、重役、部長、課長など	—	100 人以上	—
大企業ホワイトカラー	事務員、デパートなどの店員 保安サービス	高校卒以上	100 人以上	雇 用
中小企業ホワイトカラー	事務員、店員	高校卒以上	100 人未満	雇 用
家 族 従 業 者	—	—	100 人未満	家 族 従 業
小 企 業 主	小 企 業 主	—	100 人未満	業 主
農 林 漁	農林業、漁業の従事者	—	—	業主（家族）
大企業ブルーカラー	工員 保安サービス、その他のサービス、電話交換手	— —	} 100 人以上	雇 用
中小企業ブルーカラー	同 上、店 員	中 学 卒		
単 純 労 働	日雇、守衛、土工など	—	—	雇 用

## 2 個人的態度

‘自分が正しいと思えば、世のしきたりに反しても、それをおし通すべきである’と思うものは、第Ⅰ次調査、第Ⅱ次調査ともに 41%，第Ⅲ次調査は 40% である。一方‘世間のしきたりにしたがった方がまちがいない’と思うものは、第Ⅰ次、第Ⅱ次とも 35%，第Ⅲ次 32% でいずれもほとんど変化していない。‘場合による’という答がやや第Ⅲ次調査ではふえているが、これもこの質問の答としては小数意見であるから、この 10 年の間における変化という点から考えてみると、この #2.1 ‘しきたりに従うか’という項目にはほとんど変化がなかったといえよう。すでに、全体的な考察のところでのべたように、3 回継続して調査した項目のうち、ほとんど変化しなかったのはこの質問だけであるし、この質問と、質問にとり上げられている事柄の類似している #2.2 ‘反対をおし切って実行するか’という質問の答も‘実行する’ 54%，反対があれば‘とりやめる’ 32% であって、第Ⅱ次調査と第Ⅲ次調査の 5 年の間にまったく変化しなかった。したがって、これらのいわば社会的規範（社会的慣行など）に対する人々の態度は、ほとんど動いていないと考えられる。これはすでにのべたように、全体的な変化の傾向とくらべ、注目すべきことといえよう。

つぎに、人々のくらし方のタイプをみる質問 #2.4 ‘くらし方’では、質問にとり上げた6つのタイプのうち、‘趣味にあったくらし方をする’、‘その日その日をのんきにくらす’というも

のが少しずつふえ、これに対して、‘どこまでも清く正しくらす’、‘社会のためにつくす’というものがだんだんへってきている。そして、第Ⅰ次調査のとき、6つのタイプのうちでは最も人気のあった‘清く正しくらす’というものは第Ⅱ次調査では‘趣味にあったくらし’について2番目であったが、第Ⅲ次調査では3番目になり、‘趣味にあったくらし’、‘のんきにくらす’がそれぞれ1位、2位になっている。このような変化の傾向は第Ⅰ次と第Ⅱ次の間、および戦前との比較のときにも見られた\*ので、人々の‘くらし方’についての考え方も固定的なものでなく、どちらかといえば時勢にそって流動しているものであるともいえる。

これに関連して、人々の日常生活ではどの面が重んじられているかをみてみよう。

＃2.7 ‘あなたにとって一番大切なものは何か’という質問であげられたものは、あいかわらず‘健康（生命、自分）’、‘子供’、‘家族’、‘金・財産’などから‘幸福、愛情、誠実’などの精神的なものまであげられており、範囲も非常に広いので一応まとめてみると‘健康’が26%でやや多いが‘子供’、‘家族’、‘金・財産’、‘幸福、愛情、誠実など’は10%台で、そのほかはまとめることもできないほどである。第Ⅱ次調査の結果とくらべ、やや個人的なもの‘健康’をあげる割合が多くなったようにみえるが、分類のとり方にもよるので大差ない結果といえる。

＃2.5 ‘自然と人間との関係’は人々の自然にたいする態度をみようとしたものである。人間が幸福になるためには‘自然にしたがうのがよい’というものは、第Ⅰ次調査では27%、第Ⅱ次調査では20%、第Ⅲ次調査では19%となり、‘自然を征服してゆく’というものは各調査の結果がそれぞれ23%、28%、30%となり増加の傾向がみられる。しかし、あいかわらず‘自然を利用していく’という答は40%前後で一番多い。

この10年の間に科学が目ざましく進歩して、‘自然にしたがう’という消極的な立場より、‘自然を征服していく’という積極的な立場が、次第に空想的なものでなくなり、実現可能なこととして世間一般に受け入れられてきたということも、これらの意見を变化させる一つの要因になっているものと思われる。

### 3 宗 教

＃3.1 ‘宗教を信じるか’で、信じているものは31%、信じていないものは69%であり、第Ⅱ次調査にくらべ、見かけ上、信じているものがやや減少しているが、差はないと考えられる。

信者を宗派別と信仰の強さという点から分類してみると、宗派別では、仏教を信じているものが一番多く、信じているもののおよそ70%にのぼる。また神道を信じているものは10%弱、キリスト教は3%である。

そして、仏教を信じているもののうち30%たらずはいわゆる新興宗教の信者になっている。

また、信仰の強さの程度を考えてみると、まず、全宗派の信者を通してみた場合、信者のおよそ3分の1は‘毎日なにかするか定期的になにかする’、‘他の人にまで教えをひろめる’等のいわば熱心な信者になるが、半数程度は、自分の信じている宗派名をあげて、‘信仰をもっている’といって、もほとんど個人では、‘とくにとりたてて何かをやっている’ということはないようである。

この信仰の強さを各宗派別にしてみると、いわゆる新興宗教に属する宗派の信者が、やや活動的であるようにみえるが、他の宗派にくらべて、それほど大きな差はみとめられない(第8表)。

宗教を信じていない人々には＃3.2 ‘宗教心は大切か’で‘宗教的な心’というものを大切と思うかどうかをきいているが、これをみると第Ⅱ次調査同様77%のものが‘大切’と答えているので、宗教的な関心という点では、この5年の間にほとんど変化はみられないといえるであろう。

\* 文献 10 の p. 129. p. 177.

第8表 宗教を信じているものの関心度

宗 派	関 心 度				計	
	無 関 心	関心中くらい	毎日なにかする 他の人にまで教 えをひろめる			
既成宗派でない	28	27	(31)	25	80	[10]
神 道	13	6	(37)	11	30	[4]
天理教・金光教	8	8	(41)	11	27	[3]
創 価 学 会	34	10	(53)	50	94	[11]
立 正 佼 成 会	3	4	(50)	7	14	[2]
日 蓮 宗	22	13	(38)	21	56	[7]
そ の 他 の 仏 教	237	91	(29)	134	462	[55]
キ リ ス ト 教	17	2	(30)	8	27	[3]
PL 教 団 など	8	7	(32)	7	22	[3]
無 記 入	16	—	—	—	16	[2]
小 計	[47] 386	[20] 168	[33]	274	828	[100]

( ) は横の計に対する%, すなわち  $(31) = (25 \div 80) \times 100$

[ ] は信者 828 人に対する比率

宗教に関連して質問された #3.9 ‘首相の伊勢参り’は、すでに全体的な考察のところでものべた通り、この 10 年の間にかなり変化している。‘行かねばならぬ’、‘行った方がよい’というものは大きくへり、第Ⅰ次調査では 57%, 第Ⅱ次調査では 38%, 第Ⅲ次調査では 32% となっているが、反対に ‘本人の自由’ というものはそれぞれ 23%, 27%, 41% と大きくふえている。10 年前には ‘行かねばならぬ’、‘行った方がよい’ が過半数(57%) をしめていたのに、第Ⅱ次調査では 38% になり、第Ⅲ次調査では逆に ‘本人の自由’、‘行かぬ方がよい’、‘行くべきでない’ まで入ると過半数 (55%) は、あたらしく首相になったとき伊勢神宮に参拝することには消極的な意見になってきたことになる。この質問における変化の幅は最も大きなもののひとつであるが、人々の考え方は、このような点で大きく動いているということができよう。

#### 4 子 供・家

子供の育て方に関連して、‘先生が何か悪いことをした’ という話がほんとうであるとき、子供には ‘ほんとうだという’ と答えるものは 50%, 反対に ‘そんなことはないという’ と答える (否定する) ものは 32% で、第Ⅰ次調査 (それぞれ 42%, 38%), 第Ⅱ次調査 (41%, 38%) のほぼ半々ずつの答え方にくらべ ‘ほんとうだ’ と肯定するものがやや増加している。

また ‘子供に「金が一番大切」と教えるのがよい’ という意見に ‘賛成’ するものは 60%, ‘反対’ するものは 23% となる。第Ⅰ次調査の結果 (65% と 24%) とくらべてほとんど変りないが、しいていえば ‘いちがいにいいない’ というあいまいな中間的な意見がふえている。これらの子供の育て方に関する #4.4 ‘先生が悪いことをした’、#4.5 ‘子供に「金が一番大切」と教える’ の両者をあわせて考えれば、子供の育て方 (しつけ方) に関する点では、やや新しい考え方に移ってきているといえそうである。

つぎに、家に関係のある質問として、3 回の全国調査に継続してとり上げられているものは、#4.8 ‘結婚式・葬式を盛大にやるか’ と #4.10 ‘他人の子供を養子にするか’ である。まず、結婚式・葬式を盛大にするのは ‘よくない’ という答えは、すでに前章でものべたように、第Ⅰ次調査では 31%, 第Ⅱ次調査では 48%, 第Ⅲ次調査では 35% になっているし、‘身分相

応にやれ’ という答は、逆にそれぞれの調査で 48%, 38%, 52% と動いている。これらの変動の模様を、他の多くの質問項目の結果とくらべてみると、いささか傾向がことなっているようにみえるので、これらの変動が時勢の移り変りによって引き起されていると考えるのは無理であろう。この点については、より一層の分析が必要であろう。

子供がないときは、他人の子供でも養子にもらって家をつがせた方がよいというものは第Ⅰ次調査では 73% の多数にのぼっていたが、第Ⅱ次調査では 63%, 第Ⅲ次調査では 51% になり、すでにのべたように、この 10 年の間にもっとも減少したもののひとつになっている。反対に‘つがせない’ というものは第Ⅰ次調査の 16% から第Ⅲ次調査では倍の 32% になっている。これらの変化の大きさは、調査をおこなった他の項目とくらべて、いつも、最も変化の大きなもののひとつになっている。この変化は前章でみた通り、新しい考え方を身につけていられると思われる人々の割合が相対的に増加したからというよりは、全体の人々が年齢にかかわらず意見をかえてきていることによるほうが大きな原因となっていると思われる。また、この質問では年齢別にみて、30 歳前半までは‘つがせる’ というものと‘つがせない’ というものの割合は同じ (40% 前後) になっているが、60 歳以上の年齢層では‘つがせる’ 72%, ‘つがせない’ 17% となっており、年齢的な傾向もかなりみられるので、時勢の変化と、年齢的な傾向の両者の影響によって今後も大きく変化するのではないかと考えられる。

## 5 身近かな社会

恩返しに関連して質問された #5.1 ‘恩人がキトクするとき’ と #5.1b ‘親がキトクするとき’ についてみると、恩人がキトクするとき、見舞いに‘故郷へ帰る’ というものは、第Ⅰ次調査 54%, 第Ⅱ次調査 50%, 第Ⅲ次調査 46% となり、故郷へ帰らずに、会社の‘会議に出る’ というものは、それぞれ、41%, 39%, 46% になっている。

一方‘親がキトク’ のときは‘故郷に帰る’ というものは、第Ⅰ次調査 49%, 第Ⅱ次調査 50%, 第Ⅲ次調査 45% であり、‘会議に出る’ というものは、それぞれ 48%, 41%, 47% となっている。これからみると、恩人がキトクの場合も、親がキトクの場合も見舞いに帰る割合は各調査ともいつも 50% 前後でほとんど変らない。また、前 2 回の調査では恩人の場合と親の場合で‘故郷に帰る’ という割合と‘会議に出席する’ という割合とくらべると、恩人の場合に‘故郷に帰る’ という答の割合が‘会議に出る’ というものにくらべてやや多くなっていたが、第Ⅲ次調査では両者同じ (46% ずつ) になり、親の場合もほぼ半々になっている。

これからみると、各調査とも、どちらの場合にも人々の意見はほぼ半々にわれ、これという傾向もみられない。

このような、いわゆる「恩返し」に関する質問は、これまでも #5.2 ‘恩人のむすこの入社’ など、いくつかくり返してとり上げられているが、第Ⅲ次調査ではあたらしく、つぎのような入社試験に関する質問項目 (#5.1c) をとりあげた。

すなわち、‘職員を 1 人採用する入社試験をしたとき、成績通り 1 番の人を採用すべきか、あるいはこれとくらべてそれほど差のない 2 番の親戚の子を採用すべきか’ という質問と、‘成績通り 1 番の人を採用するか、2 番であった恩人の子を採用するか’ という二つの質問をつくり、両方の質問をして、‘親戚の子’ あるいは‘恩人の子’ によってどの程度態度をかえるものがあるかを見ようとした。

調査の結果は、2 番になったのが親戚の子の場合‘成績通り 1 番の人を採用せよ’ というものは 75%, ‘親戚の子を採用せよ’ というものは 19% であるが、恩人の子の場合は‘1 番の人を採用せよ’ というものは 48% にへり、‘恩人の子を採用せよ’ というものは 44% に増加している。この両方を組み合わせてみると、一貫して成績通り 1 番の人を採用せよというもの

は46%, 2番になった親戚の子より1番の人を採用せよと答えたが, 恩人の子なら2番でもよいと答えたものは25%, 一貫して1番の人よりは2番であった親戚の子あるいは恩人の子を採用せよというものは17%になっている。したがって, 上にのべた‘恩人のキトク’と‘親がキトク’の質問の場合とことなり, 恩人にひかれて態度をかえるものが多くなっているようにみえる。このように, 恩返しを問題にしても, とり上げた場面によって変化がおこることに注意しなければならない。

これらの「恩返し」、「親孝行」というどちらかといえば戦前にもてはやされた項目と, 戦後になって大きくとりあげられるようになった「個人の権利を尊重すること」、「自由を尊重すること」の四つの項目をあげて, これらのうちから‘大切と思う’ものを二つえらばせる新質問#5.1d ‘大切な道徳’では, 「親孝行」をあげるもの61%, 「恩返し」43%, 「権利の尊重」48%, 「自由の尊重」40%であり, 「親孝行」をあげたものは, 他の項目にくらべ, やや多くなっている。これを組合せでみると, 「親孝行」、「恩返し」をあげた, いわば‘戦前型’のものは28%, 「権利の尊重」、「自由の尊重」をあげた, いわば戦後型のものは21%で, 残りのうちこの質問に答えなかったものを除く46%は戦前のものからひとつ, 戦後のものからひとつという組合せになっている。

つぎに, これらの組合せのうち, ‘戦前型’のタイプ, ‘戦後型’のタイプ, その他のタイプの人々の構成がどうなっているかをみると, 第9表のようになり, ‘戦前型’は女, 高年齢層とくに60歳以上の年齢層, および高年齢層が大部分を占める低学歴層に多く, ‘戦後型’は20~24歳, 高学歴層に多い。とくに年齢別にみると, 30歳台前半までは‘戦後型’の比率が‘戦前型’の比率より高く, それより高年齢層では‘戦前型’のしめる割合のほうが多く年齢とともに増加している。

第9表 基本項目別にみた‘大切な道徳’の組合せタイプの構成

	全 体	性		年 齢								
		男	女	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60歳以上
戦 前 型	28	22	34	11	15	18	28	29	29	39	39	52
戦 後 型	21	26	16	40	29	27	21	18	17	12	12	7
そ の 他	51	52	50	19	56	55	51	53	54	49	49	41
計	100 (2698)	100 (1252)	100 (1446)	100 (335)	100 (361)	100 (367)	100 (328)	100 (279)	100 (239)	100 (252)	100 (152)	100 (385)
	学 歴				市 郡							
	小学	中学	高校	大学	6 大市	人口20万 以上の市	人口10～ 20万の市	人口 5 ～ 10万の市	人口 5 万 未満の市	町 村		
戦 前 型	53	29	14	10	23	21	26	33	29	32		
戦 後 型	8	17	31	43	23	26	23	21	20	18		
そ の 他	39	54	55	47	54	53	51	46	51	50		
計	100 (562)	100 (1103)	100 (795)	100 (218)	100 (433)	100 (334)	100 (287)	100 (307)	100 (310)	100 (1027)		

それでは, これらの項目について, 現代の日本人と, 戦前の日本人とをくらべるとき, 一般の人々はどのようにみているだろうか。‘親孝行’は戦前よりしなくなったと思うものは70%, ‘恩返し’を戦前よりしなくなったと思うものは66%になり, 逆に‘個人の権利’は戦前より尊重するようになったと思うものは76%にのぼる。これを‘親孝行’, ‘恩返し’, ‘個人の権利の尊重’を大切な項目としてそれぞれあげた人々と, あげなかった人々とに分けて考えてみると, ‘親孝行’を大切な項目としてあげた人々は, これをあげなかった人々にくらべて, 戦後は‘親孝行’をしなくなったと考えているものが多くなっている。‘恩返し’もやはり同

じような結果で「恩返し」を大切と思う人々の方がそうでない人々にくらべて、より一層戦後は「恩返しをしなくなった」と考えている。これに対して「権利の尊重」を大切としてあげている人々は、そうでない人々にくらべて、より一層、戦後は個人の権利を尊重するようになってきたと考えている。

これらの結果を通してみると、「親孝行」、「恩返し」は戦前の、「個人の権利尊重」、「自由尊重」は戦後の、それぞれの社会生活を、ある意味で特徴づけているように受けとられていると考えられる。

このほか、「身近かな社会」についての質問項目としては #5.6 ‘めんどろをみる課長’がある。この質問項目も3回の調査に継続しておこなわれているが、いつの調査でも無理をいってよくめんどろをみてる課長は、無理はいわないが、仕事以外ではめんどろをみない課長よりずっと人気があり、第Ⅰ次調査以来、調査の結果は多少変動しているが、あいかわらず大多数意見（85%、77%、82%）のひとつになっている。

## 6 男女差別

#6.2 ‘男女の生まれかわり’についてみると、もういちど生まれかわるとしたら‘男に生まれていたい’というものは男のサンプルでは88%であるが、女のサンプルでは55%である。また、‘女に生まれていたい’という答は男のサンプルではごく少なく7%にすぎないが、女のサンプルでは36%になる。これは5年前の第Ⅱ次調査の結果とくらべて、女のサンプルの‘女に生まれていたい’という割合が27%から36%にふえている点に変化がみられる。この質問の結果のうち女のサンプルに関するものは諸外国における調査結果\*とくらべて、かなりのへだたりがあったものであるが、第Ⅲ次調査の結果によるとこの5年の間に日本人と欧米人との差がちぢまってきたことになる。しかし、まだ大きくひらいているので、さらに今後の変化が注目される。

ところで、これらの‘男に生まれていたい’、‘女に生まれていたい’かは、現実の社会生活で、男あるいは女のおかれている社会環境のちがいによって大きく変わってくることが考えられる。このため、今の日本で、男と女とでは、#6.2c ‘どちらが苦勞が多いか’、#6.2d ‘どちらが楽しみが多いか’ということを実問して、それぞれのおかれている社会環境にちがいがあると考えているかどうかを調査してみた。この結果、男のサンプルでは‘苦勞は男の方が多い’と考えているものが56%、‘女の方が多い’というものが25%であり、女のサンプルでは‘苦勞は男の方が多い’と考えているものは39%であるが、‘女の方が多い’というものは42%であり、男も女も、それぞれ同性のほうが‘苦勞が多い’というものが多くなっている。ところが‘楽しみはどちらが多いか’を質問すると、男のサンプルも女のサンプルも大半（およそ70%）のものが‘男の方が楽しみが多い’と答えていて、‘楽しみは女の方が多い’と考えているものはわずか（10%程度）である。これらの結果をみると、少なくとも現在の日本の社会には男女差別という点では問題が多いように考えられる。

## 7 一般の社会的問題

### i) 文明と人間性

機械文明の進歩にともなう、人間性が失われていくかどうかをきく質問は二つとも3回の調査に継続して質問されている。

まず、#7.1 ‘人間らしさはへるか’についてみると、「世の中はだんだん科学や技術が発達してくるがそれにつれて人間らしさがなくなっていく」という意見に賛成するものは、第Ⅰ次調査 30%、第Ⅱ次調査 33%、第Ⅲ次調査 37% となり、この10年の間に漸増しているし、

\* 文献 10 第Ⅳ章 §6 参照、女のサンプルが‘女に生まれていたい’という割合はおよそ60%である。

反対のものは、それぞれ 35%, 34%, 28% でやや少なくなっている。また、第Ⅰ次調査、第Ⅱ次調査では、意見がほぼ半々にわれていたものが、第Ⅲ次調査では、やや賛成（人間らしさがへる）というほうに傾いてきているのは、時勢の変化の模様を考えあわせるとき興味あることといえよう。

この質問と同じ趣旨のことを、いい方のかえて、「どんなに文明が進歩しても人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」という意見についての賛否をもとめると、賛成（へらない）するものは、第Ⅰ次調査の 58% から第Ⅲ次調査の 49% にへってきているが、まだほぼ半数をしめ、反対（へる）といい切るものはそれほどの変化はなく「いちがいにいえない」というあいまいな答が多くなってきて、それぞれ 20% 弱となっている。

この両質問をあわせ考えると、この 10 年の間に、「人間性は失われていく」という意見がほんのわずかではあるが強くなってきているように考えられる。

#### ii) 個人と社会

つぎに、個人と社会全体との関係を、#7.4 ‘日本と個人の幸福’、#7.5b ‘公益と個人の権利’についてみると、‘個人が幸福になってはじめて日本全体がよくなる’という意見に賛成するものは、第Ⅰ次調査（25%）にくらべ第Ⅲ次調査では 30% になり、‘日本がよくなって、はじめて個人が幸福になる’という意見に賛成のものは、37% から 30% にへっている。中間的な意見の‘日本がよくなることも個人がよくなることも同じ’という意見はそれぞれ 31%, 34% となって、第Ⅰ次調査では、どちらかといえば日本全体を主にした考えが優位をしめていたが、第Ⅲ次調査ではこの三つのどの意見も同じような比率になっている。

また、#7.5b ‘公益と個人の権利’は第Ⅱ次調査に使用した質問（#7.5）を、吟味調査で変更したので、全国調査をするのは今回がはじめてである。結果は、‘個人の権利をみとめるためには、公の利益が多少犠牲になることがあっても、しかたがない’というものが 29%、‘公の利益のためには個人の権利が多少犠牲になることがあっても、しかたがない’というものが 57% であり、公益優先の立場をとるものが多く、この傾向は 4 年前の吟味調査（岐阜 1959）の結果と変りない。

#### iii) 法律の問題

法律に関する問題は第Ⅱ次調査で外国の調査例と比較するため、#7.13 ‘法律は金持ちに有利にできているか、貧乏人に有利にできているか’を質問しているが、第Ⅲ次調査ではあたらしく法律をつくるとき考え方とでもいうべきものについての質問（#7.13c）をとりあげてみた。この結果、‘法律はおたがいに、ぐあいよく生活できるように、つくるべきである’という意見に賛成するものは 45%、‘法律は世の中に正義がおこなわれるように、つくるべきである’という意見に賛成するものは 46% で意見は半々になる。これを各階層別にみても、あまり傾向はみられず、この問題については、一般国民の各階層にわたって、意見がおよそ半々にわれているようにみられる。

#### iv) その他の項目

#7.6 ‘勲章か賞金か’、#7.7 ‘仕事の価値’も 3 回の全国調査に継続して質問されているが、これについてのべると、社会のためや、人類のためにつくした人に、勲章を出すほうがよいか、賞金を出すほうがよいかでは‘勲章を出すべきである’というものは第Ⅰ次調査 48%、第Ⅱ次、第Ⅲ次調査ではともに 54% となり、‘賞金を出すべきである’というものはそれぞれ 33%、27%、27% になっていて、第Ⅱ次、第Ⅲ次調査の間には変化はみられない。

また #7.7 ‘仕事の価値’では‘実際に必要なものを作ったり、売り買いする仕事をしている人のほうが、学者や芸術家などにくらべて、社会的にみて価値が高い’と考えるものも、反対に‘学者や芸術家の方が価値が高い’と考えるものも、‘両者同じ’、‘いちがいにいえない’と答



えるものも、ほぼ同じ割合になっているし、各調査における模様も多少変動はしているが、同じようになっているので全体としてみれば、この質問について、人々の意見はほとんど動いていないといえよう。

## 8 政治的態度

すぐれた政治家がでてきたら、その人に政治をまかせるかどうかという政治上の権威主義をみる質問 #8.1 ‘政治家にまかせるか’ は3回の全国調査に継続して質問されている。

すでに全体的な傾向のところでものべた通り、‘まかせる’ と答えたものは、第Ⅰ次調査 43%，第Ⅱ次調査 35%，第Ⅲ次調査 29% とへっており、‘反対（まかせない）’ と答えたものは、それぞれ 38%，44%，47% とふえていて、変化の幅もかなり大きな項目のひとつになっている。

つぎに、#8.2e～h ‘民主主義’，‘資本主義’，‘自由主義’，‘社会主義’のそれぞれについて、‘よいと思うかどうか’ を質問してみると、‘民主主義’ を ‘よい’ とするものは 38% で一番多く、‘よくない’ とするものは 3%，‘時と場合による’ というものが 49%，無答は 10% になる。つぎは ‘自由主義’ で ‘よい’ 24%，‘よくない’ 12%，‘時と場合’ 43%，無答 20% である。また ‘資本主義’，‘社会主義’ は ‘よい’ 19% と 15%，‘よくない’ 16% と 20%，‘時と場合’ 41% と 40%，無答 23% と 24% となっている。

この結果を第Ⅱ次調査でおこなった ‘**・・主義**’ という言葉を聞いたとき、よい感じをもつか、それともよくない感じをうけるか’ という質問 (#8.2a～d) の結果とくらべてみると、‘民主主義’ の好まれ方は両者とも 1 番であるが、‘資本主義’ は言葉からうける感じからいうと ‘よくない’ と感じる人が一番多くなっていたが、今回の質問では ‘よい’ とするものも ‘よくない’ とするものも同じくらいである。また ‘自由主義’，‘社会主義’ の結果は、第Ⅱ次調査では、にたようなものであったが、今回はやや ‘自由主義’ の方がよくなり、‘社会主義’ は ‘よくない’ という答が一番多くなっている。

特殊な職業(地位)にある人を問題にした質問のうち、科学者と政治の関係をみる質問 #8.3b ‘専門の研究と政治’ では ‘政治性も必要’ というものが、第Ⅰ次調査の 45% から第Ⅲ次調査では 54% にふえており、他はあまり変化していない。以前にくらべて、実際に科学者が政治問題に対して発言する機会が多くなっているようにもみえるので、人々の意見もこれにそっているものと考えられよう。

#8.4 ‘校長の礼服’ は形式的なこと(事柄)に対する考え方をみているが、‘礼服をつくれ’ というものは、第Ⅱ次調査 43%，第Ⅲ次調査では 41% となり、‘礼服不用’ というものは、それぞれ 45%，52% になっていて、この5年の間にやや ‘不用’ というものの割合がふえている。

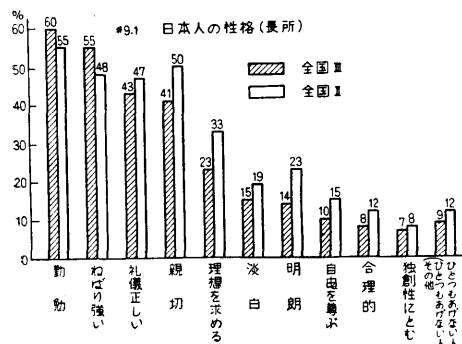
## 9 日本人・人種

### i) 日本人の性格

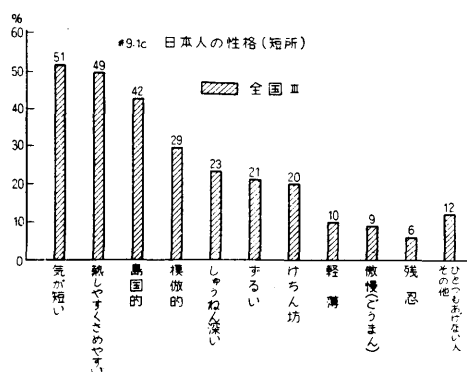
長所・短所ともそれぞれ 10 項目ずつをあげて、そのうちから日本人の性質をあらわしていると思う言葉をいくつかでもえらばせると、つぎのようになる。

まず #9.1 ‘日本人の性格’ の長所についてみると、第7図のようになり、‘勤勉’，‘ねばり強い’，‘礼儀正しい’，‘親切’ などが多くの人々からあげられており、全体的にみると、第Ⅱ次調査の結果とあまり差はみられないが、‘礼儀正しい’，‘親切’ 以下のものがすべて第Ⅱ次調査のときよりへっているのに対して ‘勤勉’，‘ねばり強い’ の2項目だけがふえているのは興味あるところである。さらに ‘ねばり強い’ が多くあげられている\*が、これは、つぎの短所で ‘気が短い’，‘熱しやすく、さめやすい’ などが多くあげられていることと、一見矛盾するような結果になっている。

\* ‘ねばり強い’ が多くあげられていることについての分析は文献 10 第IV章 §9 も参照されたい。



第 7 図



第 8 図

つぎに短所と思われるもの 10 項目についてみると、第 8 図のようになり‘気が短い’ 52%、‘熱しやすく、さめやすい’ 49%、‘島国的’ 42%、が多くの人々からあげられ、ついで‘模倣的’ 29%、‘しゅうねん深い’ 23%、‘ずるい’ 21%、‘けちん坊’ 20% となっていて、‘軽薄’ は 10%、‘傲慢(ごうまん)’ は 9%、‘残忍’ は 6% でごくわずかになっている。

長所も短所も傾向的にみれば、古くからいわゆる日本人の性格としてあげられているものが、多くの人々によってあげられているようにみえるが、2,3 これとは反対になっているようにみえるものもある。

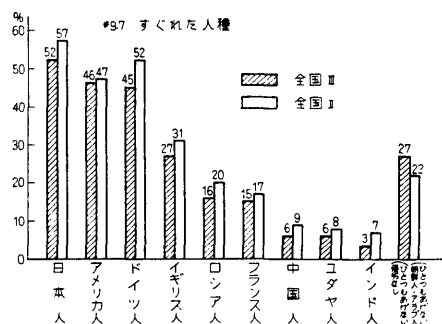
#### ii) 日本と西洋の比較

＃9.3 ‘日本の庭・西洋の庭’で日本の庭(桂離宮)と西洋の庭(ヴェルサイユ宮殿の庭園)の写真(付録 162 ページ参照)をみせて、どちらが好きかをきくと、3 回の調査とも大多数の人(79%, 78%, 85%)が日本の庭をあげ、ここ 10 年の間に大きな変化もみられず、やはり大多数意見のひとつになっている。

生活様式の面では洋風化の進んでいると思われる時代にあつて、このような結果がえられるのは興味あることといえよう。

日本と西洋との比較に関連して、＃9.6 ‘日本人・西洋人の優劣’で、日本人と西洋人とどちらがすぐれているかをみると、‘日本人がすぐれている’と思うものは、第Ⅰ次調査では 20%で‘劣っている’と思うもの 28% より少なかったが、第Ⅲ次調査では、‘すぐれている’と思うものが 33% にふえ、‘劣っている’は 14% にへっている。これは第Ⅰ次調査のおこなわれた 1953 年は、ようやく日本が敗戦から立直り、国際社会の一員として復帰したところであるから、国際的にみると現在にくらべて、やや見劣りのする立場にあつたと思われるので、このような現実の国際的な国力の評価に対する考え方も、この質問の答えに影響を与えているのかも知れない。

この質問とはねらいが少しちがうが、すぐれた人種として、世界中のおもな人種(というよりは・・・国人というもの)をあげ、この中から、‘すぐれていると思うもの’をえらばせる質問＃9.7 ‘すぐれた人種’の結果は、第 9 図のようになり、第Ⅱ次調査、第Ⅲ次調査とも日本人をあげるものが一番多く、半数以上の人々があげている。ついで、アメリカ人、ドイツ人があげられ、イギリス人が 30% 前後の人からあげられ、以下、ロシア人、フランス人が 10% 台の人からあげられてい



第 9 図

る。また、中国人、ユダヤ人、インド人をあげる人々は 10% 以下になっている。

これらの結果からみると、日本人はかなり自分自身に自信をもっているともいえそうである。

### iii) 立派な人物（偉人観）

一般の人々はどのような人物を理想像としているかをしらべるため、#9.4 ‘立派な人物’で歴史上‘有名な人物’とされている人の名をあげ、立派な人物と思うのは誰々かをたずねてみた。

質問にとりあげた人物は一定の基準にしたがって選択し\*、各方面にわたり、かたよりなく歴史上有名な人物をあげることにしたが、調査技術上、第 10 図にあるような 22 人の人物について全国調査をおこなうことにした。

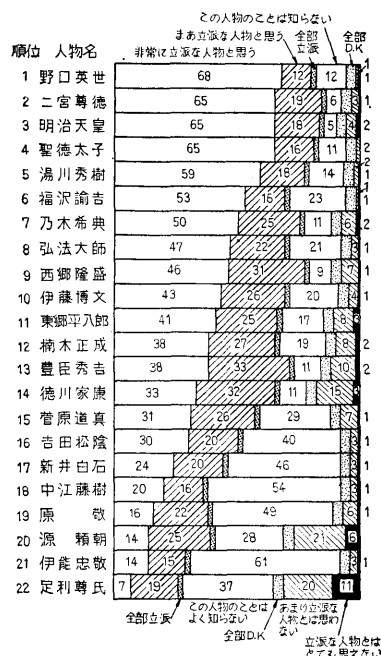
調査は、これらの選ばれた人物の名前をそれぞれ名刺大のカードに印刷し、それらの人物を‘非常に立派な人物と思う’、‘まあ立派な人物と思う’、‘それほど立派な人物とは思われない’、‘立派な人物とはとても思えない’、‘この人物のことはよく知らない’のそれぞれに分類（評価）させることにした。

この結果は第 10 図のようになり、‘非常に立派な人物と思う’に評価された比率の順にみると、野口英世 (68%)、二宮尊徳、明治天皇、聖徳太子 (いずれも 65%) が上位にあり、ついで湯川秀樹 (59%)、福沢諭吉 (53%)、乃木希典 (50%) が過半数から‘非常に立派な人物’にあげられ、以下、弘法大師 (47%)、西郷隆盛 (46%)、伊藤博文 (43%)、東郷平八郎 (41%) が 40% 台、楠木正成 (38%)、豊臣秀吉 (38%)、徳川家康 (33%)、菅原道真 (31%)、吉田松陰 (30%) が 30% 台で、下位には新井白石 (24%)、中江藤樹 (20%)、原 敬 (16%)、源 頼朝 (14%)、伊能忠敬 (14%) がならび、足利尊氏をあげたものは 7% で最も少くなっている。

また‘この人物のことはよく知らない’といわれた比率は、明治天皇 (5%)、二宮尊徳 (5%)、西郷隆盛 (9%)、聖徳太子、乃木希典、豊臣秀吉、徳川家康 (それぞれ 11%)、野口英世 (12%) などのごくわずかであるが、伊能忠敬 (61%)、中江藤樹 (54%)、原 敬 (49%)、新井白石 (46%)、吉田松陰 (40%) などは 40% 以上の人が‘よく知らない’と答えている。

全体としてみると、‘あまり立派な人物とは思われない’、‘立派な人物とはとても思えない’という比率はごく少なくなっているが、足利尊氏 (31%)、源 頼朝 (27%)、徳川家康 (18%) がやや多くあげられ、豊臣秀吉、東郷平八郎、楠木正成も 10% ほどの人々からあげられている。

これらの人物の評価を年齢階層別にみると、弘法大師、菅原道真、楠木正成、新井白石、西郷隆盛、東郷平八郎、乃木希典、明治天皇は年齢の高くなるほど‘非常に立派だと思う’ものの割合がふえており、若いものほど人気のあるものは福沢諭吉、野口英世、湯川秀樹などである。したがって、人物の評価の順も年齢階層によって異なっており、たとえば 20 歳台にもっとも人気のあるのは野口英世、福沢諭吉、湯川秀樹で、いずれも‘非常に立派’というものが 70% 以上になっているが、60 歳以上に人気のあるのは明治天皇 (80%)、聖徳太子、二宮尊徳、乃木希典などになっている。



第 10 図 立派な人物

\* 選択の方法については文献 10 (p. 50 および第四章 §9.4) をみよ。

この立派な人物をえらばせる質問は、1959年に岐阜市でおこなった第Ⅱ次全国調査の吟味調査でも、調査の形式をかえて質問されている\*。このときは立派な人物18人を一枚の紙に生年順にならべて印刷し、その中から「立派と思う人物」を何人でもえらばせる方式をとったが、その結果、えらばれた人物の比率の順位は、全国調査でおこなったカード方式で「非常に立派な人物と思う」に分類評価された比率の順位と、きわめてよくあっている(順位相関係数0.93以上)。したがって、人々のもつ偉人観ともいうべきものは、調査の形式を多少変えてもあまり変化はなく、このようなものであらうと考えられる。

## V. 再調査について

### ——パネル・スタディ——

国民性調査の、いわば本調査に当るものは、毎回新しいランダム・サンプルをとり、5年ごとに、その時その時の日本人の意見をしらべ、5年ごとの意見の変化をみることである。しかし、それだけでは十分深くほりさげた解釈ができないので、各種の付帯調査をおこなっている。この章でとりあげる、再調査(panel study)もそのひとつである。今回の再調査は第Ⅰ次の全国調査のサンプルを、10年たった今日、再び訪問して第Ⅰ次調査のときと同じ質問をして、意見の変化を個人的に追求しようというのである。すなわち、毎回の本調査の方は、時代による世論の変化、いわば「時代差」を追うことに重点があるのである。これに対して、再調査の方は、各サンプル個人が年をとったことによる意見の変化、いわば「年齢差」を追うことに重点があるといえる。

### 1 再調査のサンプリングと調査のやり方

再調査では第Ⅰ次全国調査のサンプルを、再び調査したのであるが、第Ⅰ次の全サンプルを再調査したのではない。実は第Ⅱ次調査のときも、同じ主旨から、第Ⅰ次調査の約半分の調査地点で再調査しているので、今回は残りの半分の地点で再調査した。半分の選定のし方は、文献10 p. 72~74にくわしくのべられているが、要するに第Ⅰ次調査で、面接できたサンプルの半分であるから、一応、ランダム・サンプルと考えることができる。

ただし、実際には第Ⅱ次調査のとき、今回の再調査サンプルになった人々に対して、郵便で住所の確認調査をしているので、そのとき、死亡とか移転が明瞭だった人たちについては、調査をとりやめた。また、第Ⅰ次調査のとき、例えば大都市などでは調査不能が多かったように、調査不能率が一定していない。そこで、第Ⅰ次調査で調査できたサンプルが、今回のその地点の割当数に達しないこともあった。しかし、第Ⅲ次調査でも、あとでのべるように調査不能率がアンバランスであるので(第11図参照)、その修正というようなことはしなかった。

### 2 再調査のサンプルの調査状況

上にのべたように再調査サンプルは、10年前(1953年)の住所しか分からないのであるから、調査の前に現地でまず住所の確認から始めることにした。すなわち、第Ⅰ次調査では住民票からランダム・サンプルをとっているのだから、今回、まず各市町村役場で、以前の住所にいるか否かをしらべた。そうして、原則として、住民票の上で以前の住所にいたことが確認されたサンプルだけを、再調査するように指示した。同じ市町村内での移転については、完全にしらべることが大変なので、偶然気がついたものは、調査対象の中に含めた。なお、住民票は世帯全部が移転すると、5年間しか保存しないので、10年前のサンプルを完全に追求することは

\* くわしくは文献10 第Ⅳ章 §9.4.

きないから、始めから放棄した。

実際の手続きは下記のとおりである。

1. 再調査地点のサンプル名簿へ記入。(上記の第Ⅱ次調査のときの郵便調査で、死亡・移転を確認できたものと、70 歳以上はのぞく) これは研究所でおこなった。以下は調査員が現地でおこなった。

2. 各市町村役場で、現在の住民票による住所の確認。

3. 現在も以前と同じところ(または付近)に住んでいるもののうち、サンプル名簿の記載順に上から各地点に割当てられた数のサンプルを訪問調査する。

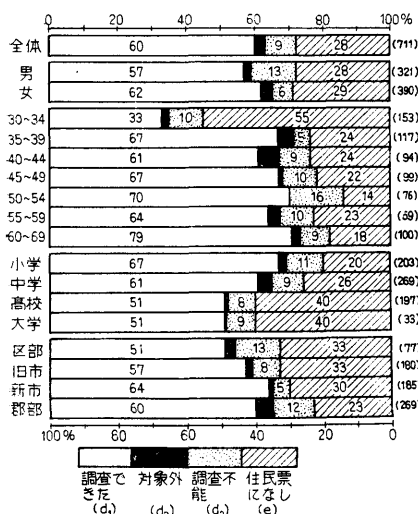
以上である。

この結果はつぎのようになった。

- a) 再調査地点における第Ⅰ次全国調査の回収サンプル総数 ..... 879 人
- b) 第Ⅱ次の郵便調査で死亡・移転が確認されたもの、および 70 歳以上の  
上のため、第Ⅲ次のサンプル名簿に転記しなかったサンプル数 ..... 168 人
- c) 再調査地点のサンプル名簿に転記したサンプル数(住民票でチェックした数) ..... 711 人
- d) 住民票では以前の住所にいたもの ..... 509 人
  - d<sub>1</sub>) 面接できたもの ..... (423 人)
  - d<sub>2</sub>) 面接できなかったもの ..... (67 人)
  - d<sub>3</sub>) 面接の必要のなかったもの ..... (19 人)
- e) 住民票で以前の住所にいないもの ..... 202 人
  - e<sub>1</sub>) 死 亡 ..... (31 人)
  - e<sub>2</sub>) 移 転 ..... (124 人)
  - e<sub>3</sub>) 住民票に見当らない ..... (47 人)

(注: a=b+c, c=d+e)

すなわち、第Ⅰ次調査で調査できた 879 人のうち、今回も調査できたのは 423 人で 47% であった。これをサンプル名簿に記入した 711 人(c)を基準にすれば、60% が調査できたわけである。



第 11 図 再調査サンプル調査状況

この調査状況は第 11 図のようになる。まず性別にみると、女の方が男より調査できた率がやや高い。住民票に現在いない率は男女の間に差がない。このことは男女の死亡率や移転率にはあまり差がないことを示している。結局、男の回収率が低いのは、訪問しても不在だったものが多いことによるものである。

年齢別では現在 30~34 歳のものは、わずか 3 分の 1 しか調査できなかったことが目立っている。そうして、訪問したが調査できなかったという比率は、年齢にあまり関係がない。結局、最若年層が調査できなかった大きな原因は、20 歳台の前半で 4 割以上の人が、移転をするということによるのである。

学歴別にみると、高学歴のものが調査できていな

い。これは、高学歴のものに移転するものが多いことに原因がある。

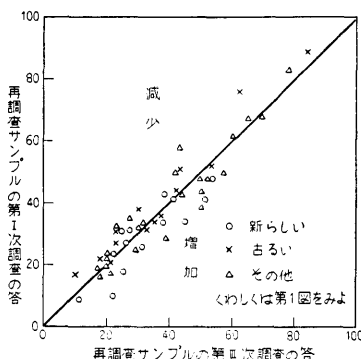
市郡別にみれば、やはり都会化するほど移転が多いことがわかる。

すなわち、再調査できたサンプルは、若年層（30～34 歳）、高学歴、都会の人たちが少なめであった。このことは以下の分析のとき当然考えなければいけないことである。

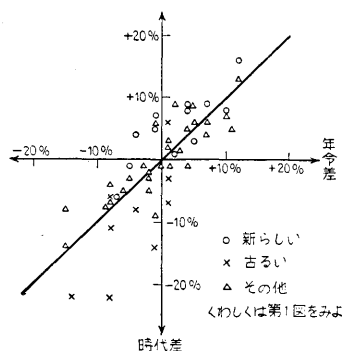
### 3 再調査の結果

#### 3.1 意見の割れ方の変化

再調査の結果、10 年間に意見の分布すなわち、意見の割れ方がどうか変わったかは、付録Ⅱにくわしくあげておいた。これをひとまとめにして、第Ⅲ章のように、答の内容を「いわゆる伝統的、古い日本人の意見」（×印）、「伝統的でない、いわばあたらしい、合理的ともいえる意見」（○印）、「その他の意見」（△印）に分け、10 年間の意見の動きをみたのが、第 12 図である。そうすると、新しい意見は増加しているし、古い意見は減少している傾向が、わずかではあるがみられる。このことは本調査について第Ⅲ章でのべたこととも一致する。



第 12 図 再調査サンプルの答の分布の変化



第 13 図 時代差と年齢差の関係

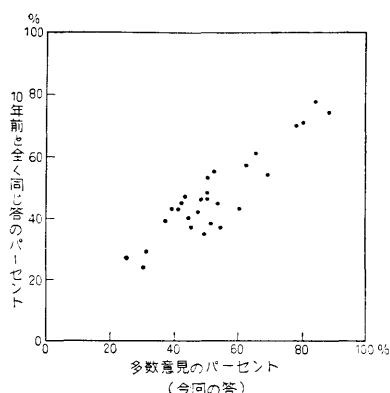
この点、すなわち、本調査と再調査の意見の分布の関係を示すのが、第 13 図である。第 13 図は付録Ⅱの各質問の「年齢差」を横軸に、「時代差」を縦軸にとって画いた。ここに「年齢差」というのは、再調査サンプルの今回の答の%と、前回（10 歳前）の答の%の差、すなわち、10 歳の年をとったことによる意見の差である。「時代差」というのは、今回（第Ⅲ次）の全国調査の答の%と、第Ⅰ次（10 年前）全国調査の答の%の差、すなわち、10 年間の意見の変化を示すものである。この第 13 図によれば、いわゆる新しい、進歩的ないし合理的な意見（○印）は、向って右上（第Ⅰ象限）に多く、逆に、いわゆる伝統的ないし古い日本の意見（×印）は向って左下（第Ⅲ象限）に多い。このことは、前者（新しい意見）が、本調査でも、再調査でもふえ、後者（伝統的な意見）が、本調査でも、再調査でも、ともにへっていることを示している。そして、ごくわずかではあるが、第Ⅰ象限の○印は、斜線の上、第Ⅲ象限の×印は斜線の下に多い傾向がみられることは、年齢差よりは時代差の方が大きいことを暗示しているといえよう。

すなわち、10 歳年をとって、再調査サンプルも、時代の変化に応じて、新しい進歩的・合理的な意見に移る傾向が見られた。しかし、この傾向は再調査が現在 30 歳以上の人たちに限られているためか、10 年前の日本人全体（当時の 20 歳以上）と、現在の日本人全体（現在の 20 歳以上）の間の開きよりは鈍いものである。

#### 3.2 各質問ごとにみた同じ答・反対の答

以上は再調査サンプル全体、すなわち、昭和 7 年以前に生まれた人たちの意見を、一括してみたのである。こんどはもう少しこまかく、10 歳年をとったことによる個人個人の意見の動きをみることにしよう。そのために、まず各質問で同じ答をしたか、全く反対の意見にかわっ

たか、という点から検討をしてみよう。この点を一覧表にしたのが、第 10 表である。10 年たっても答が一番変わらなかったのは、#5.6 ‘めんどろをみる課長’ で、78% が同じ答であり、#9.3 ‘日本の庭・西洋の庭’ (74%)、#4.11 ‘先祖を尊ぶか’ (71%)、#5.9 ‘秀吉は若者の手本’ (70%) もこれにせまっている。以下 60% 台ないし 50% 台、40% 台、30% 台とつづき、最低は #2.4 ‘くらし方’ (27%) や #7.7 ‘仕事の価値’ (29%) である。両方とも、とくに前者は、カテゴリの数が多いために、一致率が低いとも考えられる。しかし、#2.4 ‘くらし方’ は「年齢差」や「時代差」も小さくないので、カテゴリ数のせいばかりではないかもしれない。



第 14 図 多数意見と同じ答の率との関係

逆に、全く反対、対立する意見にかわってしまったものは、#5.1 ‘恩人がキトクするとき’ の 38%、#5.1b ‘親がキトクするとき’ の 37% に最も多い。あとは大部分が 20% 前後である。

しかし、このような同じ答の率とか、全く反対の答にかわった率というのは、上述のようなカテゴリの数だけでなく、内容にもよる。というのは、たとえば、10 年前と今回とで同じ答がいちばん多かった、#5.6 ‘めんどろをみる課長’ では、‘めんどろをみる課長のほうがよい’ という意見が 8 割を越えている。このような関係をみるために、第 14 図をつくった。この図は各質問のうち、再調査のとき最も多くの人が、答えたカテゴリの%を横軸にとり、10 年前と今回と全く同じ答をした人の%を縦軸にとったものである。この図では点が左下から右上にはぼ

第 10 表 再調査の答の一致・不一致の度合

	全く同じ答	全く反対の答	年齢差	時代差
#2.10 c 映画	46	5	中	—
#2.1 しきたりに従うか	43 (44)	20 (23)	小	小
#2.4 くらし方	27 (26)	—	中	大
#2.5 自然と人間との関係	40 (42)	8 (10)	小	中
#3.6 宗教か科学か	54	1	小	—
#3.9 首相の伊勢参り	47	6	中	大
#4.4 先生が悪いことをした	38 (40)	28 (23)	中	中
#4.5 子供に「金は一番大切」	61	17	小	小
#4.8 結婚式・葬式盛大に	42	4	小	小
#4.10 他人の子供を養子に	57	17	大	大
#4.11 先祖を尊ぶか	71	4	小	—
#5.1 恩人がキトクするとき	53	38	大	中
#5.1b 親がキトクするとき	55	37	中	小
#5.2 恩人のむすこの入社	37 (40)	18 (20)	小	—
#5.4 目上の誤解の注意	37	9	大	—
#5.6 めんどろをみる課長	78	15	小	小
#5.9 秀吉は若者の手本	70	3	小	—
#6.2b 男女を希望	62	19	大	—
#7.1 人間らしさはへるか	35	20	中	中
#7.2 心の豊かさはへらないか	43	11	小	中
#7.4 日本と個人の幸福	39	18	小	中
#7.6 勲章か賞金か	45	24	小	小
#7.7 仕事の価値	29	10	中	中
#7.9 ふしだらな科学者	43	21	小	—
#8.1 政治家にまかせるか	45	21	小	大
#8.3b 専門の研究と政治	46	4	小	中
#8.7 支持政党	48	11	小	小
#9.3 日本の庭・西洋の庭	74	17	中	中
#9.6 日本人・西洋人の優劣	24	9	大	大

( ) 内は第 I 次のサンプルを第 II 次のとき再調査したときのデータ

年齢差、時代差は付録 II をみよ。

直線的にならんでいる。このことは、両者の関係が深いことを示している。すなわち、答の不変性は世論の集中度に比例しているのである。したがって、第10表の同じ答の数字が大きい質問は、安定性の高い項目とみることはできない。むしろ同じ答の数字に示されたバラエティそのものが、どの質問でも個人の意見の変化を同じようにもたらすことを示している。

なお、第10表の( )内に示した、第Ⅱ次調査のときの、第Ⅰ次調査サンプルの再調査結果は、今回の数字とほぼ一致している。すなわち、5年後でも10年後でも意見の変わりぐあいにはあまり差がないことになる。

このことから、意見の変化は5歳年をとるまでにおこり、その後持続される、とも解釈できないこともないが、これはどうも実情に合わないようである。むしろ、すぐ上でのべたように、意見の変化はランダムに起っているのだから、5年後だろうと、10年後だろうと、いつ調査しても同様の結果が出るものと考えたほうがよいのではないだろうか。

### 3.3 各サンプルは同じ答を何問で示しているか。

さらに各個人を通じて、10年前と今回で同じ答がどのくらいあったかをしらべてみた。この場合、第10表の29項目のうち、＃1.10c「映画」と＃8.7「支持政党」をのぞく27項目に限った。すなわち10年前と全く意見がかわらなければ、27点であり、どの質問でも全部意見が変わっていれば0点というわけである。そうすると、意見が全く変らなかったものは1人もなく、27問中22問、すなわち88.5%の質問で同じ答だったもの3人が、最高であった。そうして、同じ答がわずか2問でしかなかったものが1人いた。

第11表 27問中、同じ答は何問あったか

	全員	性		年 齢						学 歴			
		男	女	30～34	35～39	40～44	45～49	50～59	60～69	小学	中学	高校	大学
平 均	12.4	13.4	11.6	12.4	12.3	12.2	12.5	12.6	12.5	11.7	12.4	12.8	14.2
サンプル数	423	183	240	51	78	57	66	97	71	136	165	99	17

全員の平均をみると、第11表のように12.4問、すなわち27問中の約半分(46%)しか同じ答でない。これを性別にみれば、男のほうが女より同じ答が多い。年齢別ではほとんど差がないが、学歴別では学歴の高いものほど意見がかわらない傾向を示している。

### 3.4 調査の記憶

再調査できたサンプルに対して、このような調査を10年前にうけた記憶があるかをたずねてみると第12表のようになった。すなわち、27サンプル(6%)については、前回の調査がありがたいと思われるのであるが、サンプルの記憶も実はあまりあてにならないことが多い。中にははっきり前回、「別の人を調査した」というメモも発見されたり、また今回の調査員に、「前回来るといったが来なかった」と語ったものもあった。しかしどこから信用してよいかも急にはきめられないので、一応そのまま捨てないで集計にふくめておいた。なお、この27サンプルについて、第11表のような、同じ答をしらべてみると、最高19問から最低6問である。平均は11.6で、全員の平均よりそれほど低くない。

第12表 10年前の調査の記憶

	確かに受けた	そういえば、受けたような気がする	忘れた、思い出せない	絶対に受けない	記入もれ	計
人	198	90	107	27	1	423
%	47	21	26	6	0	100



## VI 第Ⅲ次全国調査のサンプリングと調査不能

## 1 サンプリング

この第Ⅲ次全国調査は、一般国民のものの考え方を調べることを目的としているから特定の人だけを調査したのでは意味がない。しかし日本人全体を調査することはとうてい不可能であるし、統計の理論に従えばその必要もないであろう。われわれは、全国民の意見のゆがみのない縮図をつくるために以下にのべるようなサンプリングをおこなった。

## 1) 調査の対象

まず、調査の対象は、調査時点（1963年10月）において日本全土に居住する満20歳以上の国民である。実際には選挙人名簿に登録されている有権者が標本抽出の母体になるが、これは選挙人名簿がいろいろ研究の結果\*、手近かにあるサンプル抽出台帳としては、精度も高く実際の抽出に便利であると考えられるからである。

このようにして定めた調査対象の全体から、各個人の抽出される確率を等しくして母集団を構成し、その母集団平均を推定するために、サンプリングをおこなった。われわれのおこなったサンプリングは、第Ⅰ次および第Ⅱ次全国調査のそれとほとんど同じ\*\*であり、ひと口でいえば層別3段サンプリングである。

層別多段サンプリングでサンプルを抽出するばあい、各抽出段階におけるサンプルの割り当てをどのようにするかが問題であるが、調査時点における調査対象に関する資料は、1960年10月1日におこなわれた国勢調査の資料以外に、適当なものがないので、第1段の抽出およびサンプルの割り当てには、この国勢調査の資料を使用することにした。

## 2) サンプルの割り当て

われわれはこれまでの調査の経験をもとにして、調査の費用、サンプリングの精度、調査員の労力、調査誤差の管理等の問題を慎重に考慮した結果、第Ⅲ次全国調査においては調査地点数180地点、サンプル総数3600人と決定した。これをまず、1960年国勢調査における人口割合に比例\*\*\*してそれぞれ、区部、市部、郡部に割り当てると第13表のようになる。

第13表 第Ⅲ次全国調査のサンプル数および地点割り当て一覧表

	1960年 国勢調査人口	人口割合 (%)	サンプル数	地点数
区部	16,688,030	17.9	643	33
市部	11,200,471	11.9	433	22
部	9,913,713	10.6	382	19
部	10,723,841	11.5	403	19
部	11,042,099	11.7	425	21
町村	34,084,057	36.4	1,314	66
全国計	93,418,501	100.0	3,600	180

1960年10月1日現在の人口および行政単位によって分類した。

## 3) 層別・調査地点の抽出

全国の行政単位（区市町村）をまず区部、市部、郡部にわけて第1次層別をおこない、第

\* サンプリングの台帳の精度の研究により、通常使用されるサンプリング台帳として住民票と選挙人名簿の正確さには、それ程差がないことが確められている。

\*\* 文献10第Ⅱ章 §3 p. 58 以下をみよ。

\*\*\* 調査の実施上、比例割当法によるのが適当であると判断され、しかも調査対象数と全人口とは極めて高い相関関係（ $\rho \geq 0.996$ ）があることが確められている。

表のように調査地点、サンプルを割り当てた。つぎに、各市町村ごとの国勢調査の結果を利用して、それぞれ市町村を地方性、人口、産業構成等を基準にして類別し層別をおこなった。

郡部の層別はまず、地方性を考え、各地方ごとに、その中を各市町村の産業構成(農業率<sup>\*</sup>、近代産業率<sup>\*\*</sup>)をみてグループ分けした。このさい各調査地点における割当てサンプル数をほぼ 20 人 ( $3600 \div 180$ ) にそろえるように考え、一層当りの大きさは ( $9340 \text{ 万} \div 180 \approx$ ) 52 万を目標にして層を組み、各層より確率比例サンプリングにより、ひとつの町村を抽出した。つぎに、市部の層別は、まず人口により、人口 20 万以上の市、人口 10 万台の市、人口 5 万から 10 万未満の市、人口 5 万未満の市にわけて、各層内を地方性および 1960 年衆議院選挙のさいの各党得票率を考慮して組分けし、各層から市の大きさ(人口)に比例する確率をもって、ひとつの市を抽出した。しかし、市の大きさの関係で、層の大きさを目標(52万)の 2 倍、3 倍に組んだ層もある。この場合は等しい大きさの層が二つ、三つ並んでいると考え、等間隔サンプリングで市を抽出した。また区部の層別は、各都市ごとに各区を行政慣行の順にならべ、市部の場合と同様に、確率比例サンプリングで区を系統的に抽出した。

第 2 段サンプリングは、うえにのべた方法でそれぞれ抽出された各区市町村から、ひとつの投票区を、投票区の人口に比例する確率をもってえらび出した(確率比例サンプリング)。

第 3 段サンプリングは、抽出された(各市町村の)投票区における選挙人名簿から個人を、等間隔サンプリングで抽出した。

この第 2 段サンプリングおよび第 3 段サンプリングにおいては、あらかじめ資料にもとづいて、きめておいたスタート番号、抽出間隔により、調査員が各市町村役場の選挙管理委員会において、実際のサンプル抽出作業をおこなった。各調査地点に割り当てられたサンプル数はすでにのべた通り各層の人口に比例した数が割り当てられた。

これらの層別のあらましは第 15 表にある。

#### 4) サンプリング誤差

われわれのサンプリングは層別 3 段サンプリングであるから、単純なランダム・サンプリングのときにくらべ推定の精度は悪くなり、比率推定の場合の誤差分散は、単純な抽出の場合にくらべ、2~2.5 倍となる<sup>\*\*\*</sup>。したがって、母集団比率 P のいろいろな値に対する相対誤差は、サンプル総数 3600、推定の信頼度を 95% とするとき、おおよそ第 14 表のようになる。

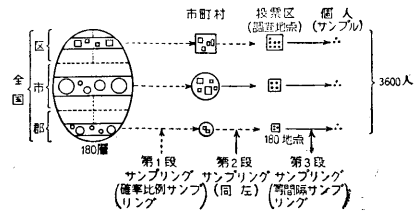
第 14 表 3 段抽出のときの比率と相対誤差

P (母集団比率)	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8
相 対 誤 差 (%)	17	12	9	7	6	5	4	3

\* 農業率は農業

\*\* 近代産業率は製造+販売+サービス+公務+運輸 } これらの産業に従事する男の就業者の中の比率でとくに農業率では全国の町村のモードが 60% 台であるからこれを基準にした。なお、産業率はいづれも 1955 年国勢調査の結果による。

\*\*\* これまでのいろいろな調査データにもとづく試算の結果である。たとえば文献 10 のサンプリングの項をみよ。



第 15 図 サンプルの概要  
[第Ⅲ次全国調査]

第 15 表 第 III 次全国調査の層別のあらまし

		人 口 (千人)	層の 数	市町 村数	割当サン プル数			
全 国	区部	東 京 23 区	8,310.0	16	1	320		
		横 浜 市	1,375.7	3	1	54		
		名 古 屋 市	1,591.9	3	1	61		
		京 都 市	1,284.8	3	1	51		
		大 阪 市	3,011.6	6	1	114		
		神 戸 市	1,114.0	2	1	43		
	市部	人口20万 以上の市	北 海 道 地 方	766.8	2	2	30	
			東北、北陸地方の県庁所在地	1,552.0	3	6	63	
			神 奈 川 県	920.3	2	2	36	
			東 関 東 地 方	480.6	1	2	19	
			東 海 地 方	1,181.8	2	4	46	
			大 阪 周 辺	1,835.2	4	6	12	
			瀬戸内海（中国、四国）	1,615.8	3	6	62	
			九州地方の人口30万以上の市で県庁所在地	1,661.2	3	4	63	
			九州地方の県庁所在地以外	1,087.0	2	4	42	
			人口 10 万台の市	層別略	9,913.7	19	71	382
			人口 5 万～10 万未満の市	層別略	10,478.7	19	156	403
			人口 5 万未満の市	層別略	11,040.8	21	287	425
	郡部	北 海 道 の 町 村	層別略	2,449.3	5	199	94	
		東北地方の町村	層別略	4,941.1	10	384	191	
		関東地方の町村	層別略	5,442.6	10	395	209	
		中部地方東（新潟、長野、山梨、静岡）の町村	層別略	6,552.1	{ 7	364	140	
		中部地方西（富山、石川、福井、岐阜、愛知）の町村	層別略		{ 6	279	112	
		近畿地方の町村	層別略	3,590.7	7	330	140	
		中国地方の町村	層別略	3,021.0	6	320	119	
		四国地方の町村	層別略	2,070.1	4	200	79	
		九州地方の町村	近代産業率**≥30% 福 岡 県	535.3	1	34	20	
			近代産業率 ≥25% 福岡県以外	554.7	1	39	21	
			鉱 業 ≥50%	592.2	1	30	23	
			農、林、漁業 ≥50% 福岡県、熊本県北部	597.3	1	51	23	
			〃 長 崎 県	603.5	1	59	23	
			〃 佐賀県、熊本県の天草	452.7	1	40	17	
			〃 熊本県の大部分	575.2	1	57	22	
			〃 大 分 県	556.4	1	51	21	
			〃 宮 崎 県	515.4	1	43	20	
			〃 鹿児島県中東部	581.3	1	41	22	
			〃 〃 南西部	461.8	1	39	18	
						93,384.6*	180	3,511

\* 市町村の廃置分合、四捨五入の誤差で

総人口 93418.5(千人) と合わない。 20 サンプル 518,883

\*\* 近代＝製造＋販売＋サービス＋公務＋運輸 1 サンプル 25,944

上記産業の就業者中の %

## 2 調査不能

### 1) 調査不能

第Ⅲ次全国調査では計画したサンプル 3600 に対して、調査が完全にできたものは 2698 であり、調査ができなかったものは 902 になり、調査不能率は 25% になっている。これは、第Ⅰ次、第Ⅱ次の全国調査における調査不能率 18% とくらべてやや悪くなっていると考えられる。

### 2) 調査不能の理由

調査不能の理由をみると第 16 表のようになり、調査ができなかったもののうち 27% は移転、21% は長期不在（出張、旅行中）であり、一時不在（何回訪問しても不在）が 13%、該当者にたずね当らず、12%、病気 12%、調査を拒否したものが 10% である。

第 16 表 調査不能の理由

全 国 Ⅲ	対 象 外	死 亡	移 転	尋該 ね当 らな ずし	病 気	長 期 不 在	一 時 不 在	拒 否	そ の 他	計
%	0	3	27	12	12	21	13	10	2	100
実 数	5	28	243	108	107	187	117	89	18	902

第 17 表 性別・年齢別にみた調査不能

全 国 Ⅲ	性 別		年 齢 別										計
	男	女	20 1 24	25 1 29	30 1 34	35 1 39	40 1 44	45 1 49	50 1 54	55 1 59	60歳 以上	対象外 (分類 不能)	
集 計 (→)	46.5	53.5	12.4	13.4	13.6	12.3	10.3	8.9	2.2	5.6	14.3	—	100.0(2698)
不能サンプル(→)	52.3	47.3	20.0	11.2	11.5	8.2	7.4	5.2	5.2	5.6	17.	1.8*	100.0 (902)
不 能 率 (↓)	(27)	(23)	(35)	(30)	(22)	(18)	(19)	(16)	(16)	(25)	(29)		(25)
計画サンプル(→)	48.0	52.0	14.4	14.4	13.1	11.2	9.6	8.0	8.3	5.6	15.2	—	100.0
35 年国調 1% 集計 (%)	47.9	52.1	14.8	14.7	13.3	10.7	9.0	8.6	7.5	6.5	14.9		100.0

\* 生年月日の違いなどで調査不能扱いになったもの 13 を含む。

### 3) 調査不能サンプルの内訳け、基本項目別の不能率

調査不能になったサンプルは、性別構成では男の方が女より多くなり、これを調査不能率でみると男の調査不能率（サンプルとしてえらばれた男のサンプルのうち、調査不能となったものの%）は 27%、女のそれは 23% である。年齢別にみると、調査不能は 20 歳台、60 歳以上の年齢層にやや多くなる。すなわち、20~24 歳の調査不能率は 35%、25~29 歳の不能率は 30%、60 歳以上では 29% になるが、35~54 歳では 20% 以下（16~19%）になっている。また市郡別にみると、6 大都市の調査不能率は 33% で、およそ 1/3 は調査できなかった

第 18 表 地方別・市郡別の調査不能率

全国Ⅲ	地 方 別									市 郡 別						計
	1 北海道	2 東北	3 関東	4 中部 (東)	5 中部 (西)	6 近畿	7 中国	8 四国	9 九州	1 6 大 都 市 万	2 20万 以上の 市	3 10~20 万の市	4 5~10 万の市	5 5万未 満の市	6 町村	
不能率 (%)	29	24	29	19	24	24	20	24	27	33	26	25	24	24	22	25

ことになり、町村では 22% になっている。しかし、いずれも集計するサンプルに非常に大きなかたよりをひき起こすほどのものではない。(つぎの補正の項をみよ)。

#### 4) 調査不能によるゆがみとその補正

全サンプルのうち、25% が調査不能であったが、この影響をみるために、つぎのようにして年齢、地方別、市郡別にウェイト付け集計\*をして補正をおこなってみると、ほとんどの項目

第 19 表 年齢による調査不能補正の例

年 齢	#3.1 ‘宗教を信じるか’ の答の % (→)				母集団での 年齢別構成 (↓)
	信 じ る	信 じ ない	その他無答	計	
20～22 歳	8	92	0	100	0.148
25～29 歳	19	81	0	100	0.147
30～34 歳	17	83	0	100	0.133
35～39 歳	23	77	0	100	0.170
40～44 歳	36	64	0	100	0.090
45～49 歳	45	54	1	100	0.086
50～54 歳	44	56	0	100	0.075
55～59 歳	42	58	0	100	0.065
60 歳以上	55	45	0	100	0.149
単 純 集 計	69	31	0	100	1.000
補 正 値	69.88*	30.03	0.09	100.00	

\* 補正值  $69.88 = (8 \times 0.148) + (19 \times 0.147) + \dots + (55 \times 0.149)$

以下も同様に算出する

では単純集計と差はなく、2% 以上差のある項目はみられなかった。

すなわち、調査不能サンプルが調査できた人々にくらべて、よほど特異なグループでもない限りは、母集団と集計サンプルの間の、基本項目における構成のくいちがいによるゆがみは、ほとんどないと考えられる。

補正計算の例をしめすと第 19 表のようになり、単純な集計の結果とほとんど差がない。二、三の計算値をしめすと第 20 表にある通り年齢的傾向の大きな項目についてみても差が 2% を

第 20 表 年齢による補正計算値の例

項 目 カ テ ゴ リ	#5.1d ‘大切な道徳’					#8.4 ‘校長の礼服’				#9.4 ‘立派な人物’
	親孝行 をあげ た	あげな い	恩返し をあげ た	権利尊 重をあ げた	自由尊 重をあ げた	礼服つ くれ	礼服 不用	その他	無答	明治天皇を非常 に立派と思う
単 純 集 計	61	39	43	48	40	41	52	2	5	65
年齢による補正值	59.47	40.53	42.39	49.10	40.78	40.23	52.48	2.27	5.02	65.06

第 21 表 市郡による補正例

項 目 カ テ ゴ リ	#4.10 他人の子供を養子にするか				計
	つがせる	つがせない	そ の 他	無 答	
単 純 集 計	51	32	13	4	100
市郡別補正值	49.86	32.55	13.26	4.33	100.00

\* 第 19 表の例にあるように、全国平均を求めるとき各項目別（たとえば年齢別）の集計結果に母集団におけるその項目の構成比率に応じた割合を乗じて加え、平均を出すこと。

こえるものはない。また、市郡別による補正については、たとえば市部、郡部でかなり差のある #4.10 ‘他人の子供を養子にするか’ をみると第21表のようになり、年齢による補正計算の場合とほぼ同程度になっている。

#### 5) 調査の精度

われわれの調査はサンプル調査であるから、得られた結果にはサンプリング誤差、およびその他の調査誤差が含まれている。この大略の値を求めてみると、調査不能があるため、サンプリング誤差は、最初計画したものよりおよそ 20% 増加し、その他の調査誤差による推定分散の増加まで考慮すると、推定すべき母集団の比率  $P=0.3$  のところで相対誤差はおよそ 10~13% になると考えられる。

また、各層における調査不能率の差異により生ずるかたより\*は、前項の計算例によってみても、たかだか 2% 以下であり、調査不能によって生じうるかたよりも、たかだか 3~4%\*\* ていどと考えられる。したがって、かたよりの相対値は（比率  $P=0.5$  付近で）たかだか 10% 前後とみられる。

統計数理研究所

《訂正》 132 ページの第7図の中 ‘親切’、および ‘理想を求める’ の第Ⅲ次調査の結果 41% および 23% はそれぞれ 42%, 24% である。

また、第8図の ‘気が短い’ 51% は 52% である。

---

\* このかたよりは推定方法によるものである。

\*\* 調査できたグループと不能グループでの回答比率の差はそれ程ないことがたしかめられているが、これを最大 10~15% と考えると、不能率は 25% であるから、かたよりは 2.5~3.8% となる。

# 付 録 I 質 問 と 単 純 集 計

## 調 査 項 目 一 覧 表

(質問の索引をかねる)

- 質問項目の分類 (§) は文献 (10)「日本人の国民性」と同じであり、集計表もこの順である。 # 番号も同様に国民性の調査に共通な質問の整理番号である。
- 全国調査の欄は、それぞれの調査における質問の順序(問番号)をあらわす。また全国Ⅱは問 1~35 と問 101~135 の 2 種類の調査票をつかったので、100 番台の質問は終わりの 2 ケタが問番号になる。
- 今回の調査(全国・Ⅲ)で新しくとり上げた質問は見出しの後に(新)としてある。また 1959 年におこなわれた岐阜吟味調査で検討され、今回始めて全国調査にとり上げられたものはその他の欄にしめされている。
- 他調査との関係は、§1 基本項目では 1960 年の国勢調査結果との比較を主にし、§2 以下では前 2 回の全国調査との比較をする。

原則として { 5% 以下の傾向のある変化……やや多い(やや少い, ややふえる, ややへる)  
 { 5~10% の変化……多い(少い, ふえる, へる)  
 { 10% 以上の変化 ……大きくふえる(大きくへる)

- 全国・Ⅰ=1953 年におこなった第Ⅰ次全国調査  
 全国・Ⅱ=1958 年におこなった第Ⅱ次全国調査  
 全国・Ⅲ=1963 年におこなった第Ⅲ次全国調査(今回の調査)  
 岐阜 1959=1959 年に岐阜市でおこなった第Ⅱ次全国調査の吟味調査  
 岐阜 1963=1963 年に岐阜市でおこなった第Ⅲ次全国調査の準備調査(数研リポート No.8 参照)

## 質 問 項 目 の 一 覧 表

§	項 目		全 国 調 査			その他	他 調 査 と の 関 係
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963		
§1 基 本 項 目	1.1	性	1	1,101	○		国調 1960 と同じ
	1.2	年 齢	1	1,101	○		同上, 20 歳台はやや少なく 30 歳台やや多い
	1.3	学 歴	55	{ 32 a 132 a	○		全国Ⅰ, Ⅱよりやや学歴高くなる 国調 1960 とほぼ同じ
	1.4	職 業	○	{ 31 a 131 a	○		全国Ⅰ, Ⅱと職業のとり方, 分類をかえた
	1.5	住所の区市郡別	○	○	○		全国Ⅰ, Ⅱより郡部へる, 市部の分類変更, 国調 1960 と同じ
	1.6	住所の地方別	○	○	○		国調 1960 とほぼ同じ
§2 個 人 的 態 度	2.1	しきたりに従うか	4	7,107 27	7		‘場合による’ふえる, 他変化なし
	2.2	反対をおし切って実行	—	{ 27 127	19		全国Ⅱと同じ
	2.4	くらし方	39	22	26		‘趣味’‘のんきに’ややふえ‘清く正しく’ややへる
	2.5	自然と人間との関係	34	15	15		‘自然に従え’ややへり‘征服’ややふえる
	2.7	一番大切なもの	47	{ 29 129	29		

§	項 目		全 国 調 査			その他	他 調 査 と の 関 係
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963		
§3 宗 教	3.1	宗教を信じるか	—	16 a	28 a		‘信じる’ ややへる
	3.1 d	宗派名 (していること)	—	16 b	28 a		‘していること’ で信仰の強さをみる, 新興宗教がやや強い
	3.2	「宗教心」は大切か	—	16 c	28 b		‘大切’ ふえる
	3.9	首相の伊勢参り	14	110	10		‘行かねばならぬ’ ‘行った方がよい’ へる ‘本人の自由’ 大きくふえる
§4 子 供 ・ 家	4.4	先生が悪いことをした	9	6	4		‘そんなことない’ と否定するものへり, ‘ほんとう’ と肯定するもの大きくふえる
	4.5	子供に「金は一番大切」と教える	24の1	—	5		‘賛成’ へり ‘いちがいにいえない’ ふえる
	4.8	結婚式・葬式盛大にするか	17	109	9		全国IIより ‘よくない’ へり ‘身分相応に’ 大きくふえ全国Iとよく似る
	4.10	他人の子供を養子にするか	28の1	106	2		‘つがせる’ 大きくへり ‘つがせない’ 大きくふえる
§5 身 近 か な 社 会	5.1	恩人がキトクするとき	41	111 a	13 a		全国IIより ‘故郷へ帰る’ ややへり ‘会議に出る’ ややふえ両者同比率になる
	5.1 b	親がキトクするとき	42	111 b	13 b		全国IIより ‘故郷へ帰る’ へり ‘会議に出る’ ふえる
	5.1 c	入社試験 (新)	—	—	20a, b		‘恩人の子を採用’ で意見変えるもの多い §5.1, 5.1 b より鋭敏
	5.1 d	大切な道徳 (新)	—	—	17		戦前尊重された道徳と, 戦後尊重される道徳との比較 戦前型, 戦後型それぞれ2割前後混合型多い
	5.1 e	「親孝行」戦前との比較 (新)	—	—	18 a		‘しなくなった’ 70%
	5.1 f	「恩返し」 // (新)	—	—	18 b		‘しなくなった’ 66%
	5.1 g	「個人の権利尊重」 // (新)	—	—	18 c		‘尊重するようになった’ 76%
	5.6	めんどろをみる課長	35	117	21		‘めんどろをみる’ 全国IIよりふえ全国Iとよく似る
§6 男 女 差 別	6.2	男女の生まれかわり	—	103	1 a	岐阜1959	全国IIより女のサンプルの ‘男に’ へり ‘女に’ ふえる
	6.2 c	苦勞どちらが多いか	—	—	1 b	岐阜1959	
	6.2 d	楽しみどちらが多いか	—	—	1 c	岐阜1959	
§7 一 般 の 社 会 問 題	7.1	人間らしさはへるか	5	3	6		‘賛成 (へる)’ ‘いちがいにいえない’ ふえ ‘反対 (へらない)’ へる
	7.2	心の豊かさはへらないか	29	24	12		‘いちがいにいえない’ ふえ ‘賛成 (へらない)’ ややへる
	7.4	日本と個人の幸福	45	—	16		全国Iより ‘個人→日本’ ふえ ‘日本→個人’ へる
	7.5 b	公益と個人の権利	—	(119)	23	岐阜1959 1963	全国IIと質問異なる
	7.6	勲章か賞金か	23	9	14		全国IIと同じ
	7.7	仕事 の 価 値	8	108	8		全国IIより ‘学者芸術家’ へり ‘同じ’ ふえ全国Iによく似る, 実際の仕事’は全国I, IIよりややへる
	7.13c	法 律 の 精 神 (新)	—	—	22		‘ぐあいよく生活できるよう’ と ‘正義がおこなわれるよう’ と半々
	8.1	政治家にまかせるか	30	{ 12 112	11		‘賛成 (まかせる)’ へり ‘反対’ ‘他’ ふえる



§	項 目		全国調査			その他	他調査との関係
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963		
§8 政治 的 態 度	8.2 e	「民主主義」はよいか(新)	—	(123a)	27 a		全国Ⅱでは「・・・主義」という言葉が「よい感じ」かどうかであるが、全国Ⅲは「・・・主義」はよいかどうかをリストを見せて回答させる。結果はかなり異なる
	8.2 f	「資本主義」はよいか(新)	—	(123b)	27 b		
	8.2 g	「自由主義」はよいか(新)	—	(123c)	27 c		
	8.2 h	「社会主義」はよいか(新)	—	(123d)	27 d		
	8.3 b	専門の研究と政治	43	—	24		
	8.4	校長の礼服	—	2	3		
	8.6	選挙への関心	—	{ 34 134	33		
	8.7	支持政党	58	{ 35 135	35		
§9 日 本 人 ・ 人 種	9.1	日本人の性格(長所)	—	{ 28 128	32 a	岐阜1959 1963	全国Ⅰ、Ⅱより「日本の庭」ふえ「外国の庭」へる  岐阜1959はリストにあげて、立派な人物をえらばせる方式、全国Ⅲ(岐阜1963)は人物カードにより分類させる。順位はどれもほぼ同じ  全国Ⅰより「すぐれている」大きくふえ「劣っている」大きくへる
	9.1 c	日本人の性格(短所)(新)	—	—	32 b		
	9.3	日本の庭・西洋の庭	32	21	25		
	9.4	立派な人物	—	—	34		
	9.6	日本人・西洋人の優劣	25	—	30		
	9.7	すぐれた人種	—	124	31		

## 質問文と単純集計表

- ここには、第Ⅲ次全国調査で使用した質問の全文(回答リストを使用したものはリストにあげられた選択肢まで)とその単純集計表を、各 §, および # 番号順に収録してある。
- 掲載した質問文は原則として第Ⅲ次全国調査で使用したものを基準にして掲げ、小変更の場合は、その個所だけを示した。
- 原則として # 番号には1つの質問文および単純集計表が対応するが、質問文あるいは選択肢を大きく変更した場合、同様な質問で比較検討を加えるような場合には比較しやすいように # 番号をまとめて示した場合もある。
- 比較のためあげた他調査はつぎのようなものである。

集計表にあげた略称	説 明
全 国・Ⅰ	1953 年におこなった第Ⅰ次全国調査の結果を示す
全 国・Ⅱ	1958 年におこなった第Ⅱ次全国調査の結果を示す
全 国・Ⅲ	1963 年におこなった第Ⅲ次全国調査の結果を示す
岐 阜 1959	1959 年に岐阜市でおこなった第Ⅱ次全国調査の吟味調査の結果を示す。原則として第Ⅲ次全国調査に関連の深い結果のみをとり上げている
岐 阜 1963	1963 年に岐阜市でおこなった第Ⅲ次全国調査の準備調査の結果を示す。おもに第Ⅲ次全国調査で新しくとりあげた質問、修正した質問の結果をとり上げた
1960 国勢調査	1960 年 10 月 1 日におこなわれた国勢調査の結果を示す。くわしい説明は該当するところに注記してある

- 表の中のイタリックの数字は%を示し、計の右に( )で示したのは集計に用いたサンプル数である。
- 集計表にあげられた選択肢のうち D.K. (Don't know) は「分からない」の意味であるが、われわれ

は、これを少し広くとり、調査員につぎのように指示しておいた。

サンプルが質問の内容を理解しないときは、質問をくりかえしてみても、それでも分からないようなら D. K. (Don't know) とすること。質問は義務教育だけでも分かるはずの言葉を使うように心がけている。中には二、三その範囲を越えることもあるが、統計調査であるから、この言葉で質問したとき、無答の人がどのくらいいたかは大切なデータとなるので、いいかえたりしないこと。また、サンプルが質問に対して判断する力がないもの、あるいは、その質問の答を拒否したものをさす(理由をいわずに“なんともしえない”とか 2, 3 回質問をくり返してみても“さあ、わかりません”といったものを含む)。

## §1 基本項目

### #1.1 性, #1.2 年齢

あなたのお生れは、

明治, 大正, 昭和	年	月
------------	---	---

 ですね

男 女
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>1 その通りだ</span> <span>2 否</span> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>明治, 大正, 昭和</span> <span>年</span> <span>月</span> </div>

	問	男	女	計	20 ~ 24	25 ~ 29	30 ~ 34	35 ~ 39	40 ~ 44	45 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60歳 以上	計
全 国・I	1	47	53	100	19	15	12	11	18		15		10	100(2,254)
全 国・II	1,101	46	54	100	15	14	14	10	19		14		14	100(2,369)
全 国・III	—	46	54	100	13	13	14	12	10	9	9	6	14	100(2,698)
1960 国勢調査*	20歳以上 日本人人口	47.9	52.1	100.0	14.8	14.7	13.3	10.7	9.0	8.6	7.5	6.5	14.9	100.0
参 考														
岐阜 1959	—	48	52	100	30		25		20		13		12	100(817)
岐阜 1963	—	48	52	100	25		31		17		15		12	100(402)

\* 1960 年国勢調査の 1% 抽出集計結果

### #1.3 学 歴

あなたが、最後にいらっしゃった学校はなんですか？

	問	小学	中学	高校	大学	不明	計
全 国・I	55	33	35	24	6	2	100 (2,254)
全 国・II	32 a, 132 a	31	37	24	7	1	100 (2,369)
全 国・III	—	21	41	29	8	1	100 (2,698)
1960 国勢調査*	20 歳以上	21.0	48.0	24.0	6.0	1.0**	100.0
岐 阜 1959	—	27	35	29	8	1	100 (817)
岐 阜 1963	—	17	44	31	8	0	100 (402)

\* 1% 抽出集計結果

\*\* 20 歳以上在学者

注 小学は学歴なしをふくむ、中学は旧制高等小学をふくむ。

高校は工(商)業高校・旧制中学校〔中学校, 商(工)業学校, (高等)女学校などをふくむ。

大学は旧制高専〔旧制高等学校, 工(商)業専門, 高等工(商)業〕をふくむ

### #1.4 職 業

あなたが現在なさっている職業についておうかがいします。

〔この質問では質問文はいいかえたり、補足したり自由にしていよい〕

質問要領	ア) あなたが働いている勤め先はなんというところですか？	イ) 従業員は会社全体で何人ぐらいですか？	ウ) あなたはそこでどんなお仕事をしていますか？	エ) あなたはそこで、なにか役名がありますか？	オ) あなたは業主ですか、雇われているのですか？
注	商店、会社、工場、官庁などの名称 ただし、勤め先の大きさ（従業員数）本人の仕事の内容がわかれば、くわしくくわしく必要がない	支店や営業所の人数だけでなく、会社全体、店全体をきく 官庁の人は不用	本人の仕事をきく。会社の産業ではない	一般工員 組 長 班 長 職 長 係 長 課 長 部 長 重 役 社 長 店 主 店 員 etc	他人を雇っている店主・業主 他人を雇っていない店主・業主 家族従業者（店主は家族） 雇われている（商店・会社・官庁など）
意		十人未満 十人以上 百人以上 千人以上			
		1 2 3 4			1 2 3 4

これより本文でのべた職業分類基準により、つぎのような職業分類を作った。

	問	専門技術	管 理	大企業ホワイトカラー	中小企業ホワイトカラー	小企業主	農林漁
全 国・Ⅲ 参考 全 国・Ⅱ	— 31 a, 131 a	3	2	6	3	11	16
		6		11		8	29
		大企業ブルーカラー	中小企業ブルーカラー	単純労働	家族従業	主婦無業	その他 D.K.
参考 全 国・Ⅱ		7	8	2	3	38	1
		7		4	—	22	13
職業大分類		専門技術	管理	事務	販売	農林漁	採鉱採石
参考 1960 国勢調査 20 歳以上就業者		5.2	2.6	10.4	10.7	34.4	0.9
						運輸通信	技能工程従事者
						26.2	6.1
							サービス
							計
							100.0

#### ※1.5 住所の区市郡別

	区部		市部			郡部	計
全 国・Ⅰ	13	26				61	100 (2,254)
	区部	旧市	新市			郡部	
全 国・Ⅱ	15	29	12			44	100 (2,369)
全 国・Ⅲ	16	12	11	11	12	38	100 (2,698)
	区 部 (6 大都市)	人口20万 以上の市	人口10～ 20万の市	人口 5 ～ 10万の市	人口 5 万 未満の市	郡部	計
1960 国勢調査*	17.9	11.9	10.6	11.5	11.7	36.4	100.0

\* 全人口確定数 (100% = 93,418,501)

## #1.6 住所の地方別

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
全 国・I*	5	14	17	21	11	16		16	100(1,370)
全 国・II	5	10	25	18	14	8	5	15	100(2,369)
全 国・III	5	10	23	19	17	8	5	13	100(2,698)
1960 国勢調査	5.4	10.0	24.7	17.7	16.6	7.4	4.4	13.8	100.0

\* 全国・Iは郡部のみ

## §2 個人的態度

## #2.1 しきたりに従うか

あなたは自分が正しいと思えば世のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思いますか、それとも世間のしきたりに、従った方がまちがいないと思いますか？

1 おし通せ	2 従え	3 場合による
X その他〔記入〕		Y D.K.

	問	おし通せ	従え	場合による	他	D.K.	計
全 国・I	4	41	35	19	1	4	100 (2,254)
全 国・II	7, 107	41	35	19	1	4	100 (2,369)
全 国・III	7	40	32	25	1	2	100 (2,698)

## #2.2 反対をおしきって実行

〔リスト〕 自分が正しいと思ったことを、他の人に、十分説明しても、聞き入れられない場合、つぎのどちらの態度をとる人が望ましいと思いますか？

1 他の人の反対を押し切っても実行する人
2 反対があれば実行をとりやめる人
X その他〔記入〕
Y D.K.

	問	実行	とりやめ	他	D.K.	計
全 国・II	27, 127	54	32	7	7	100 (2,369)
全 国・III	19	55	32	6	7	100 (2,698)

## #2.4 くらし方

〔リスト〕 人のくらし方には、いろいろあるでしょうが、つぎにあげるもののうちで、どれが一番あなた自身の気持ちに近いものですか？

1 一生けんめい働き、金持ちになること
2 まじめに勉強して、名をあげること
3 金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をすること
4 その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと
5 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しくくらすこと
6 自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと
X その他〔記入〕
Y D.K.

	問	金持ち	名をあげる	趣味	のんきに	清く正しく	社会につくす	他	D. K.	計
全国・Ⅰ	39	15	6	21	11	29	10	4	4	100 (2,254)
全国・Ⅱ	22	17	3	27	18	23	6	3	3	100 (920)
全国・Ⅲ	26	17	4	30	19	18	6	3	3	100 (2,698)

## #2.5 自然と人間との関係

〔リスト〕 自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い（ほんとうのことに近い）と思うものを、ひとつだけえらんで下さい？

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| 1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない   |         |
| 2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない  |         |
| 3 人間が幸福になるためには、自然を征服してゆかねばならない |         |
| X その他〔記入〕                      | Y D. K. |

	問	自然に従え	自然を利用	自然を征服	他	D. K.	計
全国・Ⅰ	34	27	41	23	1	8	100 (2,254)
全国・Ⅱ	15	20	38	28	1	13	100 (920)
全国・Ⅲ	15	19	40	30	1	10	100 (2,698)

## #2.7 一番大切なもの

〔全国・Ⅱ、全国・Ⅲ〕 あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。一つだけあげて下さい？（なんでもかまいません）

〔全国・Ⅰ〕 あなたの家で一番大切と思うものはなんですか。一つだけあげて下さい？

〔品物、愛情、子供などなんでもよいが、こちらからは絶対に例をあげるな〕

	問	健康	子供	家族	幸福、愛情など	金・財産	他	D. K.	計
全国・Ⅰ	47	12	12	19	11	16	25	5	100 (2,254)
全国・Ⅱ	29,129	21	11	11	21	12	19	5	100 (2,369)
全国・Ⅲ	29	26	10	13	15	12	19	8	(2,698)*
	問	健康自生	子供	家族両方	幸福、愛情、誠実など	金・財産	他**	D. K.	サンプル数

\* 2 つ以上あげたものをわけて集計したので計は 100% 以上になる。

\*\* 他の中には先祖 1%、家 1%、宗教 1%、国家（政治・社会）3%、仕事 3% などがある。

## §3 宗教

## #3.1 宗教を信じるか、#3.1b 宗派名（していること）

宗教についておききたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか？

1 もっている、信じている

宗派名や、何を信じているか、くわしくきく。

また、どんなことをしているかもきく。

2 もっていない、信じていない、関心がない→#3.2へ

# 3.1	問	信じる	信じない	D.K.	計
全 国 ・ II	16 a	35	65	—	100 (920)
全 国 ・ III	28 a	31	69	0	100 (2,698)

# 3.1 b	問	既成宗派でない	神 道		仏 教				キリス ト教	その他	D.K.	計
全 国 ・ II	16 b	13	9		68				3	7	—	100(321)
全 国 ・ III	28 a	10	4	3	11	2	7	55	3	3	2	100(828)
していること*		既派い 成で 宗な	神 道	天金 理光 教教	創会 価学	立成 正会 校	日連 宗	その の仏 他教	キト 教ス	P団ア シメ教 教シ	無 記入	計
無記入と全く無関心		28	13	8	34	3	22	237	17	8	16	(47) 386
ありきたり、関心中くらい		27	6	8	10	4	13	91	2	7	—	(20) 168
毎日なにかする, 定期的にする		23	11	11	39	7	21	130	6	4	—	(30) 252
他の人にまで、本職を含む		2	—	—	11	—	—	4	2	3	—	(8) 22
計		80	30	27	94	14	56	462	27	22	16	(100) 828

\* 表中の太数字は実数である, 計欄の ( ) 内は 828 人を 100% にした比率をしめす。

### #3. 2 「宗教心」は大切か

〔これは #3.1 が答1「信じる」の人は質問しない〕 それでは, いままでの宗教にはかわりなく, 「宗教的な心」というものを, 大切だと思いますか, それとも大切だとは思いませんか?

1 大 切	2 大切でない	
X その他〔記入〕		Y D.K.

	問	大 切	大切でない	他	D.K.	計
全 国 ・ II	16 c	72	16	2	10	100 (655)
全 国 ・ III	28 b	77	13	4	6	100 (1,863)

### #3. 9 首相の伊勢参り

あたらしく総理大臣になったとき, 伊勢の皇太神宮にお参りに行く人がありますが, あなたはこのことをどう思いますか?

1 行かねばならぬ	2 行った方がよい	
3 本人の自由だ	4 行かない方がよい	
5 行くべきではない		
X その他〔記入〕		Y D.K.

	問	行かねば ならぬ	行った方 がよい	本人の 自由	行かね方 がよい	行くべき でない	他	D.K.	計
全国・I	14	7	50	23	6	2	2	10	100 (2,254)
全国・II	110	5	33	27	12	5	2	16	100 (1,449)
全国・III	10	4	28	41	9	5	3	10	100 (2,698)

## §4 子 供 ・ 家

### #4. 4 先生が悪いことをした

「先生が何か悪いことをした」というような話を, 子供が聞いてきて, 親にたずねたとき, 親はそれがほんとうであることを知っている場合, 子供には

「そんなことはない」  
 といった方がいいと思いますか、それとも  
 「それはほんとうだ」  
 といった方がいいと思いますか？

1 そんなことはないという      2 ほんとうだという  
X その他〔記入〕      Y D.K.

	問	そんなことはないという	ほんとうだという	他	D. K.	計
全 国 ・ I	9	38	42	13	7	100 (2,254)
全 国 ・ II	6	38	41	10	11	100 (920)
全 国 ・ III	4	32	50	10	8	100 (2,698)

#### #4.5 子供に「金が一番大切」と教える

小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。

「小さいときから、お金は人にとって、いちばん大切なものだとかえるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

**1**    賛        成                                  **2**    反        対  
**3**    いちがいにはいえない  
X    その他〔記入〕                                  Y    D.K.

	問	賛 成	反 対	いちがい、 にいえな い	他	D. K.	計
全 国 ・ I	24 の 1	65	24	9	0	2	100 (2,254)
全 国 ・ II	5	60	23	15	1	1	100 (2,698)

#### ＃4.8 結婚式・葬式盛大にするか

結婚式とか葬式というようなものは、多少は金がかかっても盛んにやる人がありますが、あなたはこれについて、どう思いますか？

1	ばかばかしい, よくない	2	しかたがない
3	身分相応にやれ	4	盛んにやれ
X	その他【記入】	Y	D.K.

注：「結婚式は盛大に、葬式は簡単に」などは「盛大」にする

	問	よくない	しかたがない	身分相應に	盛大に	他	D. K.	計
全 国 ・ I	17	31	5	48	8	6	2	100 (2,254)
全 国 ・ II	109	48	5	38	6	2	2	100 (1,449)
全 国 ・ III	9	35	4	52	6	2	1	100 (2,698)

#### ※4.10 他人の子供を養子にするか

子供がないときは、たとえ血のつながりがない他人の子供でも、養子にもらって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか？

1 つがせた方がよい      2 つがせないでもよい、意味がない  
3 場合による  
X その他〔記入〕      Y D.K.

	問	つがせる	つがせない	場合による	他	D. K.	計
全 国 ・ I	28 の 1	73	16	7	1	3	100 (2,254)
全 国 ・ II	106	63	21	8	1	7	100 (1,449)
全 国 ・ III	2	51	32	12	1	4	100 (2,698)

## §5 身近な社会

### #5.1 恩人がキトクするとき

〔絵を見せながら〕 南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。ところが故郷の、育ててくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という電報を受けとったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。

〔ここでリストを見せる〕 あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を一つだけえらんで下さい？

- |                          |         |
|--------------------------|---------|
| 1 何をおいてもすぐ故郷へ帰る          |         |
| 2 故郷のことが気になっても大事な会議に出席する |         |
| X その他〔記入〕                | Y D. K. |

	問	△ 故郷へ帰る	△ 会議に出る	他	D. K.	計
全 国 ・ I	41	54	41	1	4	100 (2,254)
全 国 ・ II	111 a	50	39	2	9	100 (1,449)
全 国 ・ III	13 a	46	46	2	6	100 (2,698)

### #5.1b 親がキトクするとき

〔#5.1 と同じ絵、同じリストで〕 いまの質問では、恩人が死にそうなときを、うかがいましたが、もしキトクなのが恩人ではなくて、南山さんの親だったら、どうしたらよいと思いますか、どちらかえらんで下さい？

- |                          |         |
|--------------------------|---------|
| 1 何をおいてもすぐ故郷へ帰る          |         |
| 2 故郷のことが気になっても大事な会議に出席する |         |
| X その他〔記入〕                | Y D. K. |

	問	故郷へ帰る	会議に出る	他	D. K.	計
全 国 ・ I	42	49	48	1	2	100 (2,254)
全 国 ・ II	111 b	50	41	2	7	100 (1,449)
全 国 ・ III	13 b	45	47	2	6	100 (2,698)

### #5.1c 入社試験

a〔リスト〕 あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を一人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、

「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」

と社長のあなたに報告しました。

あなたはどちらをとれ（採用しろ）といひますか？



- 1 1 番の人を採用するようにいう  
 2 親戚を採用するようにいう  
 X その他〔記入〕 Y D. K.

b〔リスト〕 それでは、このばあい、2 番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたの恩人の子供だったとしたら、あなたは どうしますか？（どちらをとれといひますか？）

- 1 1 番の人を採用するようにいう  
 2 恩人の子供を採用するようにいう  
 X その他〔記入〕 Y D. K.

	問	1 番の人を採用するようにいう	親戚を採用	他	D. K.	計
全 国 ・ Ⅲ	20 a	75	19	2	4	100 (2,698)
全 国 ・ Ⅲ	20 b	48	44	2	6	100 (2,698)
	問	1 番の人を採用	恩人の子を採用	他	D. K.	計

a \ b	1 番の人を採用	恩人の子を採用	そ の 他	D. K.	計
1 番の人を採用	46 1,239	25 676	1 32	3 66	75 2,013
親 戚 を 採 用	2 44	17 471	0 2	0 7	19 524
そ の 他	0 7	1 15	1 32	0 2	2 56
D. K.	0 7	1 24	— 0	3 74	4 105
計	48 1,297	44 1,186	2 66	6 149	100 2,698

注. 表中、イタリックは 2,698 を 100% にした比率、四捨五入のため計の比率と合わないところがある。

#### #5. 1d 大切な道徳

〔リスト〕 つぎのうち、大切なことを 2 つあげてくれといわれたら、どれにしますか？

- 1 親孝行をすること 2 恩返しをすること  
 3 個人の権利を尊重すること 4 自由を尊重すること  
 X その他〔記入〕 Y D. K.

全 国 ・ Ⅲ	計	親 孝 行	恩 返 え し	権 利 尊 重	自 由 尊 重	他	D. K.	サンプル数
問 17		61	43	48	40	1	4	2,698
親 孝 行	(61)	28	19	12	0	1		表中の数字は 2,698 を 100 % にした比率、四捨五入のため計の比率と合わないところがある。
恩 返 え し	28	(43)	8	7	0	0		
権 利 尊 重	19	8	(48)	21	0	1		
自 由 尊 重	12	7	21	(40)	0	0		
他	0	0	0	0	1	—		
D. K.	1	0	1	0	—	2		

#### #5. 1e 「親孝行」戦前との比較

それでは……

いまの日本人と、戦前の日本人とをくらべてみて

「親孝行」をしなくなったと思いますか？

- 1 賛成（戦前よりしなくなった）  
 2 反対（かわらない、むしろ戦前よりする）  
 X その他〔記入〕
- Y D. K.

全 国 ・ III	問	賛 成 (しなくなった)	反 対 (かわらない (戦前よりする))	他	D. K.	計
	18-a	70	21	4	5	100 (2,698)
「大切な道德」で親孝行をあげた		76	17	3	4	100 (1,615)
" あげない		61	28	5	6	100 (1,083)

#### ＃5. 1f 「恩返し」戦前との比較

それでは戦前にくらべて

「恩返し」をしなくなったと思いますか？

- 1 賛成（戦前よりしなくなった）  
 2 反対（かわらない、むしろ戦前よりする）  
 X その他〔記入〕
- Y D. K.

全 国 ・ III	問	賛 成 (しなくなった)	反 対 (かわらない (戦前よりする))	他	D. K.	計
	18-b	66	24	3	7	100 (2,698)
「大切な道德」で恩返しをあげた		72	20	2	6	100 (1,166)
" あげない		62	27	3	8	100 (1,532)

#### ＃5. 1g 「個人の権利尊重」戦前との比較

それでは戦前にくらべて

個人の権利を尊重するようになったと思いますか？

- 1 賛成（戦前よりするようになった）  
 2 反対（かわらない、しなくなった）  
 X その他〔記入〕
- Y D. K.

全 国 ・ III	問	賛 成 (尊重するよ うになった)	反 対 (かわらない (しなくなった))	他	D. K.	計
	18-c	76	12	1	11	100 (2,698)
「大切な道德」で権利尊重をあげた		84	10	1	5	100 (1,310)
" あげない		69	14	1	16	100 (1,388)

#### ＃5. 6 めんどうをみる課長

〔リスト〕 ある会社につぎのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長につかわれる方がよいと思いますか、どちらか一つあげて下さい？

- 1 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことで人のめんどうを見ません  
 2 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事以外でも人のめんどうをよく見ます  
 X その他〔記入〕
- Y D. K.

	問	めんどろを みない	めんどろを みる	他	D. K.	計
全 国 ・ I	35	12	85	1	2	100 (2,254)
全 国 ・ II	117	14	77	2	7	100 (1,449)
全 国 ・ III	21	13	82	1	4	100 (2,698)

## §6 男 女 差 別

## #6. 2 男女の生まれかわり

もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに生れてきたいと思いますか？

1 男 に          2 女 に          X その他〔記入〕

〔全国・I〕 #6.2b 男・女を希望

〔サンプル男(女)〕あなたは女(男)に生まれた方がよかったと思いませんか？

		問	男 の サンプル					女 の サンプル				
			男に	女に	他	D. K.	計	男に	女に	他	D. K.	計
# 6.2	全国・II	103	90	5	4	1	100 (684)	64	27	6	3	100 (765)
	全国・III	1-a	88	7	3	2	100(1,252)	55	36	5	4	100(1,446)
参考 #6.2	岐阜 1959	303 a	86	3	0	11	100 (189)	60	26	1	13	100 (213)
# 6.2b	全国・I	16	94	2	4		100(1,058)	44	47	9		100(1,196)
		問	男を 希望	女を 希望	他	D. K.	計	男を 希望	女を 希望	他	D. K.	計
			男 の サンプル					女 の サンプル				

## #6. 2c 苦勞どちらが多いか

今の日本では、ひとくちでいうと、男と女ではどちらの方が苦勞が多いと思いますか？

## #6. 2d 楽しみどちらが多いか

それでは、どちらの方が楽しみが多いと思いますか？

b 苦	1 男が多い	2 女が多い	Xその他〔記入〕	Y D. K.
c 楽	1 男が多い	2 女が多い	Xその他〔記入〕	Y D. K.

		問	男 の サンプル					女 の サンプル				
			男が 多い	女が 多い	他	D. K.	計	男が 多い	女が 多い	他	D. K.	計
#6.2c	全国・III	1-b 苦	56	25	12	7	100(1,252)	39	42	12	7	100(1,446)
#6.2d	全国・III	1-c 楽	72	10	10	8	100(1,252)	67	13	11	9	100(1,446)
参	#6.2c	岐阜 1959	203 b	23	26	4	100 (390)	36	38	22	4	100 (427)
考	#6.2d	岐阜 1959	203 c	5	21	6	100 (390)	63	10	20	7	100 (427)

## §7 一般の社会的問題

## #7.1 人間らしさはへるか

〔全国・Ⅱ, 全国・Ⅲ〕 こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発達して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなっていく」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成〔人間らしさはへる〕	2 いちがいにいいない
3 反対〔人間らしさ不変、ふえる〕	
X その他〔記入〕	Y D.K.

〔全国・Ⅰ〕 「世の中はだんだん機械が発達して便利になってきたが、それにつれて人間らしさがなくなってくる」という意見があります。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

	問	賛成 (へる)	いちがいに はいえない	反対 (へらない)	他	D. K.	計
全 国 ・ Ⅰ	5	30	17	35	1	17	100 (2,254)
全 国 ・ Ⅱ	3	33	17	34	0	16	100 (920)
全 国 ・ Ⅲ	6	37	22	28	1	12	100 (2,698)

## #7.2 心の豊かさはへらないか

〔全国・Ⅱ, 全国・Ⅲ〕 こういう意見があります。

「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ(人間らしさ)はへりはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

1 反対(へる)	2 いちがいにいいない
3 賛成(へらない)	
X その他〔記入〕	Y D.K.

〔全国・Ⅰ〕 「どんなに文明が進歩しても、人の心の豊かさ(人間らしさ)はへりはしない」という意見がありますが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

	問	反対 (へる)	いちがいに はいえない	賛成 (へらない)	他	D. K.	計
全 国 ・ Ⅰ	29	17	8	58	1	16	100 (2,254)
全 国 ・ Ⅱ	24	21	10	52	1	16	100 (920)
全 国 ・ Ⅲ	12	18	19	49	1	13	100 (2,698)

## #7.4 日本と個人の幸福

〔リスト〕 あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。1つだけあげてください？

1 個人が幸福になって、はじめて日本全体がよくなる
2 日本がよくなって、はじめて個人が幸福になる
3 日本がよくなることも、個人が幸福になることも同じである
X その他〔記入〕
Y D.K.

	問	個人→日本	日本→個人	日本=個人	他	D. K.	計
全国・Ⅰ	45	25	37	31	1	6	100 (2,254)
全国・Ⅲ	16	30	30	34	0	6	100 (2,698)

## #7.5b 公益と個人の権利

〔全国・Ⅲ, 岐阜 1959〕〔リスト〕 つぎのような意見があります。あなたはどちらに賛成ですか。もちろん、場合により、また程度によって違うでしょうが、ひとくちでいうと、どちらを重視すべきでしょうか？

- 1 個人の権利をみとめるためには、公の利益が多少犠牲になることがあっても、しかたがない  
 2 公の利益のためには、個人の権利が、多少犠牲になることがあってもしかたがない  
 X その他〔記入〕 Y D.K.

		問	個人を重視せよ	公益を重視せよ	他	D. K.	計
#7.5b	全国・Ⅲ	23	29	57	1	13	100 (2,698)
	全国・Ⅲ(20万以上の市)	//	31	59	0	10	100 (334)
	岐阜 1959	{225 325}	23	63	2	12	100 (817)
参 考 #7.5	岐阜 1963	16	41	37	7	15	100 (402)
	全国・Ⅱ(市部)	119	42	28	8	22	100 (423)
	全国・Ⅱ	//	38	29	8	25	100 (1,449)
		問	(イ)個人が軽視	(ロ)公益が無視	他	D. K.	計

<参考> #7.5 〔全国・Ⅱ, 岐阜 1963〕〔リスト〕 現在、日本ではつぎのどちらが多いと思いますか？〔ここではリストを読みあげること〕

- (イ) 公の利益のために、個人の権利が軽んぜられていることが多い  
 (ロ) 個人の権利のために、公の利益が無視されていることが多い

## #7.6 勲章か賞金か

〔リスト〕 社会のためとか、人類のためにつくした人に対して、国としてはつぎのうちどちらを、するのがよいと思いますか？

- 1 勲章はぜひ出さなければならないが、必ずしも賞金を出す必要はない  
 2 賞金はぜひ出さなければならないが、必ずしも勲章を出す必要はない  
 X その他〔記入〕 Y D.K.

〔両方出せ〕には「どちらか一方を出すとしたら？」とききなおせ

	問	勲 章	賞 金	他	D. K.	計
全 国 ・ Ⅰ	23	48	33	9	10	100 (2,254)
全 国 ・ Ⅱ	9	54	27	5	14	100 (920)
全 国 ・ Ⅲ	14	54	27	7	12	100 (2,698)

注：全国・Ⅰはリストの部分も、質問文中に入れた。

## #7.7 仕事の価値

実際に必要な物を作ったり、売り買いする仕事をしている人と、学者や芸術家などのような人とは、どちらが社会的に見て価値が高いと思いますか？

- 1 実際の仕事の方が高い 2 学者や芸術家の方が高い  
 3 同じだ、職業に上下なし 4 いちがいにはいえない  
 X その他〔記入〕 Y D.K.

〔‘学者は高いが、芸術家は低い’などはやはり、‘学者や芸術家’にする〕

	問	実際の仕事の方	学者や芸術家	同じ	いちがいにいいない	他	D. K.	計
全国・I	3	30	21	25	14	0	10	100 (2,254)
全国・II	108	25	25	16	20	1	13	100 (1,449)
全国・III	8	23	20	28	20	0	9	100 (2,698)

## #7.13c 法律の精神

〔リスト〕 法律について、つぎのような2つの意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか？

- (イ) 法律はおたがいに、ぐあいよく生活できるように、つくるべきである  
 (ロ) 法律は世の中に正義がおこなわれるように、つくるべきである

	問	(イ) ぐあいよく生活できるように	(ロ) 正義がおこなわれるように	他	D. K.	計
全国・III	22	45	46	1	8	100 (2,698)

## §8 政治的態度

## #8.1 政治家にまかせるか

〔全国・II, 全国・III〕 こういう意見があります。

「日本の国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人にまかせる方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか？

- 1 賛成〔まかせる〕                      2 時、人による  
 3 反対〔まかせっきりはいけない〕  
 4 そんなにすぐれた人が出るとは考えられない  
 X その他〔記入〕                      Y D. K.

〔全国・I〕 「日本の復興のためには、……以下同じ」

	問	賛成	時、人による	反対	そんな人は出ない	他	D. K.	計
全国・I	30	43	9	38	3	0	7	100 (2,254)
全国・II	12,112	35	10	44	2	0	9	100 (2,369)
全国・III	11	29	12	47	4	1	7	100 (2,698)

## #8.2e 「民主主義」はよいか

〔リスト〕 あなたは、「民主主義」について、どう思いますか。このうち、あなたの意見に一番ちがいはどれですか？

## #8.2f 「資本主義」はよいか

〔リスト〕 それでは、「資本主義」についてはどう思いますか？

## #8.2g 「自由主義」はよいか

〔リスト〕 では、「自由主義」についてはどうですか？

## #8.2h 「社会主義」はよいか

〔リスト〕 では、「社会主義」についてはどうですか？

		問	よ い	時と場合 による	よくない	他	D. K.	計
全国・Ⅲ	#8.2 e	27 a 民主	38	49	3	0	10	100 (2,698)
	#8.2 f	27 b 資本	19	41	16	1	23	100 (2,698)
	#8.2 g	27 c 自由	24	43	12	1	20	100 (2,698)
	#8.2 h	27 d 社会	15	40	20	1	24	100 (2,698)
* 全国・Ⅱ	#8.2	123 a 民主	55	12	17	1	15	100 (1,449)
	#8.2 b	123 b 資本	12	9	48	1	30	100 (1,449)
	#8.2 c	123 c 自由	35	14	31	1	19	100 (1,449)
	#8.2 d	123 d 社会	34	10	29	1	26	100 (1,449)
		問	よい感じ	時と場合 による	よくない 感じ	他	D. K.	計

<参考> #8.2「民主主義」はよい感じか

あなたは、つぎのコトバを聞いたとき、よい感じをもちますか、それともよくない感じをうけますか、まず「民主主義」は、よい感じがしますか、よくない感じがしますか？

#8.2 b 「資本主義」はよい感じか 質問文は #8.2「民主主義」と同様

#8.2 c 「自由主義」はよい感じか 質問文は上と同様

#8.2 d 「社会主義」はよい感じか 質問文は上と同様

\* 全国・Ⅱは全国・Ⅲと異なりコトバの感じをきいていること、全国Ⅲではリストを用いて回答させていることに注意すること。

#### #8.3 b 専門の研究と政治

〔リスト〕 科学者と政治の関係について、つぎのような意見がありますが、あなたの意見に最も近いものを、1 つだけえらんで下さい？

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 科学者は、専門の研究に打ちこんでいて、政治のことは全くかえりみないのがよい   |
| 2 | 科学者は、専門の研究をすることは必要だが、政治にもある程度の関心を示すのがよい |
| 3 | 科学者は、専門の研究をしているばかりでなく、進んで政治に関係していくのがよい  |
| X | その他〔記入〕                                 |

Y D. K.

		問	専門の研究 に専心せよ	政治性も 必要	積極的に 参加	他	D. K.	計
#8.3 b	全国・Ⅰ	43	20	45	22	0	13	100 (2,254)
	全国・Ⅲ	24	18	54	19	0	9	100 (2,698)
#8.3	全国・Ⅱ	11	30	39	5	26		100 (920)
		問	賛成(関係するな)	反 対	他	D. K.		計

<参考> #8.3 科学者と政治

科学者と政治について、つぎのような意見があります。

「科学者は政治に関係すべきでない」というのですが、あなたはどう思いますか。？

#### #8.4 校長の礼服

戦争前は、小学校の卒業式などでは、校長先生はモーニングなどの礼服を着ていました。しかし、戦後は経済事情が悪かったせいもあって、ふつうのセビロ姿が多いようです。経済事情さえゆるせば、やはり校長先生は礼服を作るべきでしょうか、それとも1年に数回しか着ない礼服は、作る必要がないでしょうか？

1 礼服をつくれ                      2 礼服不用  
X その他〔記入〕                      Y D.K.

〔礼服はモーニングでなくてもよい〕

	問	礼服つくれ	礼服不用	他	D.K.	計
全 国 ・ II	2	43	45	3	9	100 (920)
全 国 ・ III	3	41	52	2	5	100 (2,698)

#### ＃8. 6 選挙への関心

〔リスト〕 あなたは衆議院の総選挙があるとき、ふつうはどうしますか？

1 なにをおいても投票する  
2 なるべく投票するようにつとめる  
3 あまり投票する気にならない  
4 ほとんど投票しない  
X その他〔記入〕                      Y D.K.

	問	なにをおいても投票	なるべく投票	あまり投票する気にならない	ほとんど投票しない	他 D.K.	計
全 国 ・ II	34,134	62	32	3	2	1	100 (2,369)
全 国 ・ III	33	53	41	4	1	1	100 (2,698)

#### ＃8. 7 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1 自由民主党                      2 民主社会党（民社党）  
3 社会党                          4 共産党  
5 公明政治連盟（公政連）      6 支持政党なし  
X その他〔記入〕                      Y D.K.

	問	自民	民社	社会	共産	公政連	諸派	支持政党なし	他	D.K.	計
全国・I	58	41	—	23	0	—	0	19	5	12	100 (2,254)
全国・II	35,135	38	—	31	0	—	—	20	1	10	100 (2,369)
全国・III	35	43	3	22	0	2	0	22	8		100 (2,698)

注：全国・I の自民は自由党と改進黨，社会は左社と右社

参 考*	自 民	民 社	社 会	共 産	その他	な し	無 答	計
朝日新聞 1963.11	40.1	3.4	26.1	0.9	0.9	8.3	20.3	100.0
毎日新聞 1963.11	46	4	27	1	0	19	3	100

\* 質問文がちがうので比較はできないが参考としてあげる

## §9 日本人・人種

#### ＃9. 1 日本人の性格（長所）

〔リスト〕 つぎのうち、日本人の性質をあらわしていると思うコトバがあったら、いくつでもあげてください？



1 合理的	2 勤勉	3 自由を尊ぶ
4 淡泊	5 ねばり強い	6 親切
7 独創性にとむ	8 礼儀正しい	9 明朗
10 理想を求める		
X その他〔記入〕	Y D.K.	

	問	合理的	勤勉	自由を尊ぶ	淡泊	ねばり強い	親切	独創性にとむ	礼儀正しい	明朗	理想を求める	他	ひとつもあげない人	サンプル数*
全国・Ⅱ	28,128	12	55	15	19	48	50	8	47	23	33	—	12	(2,369)
全国・Ⅲ	32 a	8	60	10	15	55	42	7	43	14	24	1	8	(2,698)

\* 100% のサンプル数

### #9. 1c 日本人の性格（短所）

〔リスト〕 それでは、つぎのうちでは、どれですか。いくつでもあげてください？

1 けちん坊	2 気が短い	3 ずるい
4 熱しやすく、さめやすい	5 残忍	6 軽薄
7 しゅうねん深い	8 島国的	9 傲慢（ごうまん）
10 模倣的		
X その他〔記入〕	Y D.K.	

	問	けちん坊	気が短い	ずるい	熱しやすくさめやすい	残忍	軽薄	しゅうねん深い	島国的	傲慢（ごうまん）	模倣的	他	ひとつもあげない人	サンプル数
全国・Ⅲ	32 b	20	52	21	49	6	10	23	42	9	29	1	11	(2,698)

### #9. 3 日本の庭・西洋の庭（写真は次ページをみよ）

〔写真〕 あなたはつぎのうちどちらが好きですか？

1 日本の庭	2 外国の庭
X その他〔記入〕	Y D.K.

	問	日本の庭	外国の庭	他	D.K.	計
全 国 ・ Ⅰ	32	79	16	1	4	100 (2,254)
全 国 ・ Ⅱ	21	78	16	2	4	100 (920)
全 国 ・ Ⅲ	25	85	11	2	2	100 (2,698)

注：全国Ⅰ，Ⅱ，Ⅲとも外国の庭の方の写真が少しづつちがう（次頁の写真は全国Ⅲで使用したもの）。

### #9. 4 立派な人物

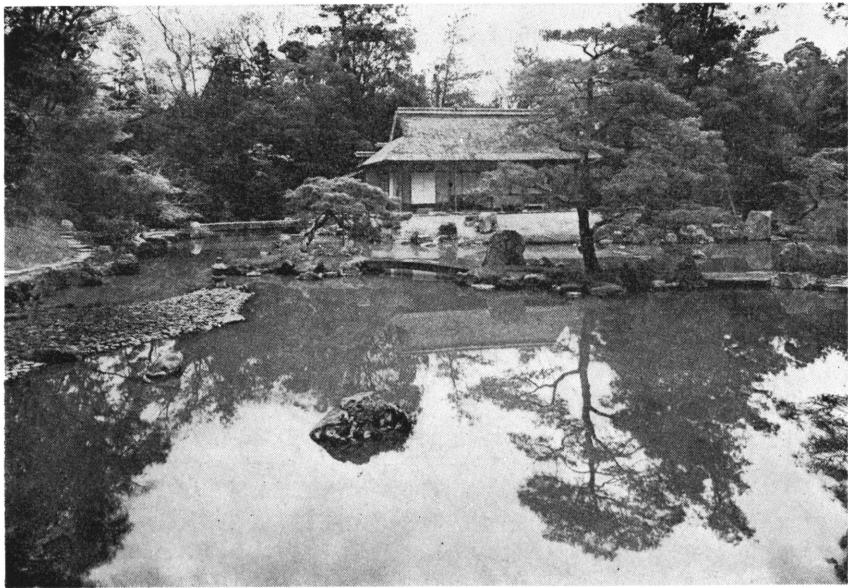
〔人名カード，色カード〕

ここに 22 人の日本人の名前をかいたカードがあります。

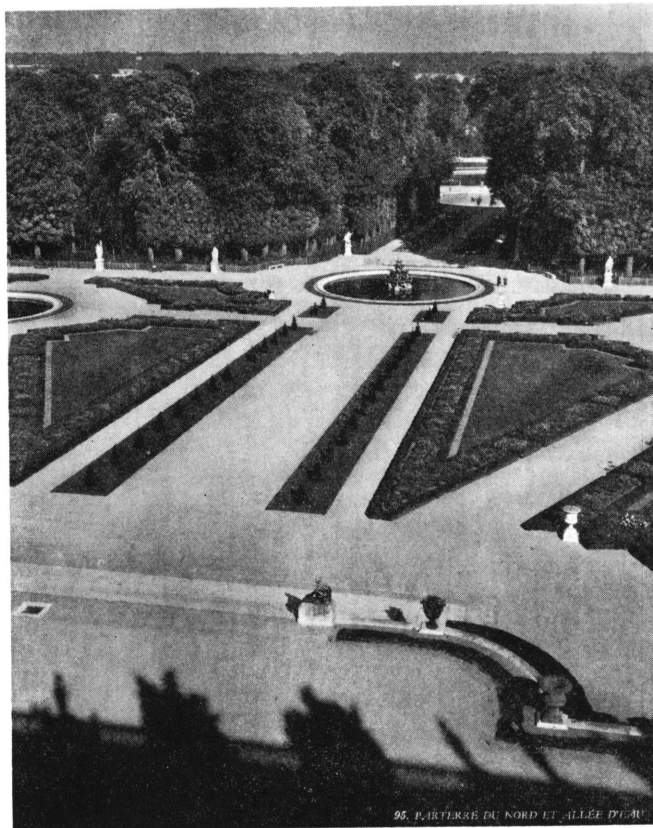
〔ここでカードをしめし，色カードをならべる〕

このカードを，あなたのお考えにしたがって，この色のカードの該当するところに，あてはめてみてください？

- 〔色カード〕 1：非常にりっぱな人物だと思う  
 2：まありっぱな人物だと思う  
 3：それ程りっぱな人物とは思わない  
 4：りっぱな人物とはとても思えない  
 0：この人物のことはよく知らない



日本 の 庭



西 洋 の 庭

順位	人 名	全 国 ・ III							
		非常に つばな 物と思 う	まあり つばな 物と思 う	それ つばな 物と思 わない	り つばな 人物で ない	この 人物は よく知 らない	全部 D. K.	全部 り つば	計
4	聖 徳 太 子	65	16	2	0	11	4	2	100 (2,698)
8	弘 法 大 師	47	22	3	1	21	4	2	100 (2,698)
15	菅 原 道 真	31	26	7	1	29	4	2	100 (2,698)
20	源 頼 朝	14	25	21	6	28	4	2	100 (2,698)
12	楠 木 正 成	38	27	8	2	19	4	2	100 (2,698)
22	足 利 尊 氏	7	19	20	11	37	4	2	100 (2,698)
13	豊 臣 秀 吉	38	33	10	2	11	4	2	100 (2,698)
14	徳 川 家 康	33	32	15	3	11	4	2	100 (2,698)
18	中 江 藤 樹	20	16	3	1	54	4	2	100 (2,698)
17	新 井 白 石	24	20	3	1	46	4	2	100 (2,698)
21	伊 能 忠 敬	14	15	3	1	61	4	2	100 (2,698)
2	二 宮 尊 徳	65	19	3	1	6	4	2	100 (2,698)
9	西 郷 隆 盛	46	31	7	1	9	4	2	100 (2,698)
16	吉 田 松 陰	30	20	3	1	40	4	2	100 (2,698)
6	福 沢 諭 吉	53	16	1	1	23	4	2	100 (2,698)
10	伊 藤 博 文	43	26	4	1	20	4	2	100 (2,698)
11	東 郷 平 八 郎	41	25	8	3	17	4	2	100 (2,698)
7	乃 木 希 典	50	25	6	2	11	4	2	100 (2,698)
3	明 治 天 皇	65	18	4	2	5	4	2	100 (2,698)
19	原 敬	16	22	6	1	49	4	2	100 (2,698)
1	野 口 英 世	68	12	1	1	12	4	2	100 (2,698)
5	湯 川 秀 樹	59	18	2	1	14	4	2	100 (2,698)

注 この表の人名の順は生年順であるが、調査のときには、人物カードをよく切って（ランダムの順にして）からサンプルに示した。

<参考>

人 名	岐阜1959	岐 阜 1963					人 名	岐阜1959	岐 阜 1963				
	立派	1	2	3	4	0		立派	1	2	3	4	0
聖 徳 太 子	57	77	11	1	0	11	伊 能 忠 敬	23	15	15	5	1	64
藤 原 鎌 足*	—	23	27	13	4	33	二 宮 尊 徳	60	73	17	4	1	5
弘 法 大 師	—	59	17	5	3	16	勝 海 舟	—	27	20	5	2	46
菅 原 道 真	—	39	26	7	3	25	西 郷 隆 盛	39	57	30	6	1	6
源 頼 朝	19	18	27	23	8	24	吉 田 松 陰	38	43	22	5	1	29
楠 木 正 成	38	52	28	7	1	12	福 沢 諭 吉	45	54	16	2	2	26
足 利 尊 氏	—	9	15	25	15	36	伊 藤 博 文	35	55	29	5	1	10
織 田 信 長*	—	38	37	15	3	7	東 郷 平 八 郎	30	44	27	10	2	17
豊 臣 秀 吉	35	49	33	10	1	7	乃 木 希 典	40	58	21	6	1	14
徳 川 家 康	33	37	38	16	2	7	明 治 天 皇	55	73	15	4	2	6
中 江 藤 樹	31	26	18	3	1	52	原 敬	—	15	17	10	3	55
新 井 白 石	28	27	22	3	2	46	野 口 英 世	55	77	11	1	1	10
平 賀 源 内*	—	11	12	8	1	68	湯 川 秀 樹	49	69	16	2	1	12
杉 田 玄 白*	—	12	13	7	2	66	100%=	817	337				

注 1 「岐阜 1959」ではリストを示し、立派だと思う人をあげさせた。「岐阜 1963」は人名カードにより分類させた。

注 2 岐阜 1963 のうち全部 D.K. のものは 10%, 全部 1 または 2 は 3%, 人物カードの大部分を 1 カテゴリーに入れ、4, 5 人を他のカテゴリーに入れたものは 5% である。また、分類するとき大多数はカードを一枚づつ見てわけた。所要時間は 5 分以内が 7 割で、10 分以上は 3% にすぎなかった。

注 3 「岐阜 1959」のリストにあげた人名、「岐阜 1963」でカードにあげた人名は「全国・Ⅲ」というくらいがう (\* 印のあるのは岐阜 1963 のみ調査した人物) ので注意せよ。

#### #9. 6 日本人・西洋人の優劣

日本人は西洋人とくらべて、ひとくちでいえますぐれていると思いますか、それとも劣っていると思いますか？

1 すぐれている	2 劣っている
3 同じだ	4 ひとくちではいえない
X その他〔記入〕	Y D.K.

	問	すぐれている	劣っている	同じ	ひとくちではいえない	他	D.K.	計
全国・Ⅰ	25	20	28	14	23		15	100 (2,254)
全国・Ⅲ	30	33	14	16	27	1	9	100 (2,698)

#### #9. 7 すぐれた人種

〔リスト〕 つぎのうち、優れていると思う人種や民族があったら、いくつでもあげて下さい？

〔優れているといったものにいくつでもマルをつけよ〕

〔全国・Ⅲ〕の〔リスト〕

1 日本人	2 中国人	3 インド人
4 ユダヤ人	5 ロシア人	6 ドイツ人
7 フランス人	8 イギリス人	9 アメリカ人
X その他〔記入〕	Y D.K.	

〔‘優劣なし’などはその他に記入〕

〔全国・Ⅱ〕の〔リスト〕は、〔全国・Ⅲ〕に‘朝鮮人’、‘南洋の土人’、‘アラブ人’が加わっている。

	問	日本人	中国人	インド人	ユダヤ人	ロシア人	ドイツ人	フランス人	イギリス人	アメリカ人	朝鮮人	南洋の土人	アラブ人	優劣なし	ひとつもあげない	サンプル数
全国・Ⅱ	124	57	9	7	8	20	52	17	31	47	1	0	1	*	20	(1,449)
全国・Ⅲ	31	52	6	3	6	16	45	15	27	46	—	—	—	6	21	(2,698)

\* 集計の際全部優れていると答えたものはそれぞれの中に含め、優劣なしは D.K. と一緒にしてある。

\*\* 100% のサンプル数。

## 付 録 II 再 調 査 の 結 果

表の見方：

- 質問文は第Ⅲ次の全国調査でも採用されているものは、付録Ⅰに示したので、第Ⅲ次の全国調査をしなかった質問項目だけをあげた。
- 各行の見出しは、#2.1 しきたりに従うか、を例にとって示せば、つぎのとおりである。  
 I 4 (P)：第Ⅰ次全国調査の問4で、再調査できたサンプル（423 人）の答の分布。  
 Ⅲ P 2：今回の再調査の問2で、再調査できたサンプル（423 人）の答の分布。  
 年 齢 差：再調査できたサンプル（423 人）の今回の答の分布と第Ⅰ次の答の分布の差。すなわち、上記の2行の差。いいかえると 10 歳としをとったことによる差。  
 時 代 差：第Ⅲ次全国調査のサンプル（2698 人）の答の分布と、第Ⅰ次全国調査の全サンプル（2254 人）の答の分布の差。（付録Ⅰより計算したもの）いいかえると 10 年間の分布の差。

#1.10c

あなたは映画（活動）をごらんになりますか？  
 日本物と外国物とどちらが大好きですか？

問	外 国	両 方	日 本	見ない	D. K.	計
I 54 (P)	11	11	36	42	0	100
Ⅲ P 28	13	9	46	31	1	100
年 齢 差	+2	-2	+10	-11	+1	±13

#2.1 しきたりに従うか

問	おし通せ	従 え	場合による	他	D. K.	計
I 4 (P)	43	34	18	1	4	100
Ⅲ P 2	38	35	23	1	3	100
年 齢 差	-5	+1	+5	0	-1	±6
時 代 差	-1	-3	+6	0	-2	±6

#2.4 くらし方

問	金持ち	名をあける	趣 味	のんきに	清く正しく	社会につくす	他	D. K.	計
I 39 (P)	16	6	18	14	31	9	3	3	100
Ⅲ P 22	17	5	25	18	23	7	2	3	100
年 齢 差	+1	-1	+7	+4	-8	-2	-1	0	±12
時 代 差	+2	-2	+9	+8	-11	-4	-1	-1	±19

#2.5 自然と人間との関係

問	自然に従え	自然を利用	自然を征服	他	D. K.	計
I 34 (P)	27	43	23	0	7	100
Ⅲ P 19	23	44	22	2	9	100
年 齢 差	-4	+1	-1	+2	+2	+5
時 代 差	-8	-1	+7	0	+2	±9

## #3.6 宗教か科学か

〔リスト〕 あなたは、宗教というものについて、どう思いますか。つぎの4つの意見のうち、あなたの意見に一番近いと思うものを1つだけえらんで下さい？

- 1 宗教というものは、人間を救うことはできない。人間を救うことのできるのは科学の進歩以外にはない。
- 2 人間の救いには科学の進歩と宗教の力が、たすけあってゆくことが必要である。
- 3 科学の進歩と人間の救いとは関係がない。人間を救うことができるのは、ただ宗教の力だけである。
- 4 科学が進歩しても、宗教の力でも、人間は救われるものではない。

問	宗教否定	宗教科学協力	宗教のみ	両方否定	他	D. K.	計
I 37 (P)	10	68	8	5	0	9	100
III P 21	8	69	6	8	1	8	100
年 齢 差	-2	+1	-2	+3	+1	-1	±5

## #3.9 首相の伊勢参り

問	行かねばならぬ	行った方がよい	本人の自由	行かぬ方がよい	行くべきでない	他	D. K.	計
I 14 (P)	4	51	25	5	2	3	10	100
III P 7	5	43	29	7	2	5	9	100
年 齢 差	+1	-8	+4	+2	0	+2	-1	±9
時 代 差	-3	-22	+18	+3	+3	+1	0	±25

## #4.4 先生が悪いことをした

問	そんなことはないという	ほんとうだという	他	D. K.	計
I 9 (P)	38	41	13	8	100
III P 6	30	51	12	7	100
年 齢 差	-8	+10	-1	-1	±10
時 代 差	-6	+8	-3	+1	±9

## #4.5 子供に「金が一番大切」と教える

問	賛 成	反 対	いちがいに いえない	他	D. K.	計
I 24の1 (P)	67	23	8	0	2	100
III P 12	65	20	12	2	1	100
年 齢 差	-2	-3	+4	+2	-1	±6
時 代 差	-5	-1	+6	+1	-1	±7

## #4.8 結婚式・葬式盛大に

問	よくない	しかたがない	身分相応に	盛大に	他	D. K.	計
I 17 (P)	31	4	50	7	6	2	100
III P 9	27	4	57	8	4	0	100
年 齢 差	-4	0	+7	+1	-2	-2	±8
時 代 差	+4	-1	+4	-2	-4	-1	±8

## #4.10 他人の子供を養子にするか

問	つがせる	つがせない	場合による	他	D. K.	計
I 28の1(P)	76	10	10	1	3	100
Ⅲ P 15	62	22	13	1	2	100
年 齢 差	-14	+12	+3	0	-1	±15
時 代 差	-22	+16	+5	0	+1	±22

## #4.11 先祖を尊ぶか

あなたはどちらかといえば、先祖を尊ぶ方ですか、それとも尊ばない方ですか？

問	尊 ぶ	ふ つ う	尊ばない方	他	D. K.	計
I 3(P)	79	14	4	0	3	100
Ⅲ P 1	80	13	3	1	3	100
年 齢 差	+1	-1	-1	+1	0	±2

## #5. 1 恩人がキトクするとき

問	故郷へ帰る	会議に出る	他	D. K.	計
I 41(P)	58	39	0	3	100
Ⅲ P 23 a	43	50	3	4	100
年 齢 差	-15	+11	+3	+1	±15
時 代 差	-8	+5	+1	+2	±8

## #5. 1b 親がキトクするとき

問	故郷へ帰る	会議に出る	他	D. K.	計
I 42(P)	50	48	0	2	100
Ⅲ P 23b	42	52	3	3	100
年 齢 差	-8	+4	+3	+1	±8
時 代 差	-4	-1	+1	+4	±5

## #5. 2 恩人のむすこの入社

あなたが世話になった人の息子さんが、ある会社の試験をうけたとします。その会社の人があなたのところに、その息子さんは「どういう人物か」と聞きに来たとします。ところが、その息子さんは、余りしっかりした人でないとしたら、あなたは会社の人に、どういう返事をしますか？

問	採用するよう にいう	はっきり いわない	しっかりし ていないと いう	他	D. K.	計
I 26(P)	22	21	48	1	8	100
Ⅲ P 14	18	21	52	3	6	100
年 齢 差	-4	0	+4	+2	-2	±6

## #5. 4 目上の誤解の注意

ある人が、人前で目上の人から注意されました。ところがそれは目上の人の思い違いでした。こんなときは、その人はどうするのが一番よいと、あなたは思いますか？

問	そのまま聞き、 あとからもいわ ない	その場で誤解 をとく	その場ではだ まり、あとで 誤解をとく	他	D. K.	計
I 19 (P)	17	34	33	3	13	100
III P 10	10	45	32	4	9	100
年 齢 差	-7	+11	-1	+1	-4	±12

## #5.6 めんどうをみる課長

問	めんどうをみない	めんどうをみる	他	D. K.	計
I 35 (P)	9	89	0	2	100
III P 20	11	84	1	4	100
年 齢 差	+2	-5	+1	+2	±5
時 代 差	+1	-3	0	+2	±3

## #5.9 秀吉は若者の手本

「太閤秀吉のように、名もないものから立身出世をした人の努力は、いつの世になっても、若い人の手本である」という意見に、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか？

問	賛 成	いちがいに はいえない	反 対	他	D. K.	計
I 6 (P)	83	12	2	0	3	100
III P 4	78	13	3	1	5	100
年 齢 差	-5	+1	+1	+1	+2	±5

## #6.2b 男・女を希望

〔男のサンプルの場合〕 あなたは女に生まれた方が、よかった、と思いませんか？

〔女のサンプルの場合〕 あなたは男に生まれた方が、よかった、と思いませんか？

問	男のサンプル				女のサンプル			
	男に	女に	他・D. K.	計	男に	女に	他・D. K.	計
I 16 (P)	95	1	4	100	44	50	6	100
III P 8	84	3	13	100	34	45	21	100
年 齢 差	-11	+2	+9	±11	-10	-5	+15	±15

## #7.1 人間らしさはへるか

問	賛 成 (へる)	いちがいに はいえない	反 対 (へらない)	他	D. K.	計
I 5 (P)	29	17	35	1	18	100
III P 3	39	21	27	2	11	100
年 齢 差	+10	+4	-8	+1	-7	±15
時 代 差	+7	+5	-7	0	-5	±12

## #7.2 心の豊かさはへらないか

問	反 対 (へる)	いちがいに はいえない	賛 成 (へらない)	他	D. K.	計
I 29 (P)	16	7	61	0	16	100
III P 16	18	9	60	0	13	100
年 齢 差	+2	+2	-1	0	-3	±4
時 代 差	+1	+11	-9	0	-3	±12



## #7.4 日本と個人の幸福

問	個人→日本	日本→個人	日本=個人	他	D. K.	計
I 45 (P)	27	36	32	1	4	100
III P 25	26	37	31	0	6	100
年 齢 差	-1	+1	-1	-1	+2	±3
時 代 差	+5	-7	+3	-1	0	±8

## #7.6 勲章か賞金か

問	勲 章	賞 金	他	D. K.	計
I 23 (P)	52	31	9	8	100
III P 11	53	24	10	13	100
年 齢 差	+1	-7	+1	+5	±7
時 代 差	+6	-6	-2	+2	±8

## #7.7 仕事の価値

問	実際の仕事	学者や 芸術家	同 じ	いちがいに いえない	他	D. K.	計
I 8 (P)	31	21	26	15	0	7	100
III P 5	23	21	31	14	1	10	100
年 齢 差	-8	0	+5	-1	+1	+3	±9
時 代 差	-7	-1	+3	+6	0	-1	±9

## #7.9 ふしだらな科学者

りっぱな研究をしたある科学者が、世界の人の集まる会議に日本の代表として、その研究を発表することになっていました。しかし、その出発の直前に人妻と関係したとしたら、あなたはその人を代表として出すことについて、どう思いますか？

問	出 せ	出 す な	他	D. K.	計
I 48 (P)	41	32	9	18	100
III P 27	41	33	15	11	100
年 齢 差	0	+1	+6	-7	±7

## #8.1 政治家にまかせるか

問	賛 成 (まかせる)	時・人に よる	反 対 (まかせ ない)	そんな人 は出ない	他	D. K.	計
I 30 (P)	44	9	34	5	0	8	100
III P 17	42	10	38	1	2	7	100
年 齢 差	-2	+1	+4	-4	+2	-1	±7
時 代 差	-14	+3	+9	+1	+1	0	±14

## #8. 3b 専門の研究と政治

問	専門に心 専門	政治性も 必要	積極的に	他	D. K.	計
I 43 (P)	22	48	19	0	11	100
I P 24	20	50	17	0	13	100
年 齢 差	-2	+2	-2	0	+2	±4
時 代 差	-2	+9	-3	0	-4	±9

## #8. 7 支持政党

問	自民	改進	民社	社会	共産	公政連	なし	他	D. K.	計
1 58 (P)	37	7	—	20	0	—	18	7	11	100
III P 29	50	—	3	16	1	1	21	2	6	100
年 齢 差	+6		-1		+1	+1	+3	-5	-5	±11
時 代 差	+2		+2		0	+2	+3	-9		±9

## #9. 3 日本の庭・西洋の庭

問	日本の庭	西洋の庭	他	D. K.	計
I 32 (P)	81	14	1	4	100
III P 18	88	8	3	1	100
年 齢 差	+7	-6	+2	-3	±9
時 代 差	+6	-5	+1	-2	±7

## #9. 6 日本人・西洋人の優劣

問	日本人が すぐれている	日本人が 劣っている	同 じ	ひとくち でいえない	他	D. K.	計
I 25 (P)	18	31	14	20	1	16	100
III P 13	30	16	12	26	2	14	100
年 齢 差	+12	-15	-2	+6	+1	-2	±19
時 代 差	+13	-14	+2	+5		-6	±20

English résumé

## A Study of Japanese National Character

— the third national survey —

Research Committee  
of the study of Japanese National Character

### 1. Content of the report

Chapter I. Summary of the results of the third national survey

Chapter II. Purpose and scope of the study

Chapter III. Results obtained from the comparison with the previous surveys

Chapter IV. Results obtained for each question

Chapter V. Results obtained from the re-surveyed group.

Chapter VI. Sampling and Non-response.

Appendix

List of the questions

I. Questions and Simple Tabulations (third national survey)

II. Questions and Simple Tabulations (re-surveyed group)

### 2. The members of the Research Committee

Zyoiti Suetuna (Director of the Institute), Hirojiro Aoyama,

Chikio Hayashi, Masatugu Isida, Sigeki Nisihira, Tatsuzo. Suzuki,

Yasushi Taga, Tosio Uematu.

### 3. Purpose and scope of the Study

The national character of the Japanese people has been the subject of much discussion and many approaches have been used in its study.

One method — the one we have used here — is to study the ways of thought of the people at large.

The first national survey was conducted in 1953\*, the second five years later in 1958\*, and the third ten years later in 1963. The third survey, with which the present report is concerned, was carried out under the same subject as the first and the second, and the main purpose of the survey was to research the changes in opinions of the people in the course of time.

The questions asked included 15 new items in addition to about 30 items retained from the previous two surveys, especially 16 questions appeared in common with the three surveys.

Sampling scheme for the third survey was the same as the previous two surveys; *i. e.* the universe of the third national survey was all Japanese nationals of 20 years and over, and 3600 individuals were chosen from voters' list by the method of three-stage stratified random sampling.

---

\* See bibliography [3], [9], [10] (page 112).

The survey was carried out with the co-operation of 20 universities in Japan. All members of the Committee visited these universities in turn during the latter part of September and early October 1963, giving instruction to the student interviewers.

The interviews were then carried out in the following month. The interviewers were responsible first for constructing the sample from the voters' list as described above and then for carrying out the interviews by house-to-house visits.

The proportion who could not be interviewed was 75 percent of the total. The number of non-response and the number rejected as unreliable were of average proportions in usual survey.

In this report we present only a summary analysis of the results. Further analysis will be carried out by members of the Committee, and the findings will appear in the near future.

#### 4. Summary of results

It is impossible to summarize the results of the third national survey in any large generalisations concerning the Japanese national character, but we list below some of the tendencies which we have observed. Further details may be found in chapter III, IV, V, and Appendices.

1) Comparison with the previous two national surveys. The results of the third survey show almost the same tendencies in this as in the previous surveys. Generally speaking, in the answers to all questions there is also a slight shift towards a greater preponderance of new tendencies. And this is usually due to a shift throughout all age groups rather than simply to the admission to the sample of a new young age group.

(see figure 1, page 118. The figure plots all the various possible answers to the 16 questions which were in common with the three surveys, and the replies are categorized in three groups; (○: progressive, rational opinions; ×: old, traditional opinions, △: intermediate opinions.)

2) Influence of the current of the times among the above mentioned 16 questions, which were in common with the three surveys, those to which the answers show marked changes in the three surveys are the followings:

- # 3. 9 'Prime minister and *Ise* shrine'
- # 4.10 'Necessary to adopt a child'
- # 8. 1 'Leave things to political leaders?'
- # 2. 4 'Attitude of life'

but only the answers of the question

- # 2. 1 'Should you follow custom?'

are the same as the previous surveys. (see, chapter III in Japanese part.)

3) The results obtained from the re-surveyed group show almost the same tendencies in this as in the third survey. (see, chapter V in Japanese part.)

## 5. Abbreviation of the Questions and Simple tabulations

Questions and Simple tabulations in Appendices should be read with the following abbreviations in mind.

1) The numbers following # signs in the questions exactly correspond to those in the book [10] "*A study of Japanese National Character*"<sup>1)</sup>.

also, § numbers in the English résumé in that book [10] correspond to { numbers in chapter IV and Appendix in this report.

2) Note on question and simple tabulation

全国・Ⅰ: in the tabulation is the finding of the First National Survey (1953)

全国・Ⅱ: the finding of the Second National Survey (1958)

全国・Ⅲ: the finding of the Third National Survey (1963)

1960 国調: 1960 Census

1959 岐阜: Scrutiny survey for the Second National Survey in *Gihu* city (1959)

1963 岐阜: Preliminary survey for the Third National Survey in *Gihu* city (1963)

In the table, italics shows the percentage and the number in parentheses ( ) in the Total shows the total sample size.

The order of category in the tables correspond with that of the Simple tabulation in the English résumé [10]

## 6. New items asked in the third National Survey

# 5.1c (show card) (cf. p. 152)

a) Suppose that you were the president of a company. The company decided to employ one person, and then carried out an examination for service. The stuff in charge reported to you.

"The result of your relative who took the examination was the second. But I could not find great difference between the result of the first and that of your relative".

In such a case, which of them do you employ?

a) the first in the examination

b) your relative

b) In the last question we supposed that in the examination the second was your relative. Supposing that the second was the son whose parents had been good to you in the past.

Which of them do you employ?

a) the first in the examination

b) the son of your benefactor

# 5.1d (show card) (cf. p. 153)

Which do you think is the most important thing in your life?

Please choose two among followings.

---

1) Research Committee of Japanese National Character, The Institute of Statistical Mathematics. August, 1961. SHISEIDO Pub. Co. Ltd.

- a) *Oya-koko* (filial piety, to be dutiful to one's parents)
- b) *On-gaesi* (repayment of a kindness, sense of gratitude)
- c) respect for the individual rights
- d) respect for the liberty

## # 5.1e (cf. p. 153)

Since the war, do you think Japanese are less dutiful toward one's parents than they were before the war?

- a) yes (less)      b) no (same, more)

## # 5.1f (c.f. p. 154)

Since the war, do you think Japanese have less regard for repayment another's kindness than they did before the war?

- a) yes (less)      b) no (same, more)

## # 5.1g (c.f. p. 154)

Since the war, do you think Japanese pay deeper regard to the individual rights than they did before the war?

- a) yes (deeper)      b) no (same)

## # 6.2c (c.f. p. 155)

On the whole, which sex do you think has more troubles of life, men or women?

- a) men                      b) women

## # 6.2d (c.f. p. 155)

Then, which do you think has more pleasure of life, men or women?

- a) men                      b) women

## # 7.5b (show card) (c.f. p. 157)

On the whole, which of the following opinions do you agree with?

Of course, according to circumstances or cases, there are differences among situation of matter, of which do you take a serious view, individual rights or public good?

- a) It is inevitable that the public good is more or less ignored for individual rights.
- b) It is inevitable that individual rights are more or less ignored for the public good.

## # 7.13c (show card) (c.f. p. 158)

Which of the following opinions is closer to your view about the thought in legislation?

- a) The law should be established in order that our daily life goes well.
- b) The law should be established in order that the social justice is put into practice.

## # 8.2e (show card) (c.f. p. 158)

Would you say that "Democracy" is a good or a bad principle?

- a) good                      b) depend on circumstance      c) bad

## # 8.2f (show the same card)

Would you say that "Capitalism" is a good or a bad idea?

# 8.3g ..... “Liberalism” ..... ?

# 8.2h ..... “Socialism” ..... ?

# 9.1c (show card) (c.f. p. 161)

From the list of words on this card, which seem to you to describe the character of the Japanese people best ?

Choose as many as you wish.

- a) *Ketin-bo* (stingy, niggardly)
- b) *Ki ga mizikai* (quick-tempered)
- c) *Zurui* (sly)
- d) *Nessi-yasuku same-yasui* (soon hot, soon cold)
- e) *Zannin* (cruel)
- f) *Keihaku* (insincere, frivolous)
- g) *Syunen-bukai* (vindictive, vengeful)
- h) *Simaguni-teki* (insular)
- i) *Goman* (arrogant)
- j) *Moho-teki* (imitative)

# 9.4 (show cards) (c.f. p. 161)

Here are about twenty cards each with the name of a famous Japanese person written on them. Please rank these persons yourself, dividing them according as follows ?

red cards inscribed as;

- 0: don't know (this person very well)
- 1: very respectable
- 2: respectable
- 3: not very respectable
- 4: disrespectable

persons;

- 01 *Syotoku-taisi* (564~622)
- 02 *Kobo-daisi (Kukai)* (774~835)
- 03 *Sugawara Mitizane* (845~903)
- 04 *Minamoto no Yoritomo* (1147~1199)
- 05 *Kusunoki Masasige* (1294~1336)
- 06 *Asikaga Takauzi* (1305~1358)
- 07 *Toyotomi Hideyosi* (1535~1598)
- 08 *Tokugawa Iyeyasu* (1542~1616)
- 09 *Nakae Tozyu* (1608~1648)
- 10 *Arai Hakuseki* (1657~1725)
- 11 *Ino Tadataka* (1745~1818)
- 12 *Ninomiya Sontoku* (1787~1856)
- 13 *Saigo Takamori* (1827~1877)
- 14 *Yosida Syoin* (1830~1859)
- 15 *Hukuzawa Yukiti* (1834~1901)

- 16 *Ito Hirobumi* (1841~1909)
- 17 *Togo Heihatiro* (Admiral Tōgō) (1847~1934)
- 18 *Nogi Maresuke* (General Nogi) (1849~1912)
- 19 *Meiji-tenno* (the Emperor Meiji) (1852~1912)
- 20 *Hara Takasi* (*Hara Kei*) (1856~1921)
- 21 *Noguti Hideyo* (1876~1928)
- 22 *Yukawa Hideki* (1907~ )

The Institute of Statistical Mathematics